

自己点検・評価報告書

令和 3 （2021） 年度

川崎医療短期大学

目 次

はじめに

I. 組織図	1
II. 役職者一覧	2
III. 委員会委員一覧	3
IV. 点検・評価	5
1. 大学の基本方針	5
2. 教育課程	7
(1) 教育課程の点検と改善	7
(2) 各学科の教育効果の推進に向けての取組と学修成果	12
看護科	12
医療介護福祉科	17
3. 学生の受け入れ	20
(1) 素質のある学生確保	20
(2) 入学選抜方法	21
(3) 特色ある広報活動	21
4. 学生支援	23
(1) 学生生活支援体制	23
(2) 健康の維持・管理	24
(3) 進路支援	25
5. 教員・教員組織	27
(1) 教員組織	27
(2) 研究活動の促進	27
(3) 研究活動環境整備	27
6. 社会連携・社会貢献	29
(1) 地域連携	29
(2) 高等学校との連携	29
(3) ボランティア活動	30
(4) 国際交流	30
7. 内部質保証	31
(1) 自己点検・評価活動	31
(2) 教員活動評価の実施	31
(3) 学生による評価	32
(4) 外部評価	33
8. 管理運営	35
(1) 新キャンパス移転に伴う整備	35
(2) 新型コロナウイルス感染症対策	35
(3) IR 室と点検評価委員会の連携	36

(4) 地球温暖化対策の実施	36
(5) このはな寮の運営・管理	37

[参考資料]

表2-1 看護学科教育課程表	38
表2-2 看護科ディプロマサプリメント	39
表2-3 学生による授業評価結果	40
表2-4 FD・SD 研修会一覧	41
表2-5 国家試験結果	42
表2-6 医療介護福祉科教育課程表	43
表3-1 在籍者内訳	44
表3-2 出身都道府県別在籍者数及び入学者数	44
表3-3 学科別入学試験結果概要	45
表4-1 就職支援に関するアンケート	46
表4-2 卒業生の進路状況	48
表5-1 専任教員数	48
表5-2 外部研究費の獲得件数	48
表5-3 教員研究費の決算	49
表5-4 教育・研究に係る機器及び備品・図書等の整備状況	49
表6-1 公開講座及び倉敷市大学連携講座一覧	49
表7-1 教員活動評価結果	50
表7-2 卒業後アンケート	51
表7-3 学生生活満足度及び生活実態調査（学修成果達成状況含）	57
表7-4 卒業生採用に関するアンケート調査結果	71
表8-1 岡山キャンパス工事 進捗状況	85
主要行事	86
令和3（2021）年度教職員一覧	88

あ と が き

は じ め に

本学の設置母体である学校法人川崎学園は、令和 2（2020）年に創立 50 周年を迎えました。昭和 48（1973）年に、「人をつくる 体をつくる 深い専門的知識・技能を身につける」という建学の理念のもと開設された本学は、令和 4（2022）年に創立 50 年目を迎えています。学園創立 50 周年の節目に、各施設の理念等の見直しを行った結果、本学では建学の理念を受け継ぎながら、医療と福祉の融合を目指し、かつ超高齢社会のニーズに応える人材の育成という視点から、新たに「人間（ひと）をつくる 体をつくる 医療福祉学をきわめる」という大学の理念を定めました。創立以来幾度かの改組を繰り返した結果、現在は看護科と医療介護福祉科の 2 学科体制になっていますが、大学の理念をもと、引き続き社会の要請に応えうる医療福祉人材の育成に努めてまいりたいと考えています。

本学は、昨年度一般財団法人大学・短期大学基準協会による機関別認証評価を受審し、適格と認定されました。平成 16（2004）年度に制定された認証評価制度のもと、平成 18（2006）年度、平成 25（2013）年度に続いて、令和 2（2020）年度は 3 期目の認証評価において、「自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗している」と高い評価を受けることができ、大学の理念に基づく学修成果の獲得への取組が確証されました。

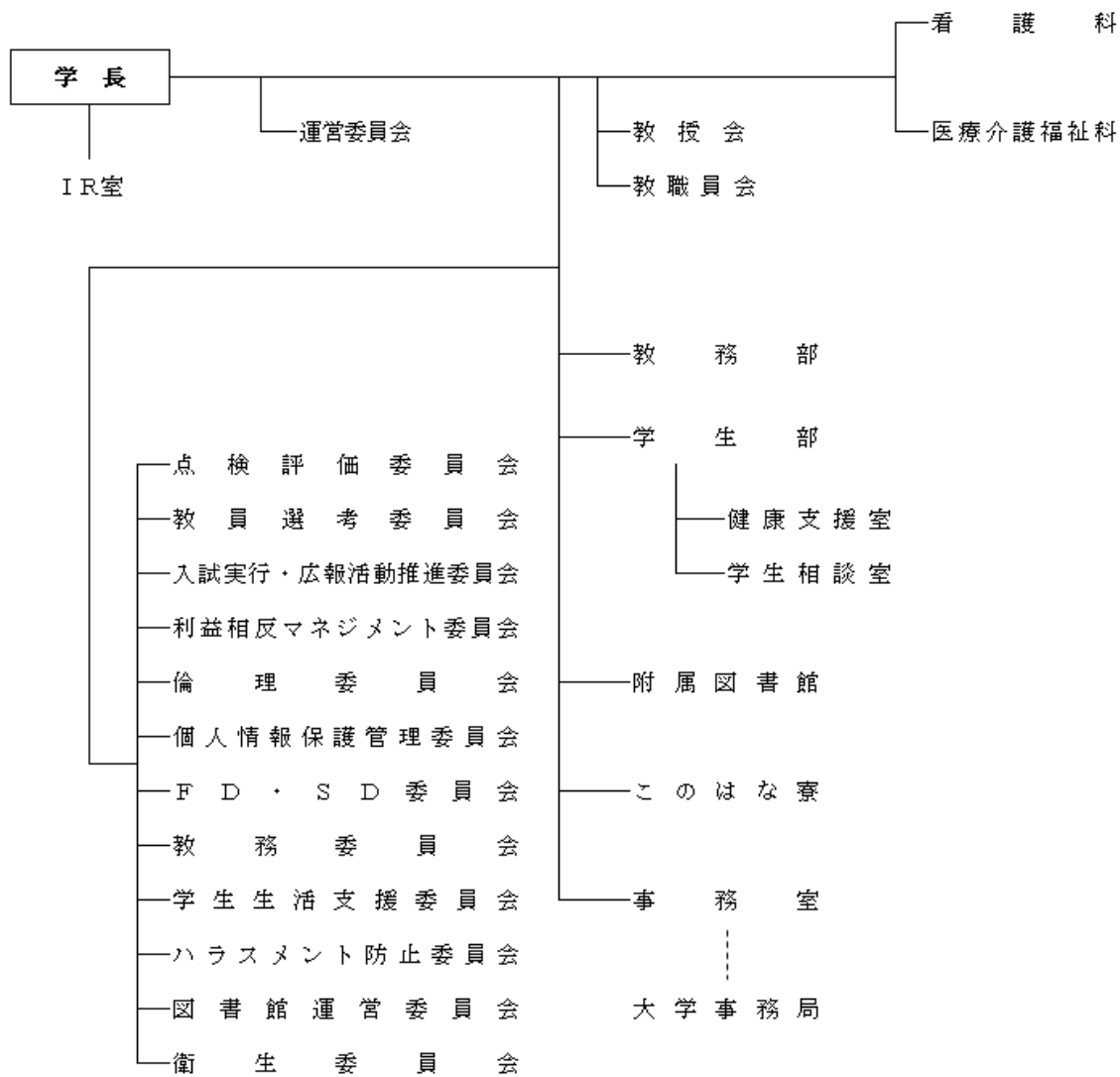
また、昨年度より自己点検・評価報告書を毎年取りまとめ、Web 上で公開することにいたしました。教職員一人ひとりが日々の自己点検・評価活動を積み重ね、適切なフィードバックを通じて改善につなげるとともに、組織としての内部質保証を図っていく方針です。最後に、本報告書作成にあたってご尽力いただいた教職員並びにご支援いただいた関係各位に御礼申し上げます。

令和 4（2022）年 12 月 1 日

川崎医療短期大学
学長 秋 山 祐 治

I. 組織図

川崎医療短期大学運営組織図（令和3（2021）年4月1日現在）



Ⅱ. 役職者一覧

令和 3（2021）年 4 月 1 日現在

役職名	氏名
学 長	秋山 祐治
副学長	新見 明子
教務部長	松本 明美
学生部長	新見 明子
教務部副部長	梶本 朋子
学生部副部長	黒田 裕子
看護科主任	岡田みどり
医療介護福祉科主任	山田 順子
看護科副主任	林 千加子
医療介護福祉科副主任	居村 貴子
附属図書館長	松本 明美

Ⅲ. 委員会委員一覧

令和3（2021）年度各種委員会等委員一覧

2021年度 各種委員会委員一覧

委員会	委員長・副委員長	委員
運営委員会	学長	副学長, 学長補佐, 副学長補佐, 教務部長, 学生部長, NS主任[指], CW主任[指], 事務長
教員選考委員会	学長	副学長, 学長補佐, 副学長補佐, 選考教員の所属学科主任, 教務部長, 学生部長
点検評価委員会	学長 副学長[指]	学長補佐, 副学長補佐, 教務部長, 学生部長, 各学科主任, 学外有識者(倉敷市), 事務長, 学生代表, (他学長認者) 教員活動評価:(副学長) 自己点検・評価:(副学長) 認証評価(2021年度まで): ALO(新見), A委員(秋山), B委員(松本明), C委員(樹本)
入試実行・広報活動推進委員会	学長 教務部長[指]	副学長, 学長補佐, 副学長補佐, 学料選任委員(NS主任, CW主任), 事務長, 事務室推薦委員(池田), (他学長認者)
利益相反マネジメント委員会	学長 副学長[指]	学長補佐, 副学長補佐, 教務部長, 学生部長, 各学科主任, 事務長, 学外有識者(医福大研究担当副学長)
倫理委員会	副学長[指]	学長補佐, 副学長補佐, 教務部長, 学生部長, 各学科主任, 事務長, 学識経験者(医福大研究担当副学長)
個人情報保護管理委員会	学長[指] 副学長[指]	学長補佐, 副学長補佐, 教務部長, 学生部長, 事務長, 学内情報ネットワーク運用責任者
FD・SD委員会	教務部長[指] 樹本[指]	学生部長[指], 重田[指], 掛屋[指], 平口[指], 事務長[指]
教務委員会	教務部長 教務部副部長	学科推薦委員(NS林・沖田, CW居村), 平口[指], 重田[指], 事務室職員(池田・大戸)
学生生活支援委員会	学生部長 学生部副部長	学科推薦委員(NS太田・三宅映, CW熊谷), 見尾[指], 養護職員[指], 事務室職員(池田)
ハラスメント防止委員会	学生部長[指] 小瀬[指]	学科推薦委員(NS水畑, CW熊谷), 事務室選出委員(足立)
図書館運営委員会	図書館長	学科推薦委員(NS日下, CW塩見), 図書館員(高津), 委員長認者(事務室課長)
衛生委員会	黒田[指] 影本[指]	学科推薦委員(NS藤井弓, CW塩見), 事務室推薦委員(松若), 衛生管理者, 他学長認者

任期: 2021年4月1日から2023年3月31日まで

2021年度 各種委員会ワーキンググループ一覧

ワーキンググループ(WG)	責任者	構成員
入試実行・広報活動推進委員会		
入試実施WG	副学長	副学長補佐, 教務部長, 学生部長, 各学科主任, 事務長, アドミッション・オフィサー, 事務室職員(池田・大戸)
広報活動推進WG	阿部[指]	各学科担当者, 事務室職員(池田・石原)
(オープンキャンパス・公開講座・ホームページ)		各学科担当者(オープンキャンパス): NS小淵, CW居村 (公開講座): NS山本直, CW常国 (ホームページ): NS松本佳, CW平口
広報制作WG	熊野[指]	CW平口, 見尾[指], 事務室職員(石原)
教務委員会		
学修支援WG	平口[指]	見尾[指], 学科推薦委員(林・沖田・居村)
学習管理システムWG	重田[指]	平口[指], 熊野[指], 学科推薦委員(林・沖田・居村), 事務室職員(大戸)
基礎教育課程検討WG	平口[指]	見尾[指], 事務室職員(大戸)
カリキュラム検討WG	林[指]	居村[指], 学科実務家教員(水畑, 小淵, 三宅映, 藤井弓, 糸島, 伊藤, 弘中, 吉井, 高橋, 室井, 松尾, 常国, 塩見, 藤井昌)
学内情報ネットワーク管理運用WG	重田[指]	CW平口[指]
学生生活支援委員会		
障害学生支援WG	学生部長[指]	各学科担当者(NS水畑, CW常国), 学生部副部長, 養護職員[指], 事務長, 事務室職員(池田)
就職支援WG	見尾[指]	各学科担当者(NS福武, CW常国), 学生部副部長, 事務室職員(池田)
健康管理WG	養護職員[指]	各学科担当者(NS太田, CW熊谷), 学生部副部長, 事務室職員(足立), (必要時) 医・衛生管理者
衛生委員会		
地球温暖化対策WG	影本[指] (衛生委員会副委員長兼務)	黒田[指], 衛生委員会学科推薦委員(NS藤井弓, CW塩見), 事務長, 図書館職員(高津), 設備係(濱波), 用務員(守屋) ※学園地球温暖化対策推進委員会: 医務短大から3名選出 (副施設長等, WG責任者, 事務長)

任期: 2021年4月1日から2023年3月31日まで

2021年度 ハラスメント相談室、IR室一覧

室	室長	室員
ハラスメント相談室	相談室長(ハラスメント防止委員会 副委員長兼務)小淵[指]	学科推薦委員(NS小淵, CW熊谷), 事務室職員(足立), 養護職員[指] 任期: 2021年4月1日から2023年3月31日まで
I R 室	室長・副学長	黒田[指], 林本[指], 平口[指], 重田[指], 池田[指], 大戸[指]

IV. 点検・評価

1. 大学の基本方針

【現状】

本学の設置母体である学校法人川崎学園が令和2（2020）年に創立50周年を迎えたことを機に、本学では大学の理念の見直しを行い、「人間（ひと）をつくる 体をつくる 医療福祉学をきわめる」と定めた。また、学内の各種方針についても点検評価委員会を中心に、必要な点検と必要に応じた改訂を行ってきた。さらに、本学は令和4（2022）年4月に岡山キャンパスに新校舎棟を開設するという大きな節目を控えており、新キャンパスでの教育環境の整備と共に、医療介護福祉科の3年制教育課程への移行に伴うカリキュラムの変更や看護科の指定規則改正に伴うカリキュラム改正を視野に今後も教育環境の充実を図りながら、以下に記す教育理念・目的・教育目標に基づき、社会の要請にこたえ得る医療福祉人の育成に努めていく。

〔教育理念〕

川崎医療短期大学は、大学の理念のもと、社会に貢献できる専門的な医療福祉人を育成することを教育理念とする。

〔目的〕

川崎医療短期大学は、教育基本法及び学校教育法に基づき、有能にして社会の要請にこたえ得る医療福祉関係の専門技術者並びに業務従事者を養成することを目的とする。

〔教育目標〕

川崎医療短期大学は、大学の理念と教育理念のもと、目的を実現するために以下のような教育目標を設定する。

1. 健やかな心と体をもつ。
2. 医療福祉の専門的知識・技能を身につける。
3. 自ら学び続ける精神をもつ。
4. 多様な人々を理解し共感する心を育む。
5. 医療福祉人としての高い倫理観と責任感をもつ。

これら大学の理念を始めとする各種方針は、新入生に対して入学時合同研修や必修科目である「保健医療福祉概論」で講義されたほか、上級生に対しても継灯式（看護科）や実習出発式（医療介護福祉科）など機会あるごとに意識付けを行った。また、大学ホームページやキャンパスガイド等を用いて、広く社会へ周知している。

看護科では、令和4（2022）年に改正される指定規則に対応した新カリキュラムを作成した（表2-1）。医療介護福祉科においては、本年度から3年制の教育課程が開始となったが、新旧教育課程の同時進行を怠りなく進めることができた。

【課題】

新型コロナウイルス感染症による教育への影響については、昨年度の経験を踏まえ、講義はオンライン授業や感染対策を講じた講義・演習を可能な限り進めることができた。しかしながら、臨地実習では、期間の短縮、日程変更や学内実習の振り替え等学修成果の獲得に本

年度も苦慮した。また、大学行事、学科行事においても中止・縮小を余儀なくされ、社会性や行動力等を育む機会が減少した。

【改善への方策】

感染防止対策を十分にとった上で、直接指導ができる体制を整えるとともに、繰り返しの視聴などオンラインのメリットも活用して教育効果を高め、学外実習においては、施設一大学間の緊密な連携を図ることにより、学生の学びの機会の低減を避ける。大学生活全体としては、学年担任を中心とした教員のきめ細かい指導により、十分な学修成果の獲得と教育目標の到達を目指す。

2. 教育課程

(1) 教育課程の点検と改善

昨年度に引き続き令和3（2021）年度は本学において、教育課程改正の大きな変革時期であった。医療介護福祉科は本年度から「社会福祉士介護福祉士養成施設指定規則」の改正による教育課程の変更及び、2年制から3年制への修業年限変更に伴う新カリキュラムでの教育を開始した。看護科は令和4（2022）年度からの「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」の改正に伴い、教育課程を刷新し、文部科学省へ変更を申請し認可された（表2-1）。

また、令和4（2022）年度からの岡山キャンパスへの移転を控え、川崎医科大学、川崎医科大学附属病院、川崎医療福祉大学及び川崎リハビリテーション学院所属の非常勤講師の担当科目を調整し、新カリキュラムの医学系科目は岡山キャンパスに近い川崎医科大学総合医療センター所属の医師等を、新たに非常勤講師に招聘すべく準備を整えた。さらに岡山キャンパス内の講義室の収容人数を加味した教室を基軸とした時間割作成を行い、4月から始まる新校舎での授業に万全を期した。

令和2（2020）年1月から日本国内でも発症が認められた新型コロナウイルス感染症は終息の兆しもなく、本年度も岡山県緊急事態措置により一時期遠隔授業の形で教育を継続した。昨年度の遠隔授業実施についてのアンケート結果を生かし、各授業担当者は工夫を重ねて遠隔授業の実施に当たった。

1) 教育課程の点検

【現状】

2学科共に基礎分野については、令和2（2020）年度の自己点検・評価において確認された課題に対する改善を図った。すなわちディプロマ・ポリシーのひとつである「健全な心身を育む」に適うよう、両学科とも「健康体育基礎理論」と「健康体育基礎演習」の2科目を開設するとともに、「健康体育基礎演習」を必修科目とした。また、リメディアル（補習）教育に相当する科目を強化するために、2学科とも新たに「自然科学入門」を配置した。看護科はこの科目に、専門基礎科目や専門科目に必要な物理学・化学・生物学・数学に関する重要な内容を盛り込んだ。医療介護福祉科は従来、理数系科目としては生物学しか開講していなかったが、介護福祉士に必要な物理学・化学・生物学・数学の基礎的知識とWebを用いて情報を検索・収集するスキル、集めたデータを基に論理的文章をまとめる力を育む内容も加えた。これは従来の科目枠にとられない効果的なリメディアル教育をねらったものである。

さらに看護科では、令和3（2021）年度から、数理・データサイエンス教育の充実を図るため、選択科目であった「情報処理Ⅰ」を「情報処理演習」として位置付け、必修科目に変更した。また、データを解析し科学的に証明する手法に欠かせない「統計学」を新たに設け、この科目も必修科目とした。その他、過密なカリキュラムの緩和を目指すとともに、医療福祉のベースとなる「保健医療福祉概論」の内容を厳選し、30時間から15時間に変更した。

教育課程は、教育を提供する側（大学）だけでなくこれを受ける側（学生）も十分理解したうえで学修をすすめることで学修成果の達成に結び付く。学生が体系的に編成されているカリキュラムの全体像がつかめ、学修の順次性や科目間の関係性が理解しやすくなるよ

う、授業科目とディプロマ・ポリシーとの関連を示したカリキュラムマップと、授業科目間の関連性や順次性を示したカリキュラムツリーの両方を、令和3（2021）年度入学生から明確に示し、オリエンテーションを通して学生の理解を深めた。作成に当たっては、教育課程の編成や履修順位・履修要件を点検し検討を重ねた。本学は両学科とも国家試験受験資格を基本に指定規則に沿った教育課程であるため、ナンバリングを活用した自由度の高い科目選択は難しい側面がある。しかし、ナンバリングは教育課程の体系的な編成や教育課程の可視化に寄与することから、カリキュラム改正に伴う修正を加え学生に周知した。

次年度から本学は岡山市へ移転する。本学の非常勤講師の87%は、倉敷市松島にある医科大学、附属病院、医療福祉大学、リハビリテーション学院の医師・医療従事者や教員らで占めている。また移転先である岡山市の新校舎棟に体育館はなく、健康体育基礎演習の授業は本学所有の松島キャンパスの体育館を継続して使用する。そこで、健康体育基礎演習の授業に伴い松島－岡山間の学生の移動時間削減のため、健康体育基礎演習の授業日には松島キャンパス体育館講義室での授業を計画した。また、看護科の医学・基礎医学系科目では医科大学や附属病院所属の非常勤講師を招聘しているが、令和4（2022）年度入学生から新カリキュラムでの教育となる。したがって次年度は旧カリキュラムの医学・基礎医学系の授業は引き続き、松島が勤務地である学園内非常勤講師に依頼し、松島キャンパスで授業を実施する。1年次の新カリキュラムからは、新たに岡山市の総合医療センターの医師及び医療従事者を招聘し、岡山キャンパスで授業が実施できるよう準備した。新任予定の非常勤講師には本学の教育理念・3つのポリシー、教育目標及び教授内容や国家試験の出題傾向に至るまで入念に打ち合わせを行った。

卒業時における教育の質保証の取り組みとして、医療介護福祉科では令和元（2019）年度卒業生から学修成果や活動を証明するディプロマサプリメントを発行している。看護科は学修成果の評価軸についての検討に時間を要したが、令和3（2021）年度卒業生からディプロマサプリメントを発行した（表2-2）。

【課題】

令和3（2021）年度の授業科目の分野別GPCA（Grade Point Class Average）は、基礎分野（2学科共通）2.97、看護科専門基礎分野2.66、看護科専門分野1.91、医療介護福祉科専門基礎分野2.83、医療介護福祉科専門分野2.68であった。両学科共に学修内容がより深く複雑になる専門分野のGPCAが低くなる傾向にある。ただ、大きな課題として看護科に今年度から配置した、リメディアル（補習）教育に相当する「自然科学入門」のGPCAが1.25と、基礎分野の平均から大きく下回っていた。これは学修成果の達成状況が低迷していることを示している。すなわちこの授業科目は、高校で生物や化学を履修していない者の履修がほとんどであるため、理数系科目が得意でない学生への基礎学力の底上げが課題となる。

教育環境に関しては、次年度からは両学科とも1年次前期は週に1日松島キャンパスで授業を実施するが、学修環境の保持、資料や教材の運搬、非常勤講師への対応なども課題である。

次年度医療介護福祉科は3年制の新カリキュラムでの教育の2年目をむかえる。新カリキュラム完成年度に向け、医療的ケアをはじめチーム医療の中で優れたメンバーシップを発揮できるための病院実習等の最終調整に入っていく。

看護科は本年度卒業生からディプロマサプリメントを発行した。しかし、ディプロマサプ

リメントの評価軸の要となる実習評価の精度を上げる課題が残っている。本年度の私立大学等改革総合支援事業申請校 554 校中では、38%しか学修成果の可視化としてディプロマサプリメントの取り組みを実施していなかった。このデータからみるとまだまだ就職先関連への活用は先になりそうであるが、本学としてはデータ蓄積後、成果を分析し教育の質保証への活用へとすすめていく。

【改善への方策】

「自然科学入門」については前期成績確定直後の9月に、学科教務担当者を交えた拡大基礎教育課程ワーキンググループ会議を開き、学生の反応を含め授業内容、教授方法の確認、学修成果の目標の修正等を行った。1月には改善に向け具体的な教育内容、教授方法、担当者、使用テキスト等の抜本的見直しを行った。次年度はこのリメディアル教育と位置付けた授業科目を十分機能させていく。

岡山キャンパス移転後の松島キャンパスでの授業に関しては、非常勤講師への対応、パソコンやプロジェクターの管理、教材や資料の準備・配付、災害時の学生避難誘導等の必要性から教職員の適切な配置が望ましい。遅滞なき実施に向け、適切な管理・運用をすすめていく。ディプロマサプリメントに関しては、看護科は引き続き評価軸の検討を継続することと、両学科とも令和6（2024）年度まではデータを集積し、学修成果を確認するとともに教育の質保証に活用していく。

2) 教育方法の改善

【現状】

昨年度より、新型コロナウイルス感染症の拡大に対する教育の質低下を懸念し、教育方法の改善を進めてきた。5月16日からの岡山県緊急事態措置時には1か月間は急遽遠隔授業と準備期間が少なかったが、一部科目を除きスムーズに移行できた。これは新型コロナウイルス感染症の発生状況の予測に基づいた早期からの準備と、昨年度実施した遠隔授業に関する学生や教職員のアンケート等が生かされた結果といえる。また、教員自身の教材作成技術の向上を目的として、計画的なFD研修を実施できた成果でもある。岡山県緊急事態措置解除後は、引き続き収容人数の半数の座席数での講義を開始し、最大限の安全対策を講じながら対面での授業を再開した。臨地実習は受入れ先からの人数制限やケア時間の短縮などを受け、一部学内実習への変更を余儀なくされた。しかし、感染予防対策下での臨地実習を継続することができた。看護科では、実習時間の制限に対応するため、シミュレーション人形を新たに購入し、人体モデルを活用したシミュレーション演習を充実させた。また本学では、臨地実習を除く開講授業科目の81%に、PBL（課題解決型学習）、グループワーク、ディスカッションなどのアクティブラーニングを取り入れている。遠隔授業の実施時期には、例年通りのグループワークやディスカッションの実践は難しかったが、岡山県緊急事態措置解除後は感染予防対策を図りながら本年度は計画どおり実施できた。

シラバスの充実については、関連する他の授業科目の記載や自習時間の明記とともに、文章の表現をわかりやすくするなど、シラバス研修会を開催し教員の理解と運用改善への協力を要請した。また、シラバスシステムが変更されるにあたり、授業日や授業担当者などの記載がわかりやすくなったことと、電子出席簿等と連動できるシステム化が図られた。

今年度は対面での授業が確保できたため、例年行っている「授業評価」では、前期は遠隔

授業の質問項目を追加して実施した（表 2－3）。授業の基礎的事項、授業内容の工夫や環境づくり等学習の推進に関する事項については 13 項目中 10 項目で前年度より改善がみられた。しかし本年度も、評価項目全体の中では授業外学習（予習・復習含む）の項目が低い傾向にあった。今年度の学生参画 FD では、前年度立てた改善対策を生かし、成績優秀者のみの参画とならないよう配慮した。学生から授業外学習の時間を延ばす為には、事前・事後学習しやすい資料の提供、授業プリントの工夫、復習と予習の両方がしやすいような具体的なシラバスへの記載等活発な意見が出された。いくつかの意見は早速後期の授業に反映され、それらも相まって授業外学習が後期は 4.0 に改善された。とはいえ一人暮らしや自宅通学生など、置かれた環境が異なる中、それぞれ予習や復習の時間を取ることに苦労している現状が学生から語られた。遠隔授業の課題量に関しては、前年度実施のアンケートでは多くの学生が課題の多さを指摘していたが、今年度の授業評価では 4.4 であり適正だったといえる。また本学としては学生参画の FD を今後も続けていき、学生の意見・要望を大切にしながら教育方法のさらなる改善に努めていく。

FD・SD 研修会については、感染症対策を講じて実施し、教育方法の改善に寄与している。なお、当日公務等で参加できない教職員に対しては、Web 上で後日視聴できるよう対応を継続した（表 2－4）。

【課題】

遠隔授業に関しては、受講する学生の生活リズムの確保が必要である。昨年度の調査結果より今年度は、深夜に受講する学生が減少したが、まだまだ不規則な生活をしている学生がいる。また、「授業評価」では、本年度も授業外学習（予習・復習含む）の項目が最も低い結果となった。授業資料に予習や復習の資料を入れることや、課題を出して予習や復習がしやすいようにするなどの工夫を継続して実施するとともに、全教員へも学生の授業外学習を促すよう周知していく。また、令和 4（2022）年度から講義支援として Web Class が導入されるにあたり、Moodle からの円滑な仕様への移行を進める必要がある。アクティブラーニングに関しては、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら今後も積極的に取り入れ学修効果を高める。

【改善への方策】

遠隔授業が今後実施される場合は、学生の生活リズムの確保のために、対面授業のように時間割どおりの授業展開を図っていく。また、次年度も何らかの実習制限が続くようであれば技術経験の低下を防止するため、シミュレーターを使用した学内実習や演習を充実させ、アセスメント能力の向上や技術の修得を目指していく。シラバスに関しては、Web Class との連動により活用しやすくなったため、学生へ活用をアプローチしていく。さらに教員へは、継続して記載内容の見直しや表現を工夫するなど理解と運用改善への協力を要請していく。次年度看護学科は新カリキュラム 1 年目、医療介護福祉学科は新カリキュラム 2 年目となる。「授業評価」を継続して行い、教育の質を維持・向上できるよう進めていく。

3) 学修に関する支援

【現状】

本学が全学的に実施している学修支援は、①入学前学習、②新入生オリエンテーション、③社会人基礎力の育成、④個別指導の強化、⑤教材の Web 化である。さらに各学科において

は、基礎学力支援、国家試験対策等を行っている。

令和3（2021）年度から本学・医療福祉大学・リハビリテーション学院との3校合同入学前教育プログラム（Kラーニング）を開始した。このKラーニングは、医療福祉大学総合教育センターの全面協力のもと実現し、各大学・学科で採用する学習教材を選択することができる。本学では入学後の学修と関連が深い、数学・英語・国語・医療福祉基礎の4科目を選択した。また本学独自の入学前教育であった漢字ドリルや新聞の書き写し、各学科の課題等はDラーニングとして継続し、入学に向け基礎学力強化を推進した。それらに連動させる形で入学予定者を対象に12月と3月にキャンパスカミングデイを開催した。前年度は新型コロナウイルス感染症蔓延のため12月開催の1回目のキャンパスカミングデイはZoomのみであったが、本年度は12月・3月とも来学とZoomのハイブリット型で開催した。本年度の参加率は、来学での参加が12月29.7%、3月は53.9%と前年度とほぼ同等であった。しかし参加形態での内訳をみると、本年度3月は来学での参加者が91%、Zoomが9%であり、昨年の同時期の来学での参加者が55%、Zoomが45%に比べ、今年度はほとんどの方が直接会場に足を運ばれた。3月開催の参加者を入試区分でみると、総合型選抜51%、学校推薦型選抜前期28%、学校推薦型選抜後期10%、一般選抜前後期11%であった。一方、それぞれの入試区分別の参加率を出してみると、一般選抜前後期64%、総合型選抜61%、学校推薦型選抜前期60%、そして学校推薦型選抜後期27%の順で、一般選抜群の参加率が高かった。今年度は一般選抜前後期の入学予定者はKラーニングを受講していないため、別途教材を準備し工夫しながら強化授業を実施した。強化授業については「役に立った」「少し役に立った」と答えた受講生が92%と高かった。また、交流会については「役に立った」「少し役に立った」と答えた受講生が84%であった。

令和3（2021）年4月から学則に「1単位の授業時間を45時間の内容をもって構成する」ことを明記した。これに伴い新入生オリエンテーションでは、授業時間外の学習の重要性を強調した。

昨年度に引き続き本年度も入学前学習・キャンパスカミングデイ・入学時の履修等のオリエンテーションについて、実施時の評価だけでなく、1年次終了時点でそれらが生かされているか学生の満足度を確認した。その結果いずれも高い満足度を示した。

本学の特徴的な授業科目として、新入生全員を対象に大学の理念の浸透、社会人基礎力の育成、医療福祉学の基礎となる知識の獲得を教育目標とした「保健医療福祉概論」を開講している。令和3（2021）年度からは、全学的な基礎分野の見直しで授業回数を8回とし、新型コロナウイルス感染症予防に留意しながら、双方向性の高い授業を工夫し、医療福祉人に必要不可欠なコミュニケーション力や課題発見・解決力を育めるように授業を展開した。これにより社会人基礎力である能動的・主体的学修姿勢、考える力、協働できる社会性の育成を図った。

本学ではGPAの活用の一環として、GPAや出席状況を基に学修意欲の低下に伴う留年が予測される学生を抽出し、学修や生活の支援・指導を行う個別指導システムを開発し運用している。その記録を電子化し学修成果の改善が認められるまで継続的に支援し、指導記録をシステム化して活用している。これにより「担任」、「アドバイザー」、及び「国家試験チューター」による指導の効率化を図っている。

令和4（2022）年度から、川崎学園3大学（本学、医科大学、医療福祉大学）の共通シス

テムとして、Web 上への教材の公開、教材サイトや動画サイトなどのマルチメディア教材へのアクセス、レポートの提出など、e ラーニング等に対応可能な講義機能を含んだ教育システム「Web Class」の運用が開始となる。令和 3（2021）年度はその準備期間として、本学では全教職員対象に「Web Class 講習会」を開催した。令和 4（2022）年度からは e ラーニングに関するシステムを「Moodle」から、教務システムと連動している「Web Class」に変更する。しかし、教員間での ICT 活用技術の格差が大きいため教材・資料等の全面移行は据え置き、次年度は「Moodle」の併用も可能とする計画を立てた。そして引き続き「Web Class 講習会」の応用編等を開催し、ICT リテラシーを高め教材の Web 化を含め円滑な運用を図っていく。

【課題】

キャンパスカミングデイに参加した入学予定者の意見ではあるが、入学前学習の K ラーニングでは、「数学・国語・英語」の難易度は「少し難しかった」が最も多く 69%、「医療福祉基礎」については「少し易しかった」が 59%と最も多かった。D ラーニングの難易度は「少し易しかった」が 49%、「少し難しかった」が 44%と二分されている。本学の入学者のほとんどが、入学者選抜では「基礎学力確認テスト」を受験している。この入試結果をみると学力の高低差が大きい。高校までに学習習慣がついているか否かで、大学入学後の成長や大学院への進学率に弱い相関があるという研究結果がある。特に総合型選抜や学校推薦型選抜前期のように、早い入試区分の入学予定者の継続した学習習慣の維持が大切である。その意味でもこの専願入試区分の入学予定者の 12 月実施のキャンパスカミングデイへの参加率を上げることが課題だといえる。

令和 4（2022）年度からの「Moodle」全面撤廃は見送った。しかし、岡山県緊急事態措置の再発令により遠隔授業の再開となると「Web Class」と「Moodle」の 2 本立てでは学生の利便性を損なう。また、今後進展するペーパーレス化を見据えて、「Web Class」による教材の提供を進めていかなければならない。

【改善への方策】

12 月実施のキャンパスカミングデイへの参加を促すためには、令和 3（2021）年度のようにホームページ上での案内だけでは十分とは言えない。合格通知書にチラシを入れるなど個人の目にとまりやすい案内をしていく。また、入学時の「基礎学力確認テスト」の成績下位者に対しては、K ラーニングの学習状況をモニタリングし、進捗状態によって学習を促す支援を行う。K ラーニングの基礎学力テスト結果を学習前と学習後で比較し、得点の改善がみられない場合は入学後の履修指導や基礎学力支援につなげ、入学前から入学後まで一貫した学力支援を展開していくことで、入学後の専門基礎・専門科目の学修成果の獲得に繋げていく。

「Web Class」へ円滑に移行できるよう、教務委員会と FD・SD 委員会が協力しリテラシーの漸進に向け研修会を実施する。新型コロナウイルス感染症の急増等で遠隔授業が再開となった場合は、「Web Class」に 1 本化することとしているが、そのために必要となる教員へのサポートは、教務委員会学習管理システムワーキンググループが中心となっていく。

(2) 各学科の教育効果の推進に向けての取組と学修成果

看護科

看護基礎教育において「第5次カリキュラム改正」を翌年に控えた令和3（2021）年度、本学科では新たに構築したカリキュラムを文部科学省に申請し認可された。さらに令和4（2022）年度の岡山キャンパス移転後の教育環境の変化を視野に入れ、より学習効果の上がる教育環境・教育体制整備に向けた準備を行った。前年度に立ち上げたカリキュラムワーキンググループを中心にカリキュラム編成、教育内容を見直した。

1) 教育方法の改善

【現状】

(ア) カリキュラム改正に対応する新たなカリキュラム構築（表2-1）

今回の改正指定規則で求められたのは、高齢化社会の進展に伴う看護ニーズの変化に応じた看護教育で、具体的には①看護拠点の地域・在宅への拡大に伴う地域包括ケアに関する学習の充実、②臨床判断能力強化のための科目新設、③領域横断等の柔軟なカリキュラム編成などである。本学科の現行カリキュラムの問題点として、学年における科目配置の不均衡、領域間で重複の多い教育内容、既習知識を基盤に対象に合わせた看護実践へとつなげる統合科目の少なさ、多職種連携、地域包括ケアの理解を深める履修科目の不足があったため、カリキュラム改正の主旨と合わせて教育内容を見直した。

まず、新たに構築したカリキュラムの特徴として、令和4（2022）年度入学生（50期生）から、卒業要件単位をそれまでの104単位から108単位に増加し、専門分野を専門分野Ⅰ・Ⅱ、統合分野のように区分せず専門分野に1本化した。①については、現行の「在宅看護論」を対象や療養の場の多様化に対応できる内容「地域・在宅看護論」として1～3年次を通して学ぶ科目に位置付け、1年次に「看護フィールドワーク論」を新設した。地域に暮らす人々の生活や支援活動の実際を学ぶため、岡山市内の地域包括センターを新たなフィールドとして開拓した。また、リハビリテーション学院との相互学習をとおり多職種連携の理解を深める「ケアマネジメント論Ⅰ・Ⅱ」を新設した。②臨床判断能力に必要な基礎的能力強化のために、現行の「人体の機能Ⅰ・Ⅱ」「人体の構造Ⅰ・Ⅱ」を再編の上、人体の解剖・生理学の知識を基盤に看護の視点から更に学習を深めるために「看護解剖生理学」を新設した。各専門領域の学習が進んだ段階で、各事例をもとに臨床判断し対象に応じた看護実践力を高める「臨床看護アセスメント」も新設した。③今回のカリキュラム改正で大学の特色を生かした柔軟な科目構成が可能となった。病態だけでなく、対象がおかれた状態・状況をアセスメントし総合的判断力を育成する「臨床看護アセスメント」をはじめ、「周術期看護論」「保健指導論」「薬物療法と看護」「終末期看護論」「家族看護論」の領域横断科目も新設した。現行では領域ごとに分断し教授していた内容を、成長発達段階は異なる対象でも同じ治療、同じ状況下での看護活動について学習できる科目編成にした。

この他にも、学年進行とともに系統的に履修することで学習を積み上げ、学習内容を統合し理解を深めるための「看護倫理学」「総合看護演習」の新設、「基礎看護学実習Ⅱ」「領域実習」の学習内容の充実など、学習効果を高めるより進化したカリキュラムを構築した。

(イ) 新型コロナウイルス感染下での看護教育の継続

令和3（2021）年度も、新型コロナウイルス感染症が蔓延した期間（約1か月間）は、昨年度と同様に対面授業を中止しオンデマンド型授業に切り替えた。令和2（2020）年度は、遠隔授業用の教材作成から動画配信など全てが初めての取り組みで、教員側の遠隔授業準

備にかかる負担の増大や学生へのフィードバックのしにくさ、授業後の課題の多さなどが問題視されていた。教員の IT スキルアップや、各教員が学生への負担軽減など課題改善に向けた取り組みを行ったことで昨年度より遠隔授業を円滑に進めることができた。

【課題】

(ア) 次年度は、岡山キャンパス移転と新カリキュラムでの運用を同時に控えており、現行カリキュラムの2年次、3年次科目を未履修あるいは次年度再履修する学生が既に数人存在する。次年度入学生（50期生）が新カリキュラムの科目を履修する一方、現行カリキュラムの下位学年科目を再履修する学生において、新旧科目の読み替えて履修できない場合は、別途開講し履修計画を立てなければならない。さらに、新カリキュラムの「健康体育基礎演習」は松島キャンパスの体育館を利用する予定で、岡山－松島キャンパス間の移動による学生負担を最小限にした授業計画も必須となる。このように、次年度は新旧カリキュラムの混在、岡山－松島キャンパス間移動という複雑な履修状況が予測され、時間割調整が大きな課題となる。

(イ) 教育環境では、現校舎棟の看護実習室が基礎／成人・精神領域が6階で2室、母性・小児／老年／在宅領域が3階で3室に分かれており、3室を同時に使用してもワンフロアでの使用は困難で多人数での同時演習は組めない状況にある。演習科目によっては、120人を1グループ10～15人編成にして10回転以上ローテーションしないと全員の演習が終了しないものもある。一方、2室に分かれた6階実習室でも15台ずつ成人用ベッドが設置されているが、2室で異なる技術項目の演習は可能でも一度に大勢の全員が同じ技術演習に臨むことは設置されている設備、器材、看護用具数から従って、不可能である。講義だけでなく学内演習の組み合わせや展開方法も時間割調整を難しくする要因になっている。

【改善への方策】

(ア) 次年度の新旧カリキュラム混在の科目履修、及び2つのキャンパス間の移動を前提とした授業計画に関しては、非常勤講師とも調整し学生・教員双方の負担を最小限にした時間割調整を行う。

(イ) 教育環境の整備については、新キャンパスの看護実習室の構造が母性・小児実習が可能な母子コーナーを含めたワンフロア型になり、成人用ベッド30台が設置された広い空間での実習が可能になる。新キャンパスには実習室フロアの中央にスライディングウォールが設置されており、実習室を2室に区切ることができる設計である。これにより、従来の45人3グループ別の演習体制のみでなく、2クラス（約60～70人）、1クラス（約120人）と演習内容に合わせ授業設計が自由にできるようになる。一度に演習する学生数が増えてもきめ細やかな実技指導ができるように補助教員の増員や、教員のデモンストレーション時に手元が見えにくい手技の動画を撮影しながら大型スクリーンに映し出し視聴できるシステムを設置するなど、より教育効果の上がる演習方法を計画する。また、看護学科専用の在宅実習室は設置しないため、和室や低床ベッド、簡易浴槽など医療介護福祉学科の設備・備品を共有し効率よく運用できるよう2学科で検討する。

2) 学外実習への取組

【現状】

令和3（2021）年度も新型コロナウイルス感染状況が続き、病院側の学生受入れが困難に

なった時期に約1か月間学内での代替え実習を行った。昨年度と同様に老年・在宅・精神看護領域では全期間学生受入れが困難な施設があったが、全体としては前年度より1/4施設に減り、臨地での実習期間も昨年度より2倍増加した。臨地では感染予防行動を遵守しながら実習を行った。臨地実習期間中は領域別実習、基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱの期間とも一人の感染者を出すことなく、施設側の協力もあって学習継続できた。

ただし、実習時間、学生人数、患者との対面時間の制限など制約された中での臨地実習となった。臨地での体験学習の機会が減少したことから、臨地実習終了後の調査において技術経験率が従来に比べ10%低下していた。学生満足度調査でも「看護技術の水準への到達」や「実践力の修得」に関する質問項目に対し「技術力、実践力があまり身につけていない」と自己評価した学生が多かった。

【課題】

新型コロナウイルス感染拡大の影響が大きかった令和2(2020)年度に比べると、令和3(2021)年度は実習施設数、実習時間の確保はある程度改善された。しかし、患者・利用者に関わる機会が減り、家族と接する機会もない状況から臨地での実習経験は十分とはいえず、臨床現場で現実感のある看護に触れる機会、経験する機会が減少した。コロナ禍においてやむを得ない状況とはいえ、技術経験率、看護実践力修得の到達状況にも影響をおよぼしていた。実習機会の不足で獲得に影響を受けそうな看護実践能力は、コミュニケーション力、対象理解、知識と技術の統合、臨床判断能力、チームワーク力などである。コロナ収束がみえない状況下でも実践的で質の高い教育が行えるように、臨床の再現化が可能なシミュレーター学習を豊富に取り入れ、体系的・段階的に学習を深める必要がある。

【改善への方策】

現状ではコロナ禍での臨地実習が継続される以上、今後も患者・医療者への影響を考慮し、学生の感染リスクを減らし安全な実習を展開できるよう計画する。学生にはコロナワクチン接種の推奨はもとより、健康管理、感染予防行動の遵守を徹底したうえで、対象者との関わりや直接的ケア実施の機会を増やすなど、学習の機会を確保できるように臨床側の理解と協力を得ていく。

学内実習の充実を図るため、本学科では令和3(2021)年度末に文部科学省推進の「大学改革推進等補助金事業(ウイズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業)」に応募し認可された。これにより、追加購入したシナリオ型シミュレーション全身人形(多職種ハイブリッドシミュレータ人形)を活用し、臨床の再現化が可能な学内演習が充実する。各事例シナリオに基づいたシミュレーションの様子を動画教材として活用することで複数の学生が同時に視聴でき相互学習の機会も増やすことができる。臨地実習と学内実習を上手くつなげる学習システムの活用により、カリキュラム改正で求められるフィジカルアセスメント力、臨床判断能力、コミュニケーション力の育成といった看護実践力を高めることが期待できる。

3) 学修成果

【現状】

本学科の第一義的な学修成果は、看護師国家試験合格率、進路決定率である。令和3(2021)年度卒業生(47期生)の第111回看護師国家試験合格率は97.7%で全国91.3%をはるかに

上回ることができた（表 2－5）。国家試験不合格者を除いた進路状況は、就職率 100%、進学者は助産師課程に 2 人、保健師課程 1 人であった（表 4－2）。一方、修業年限内の卒業が困難だった学生の留年率（休学含む）は 11.4%（過去 5 年平均 14.7%）、退学率は 4.3%（過去 5 年平均 6.7%）と留年・退学者はいずれも減少した。留年に至った理由は成績不振、退学理由は適性への悩みや健康上の問題による進路変更であった。

本学科が定めている学修成果は 5 つ「看護専門知識」「科学的思考に基づいた看護実践力」「看護を探究する力」「関係形成力」「社会性・倫理観」である。卒業時に学生自身による学修成果の獲得状況の調査を学生満足度調査と合わせ実施した結果、47 期生の自己評価では「看護専門知識」に対して「そう思う」「おおむねそう思う」と肯定的評価の学生が 96%と最も多かった。その他の 4 つの学修成果はいずれも 90%以上で肯定的評価であった。

学修成果の評価はこのような間接評価だけでなく、成績評価を含む直接評価で客観的に評価する必要がある。本学科では令和元（2019）年度よりディプロマ・ポリシーに定められた資質・能力を直接的に測定するシステム構築を検討してきた。その有効な手段として、通算 GPA 及び実習評価表を測定用具として活用する方法を取り入れ、令和 3（2021）年度より学修成果を可視化できるディプロマサプリメントを発行した（表 2－2）。学修成果の測定指標には、間接評価項目と同様に 5 つの学修成果の項目を活用した。実習評価表は 8 領域が各実習の目的・目標に合わせ評価項目を設定し、項目ごとの重みづけも領域間で異なっているため、各領域の評価項目と学修成果項目との整合性が課題であった。この問題点に対して学修成果ごとに評価観点を設け、それに適合する各領域の実習評価項目を抜粋あるいは包括し評価項目として適用した。さらに、学生の主体性や探究心、関係形成力などはペーパーテストのように一律に評価できないうえに教員によって評価精度に差が生じるリスクもあったため、ルーブリックを用いた評価観点とした。これにより実習評価そのものの客観性は確保でき達成度も評価しやすいものになった。

令和 3（2021）年度の学修成果では、まず「看護専門知識」を 3 年間の通算 GPA をもとに分野別にみた。基礎科目 2.97、専門基礎科目 2.63、専門科目 1.91 で、看護の専門的学習が深まるにつれ学習の難易度が上がっており、例年同様に専門科目が最も低かった。専門科目のみに着目すると、全 55 科目のうち通算 GPA3.0 以上は 4 科目、2.0～3.0 未満は 16 科目、1.5～2.0 未満は 27 科目であった。1.5 を下回る科目は 8 科目あり、その半数以上が成人看護学領域の科目であった。4 つの学修成果である「科学的思考に基づいた看護実践力」「看護を探究する力」「関係形成力」「社会性・倫理観」は、ルーブリックを用いた評価でデータ化（4：優（A）、3：良（B）、2：可（C）、1：不可（D）の 4 段階評価）した。各指標の平均得点は「科学的思考に基づいた看護実践力」3.5、「看護を探究する力」3.6「関係形成力」3.7「社会性・倫理観」3.9 であった。本学科では、学習面の指導はもとより人間性や感性を育む教育を取り入れ、常識的な行動が普段から実施できるように身だしなみや礼儀作法含め態度面の指導は厳格に行っている。特に、臨地実習は、将来医療従事者として社会に貢献できる人材育成の最良の場として、社会性や倫理観を育む教育を強化する機会であり、最も得点が高い「社会性・倫理観」の結果に反映したと考える。

【課題】

学科の課題は、留年率の低減を図ることと看護師国家試験の合格率を 100%にすることである。これまで本学科は、入学前学習、基礎学力支援、習熟度別授業、低学年からの国家試

験受験に向けた動機付けや課題学習、国試チューター制、補習講義、成績が伸び悩む学生を学習の強化チームとして徹底指導する体制づくりなど、学力向上に向けたさまざまな取り組みを行っている。国家試験に向けた修業年限内に単位を修得できない学生が1～2割存在し、卒業しても国家試験の不合格者が数人いる事実は、PDCA サイクルの Check 部分とし重要な課題として受け止め、効果的かつ学習の活性化につながる対策を講じる必要がある。専門科目で特に GPA 低値の科目が複数存在することも明らかになったため、今後の成績評価の在り方について検討する必要がある。

令和3（2021）年度は学修成果の評価ツールとして、これまでの間接評価・量的評価だけでなく、教員や臨床指導者など他者評価となる実習評価表を活用した直接評価・質的評価によって、より客観性のある評価方法が確立できた。これまで達成度の測定方法・測定過程に注力したが、可視化した学修成果をどのようにカリキュラム評価、カリキュラムの充実へとつなげていくか、また、学生自身が自己の成長や能力の獲得状況をどのように把握し次につなげるか、卒業時のみの評価では十分とはいえない。

【改善への方策】

学修成果は、3年間をとおり看護専門職として必要な資質・能力がどの程度身についたかを評価するため、卒業時の評価、すなわち総括的評価として位置付けられている。最終的な目標への到達も重要であるが、学生自身が自ら取り組むべき課題を把握し、自ら学習活動の進展を図ることができるように「教育・指導の改善」と「学習者の学習活動の改善」が必要になる。学修成果の評価のシステム作りとして、学生を集団と個人の両面で捉えながら学習の成果や結果に至るプロセスにも目を向け、学生の学習への内発的動機付け、学習途中の評価である形成的評価としての活用も検討していく。

医療介護福祉科

1) 教育方法の改善

【現状】

令和3（2021）年4月から本学科は医療介護福祉の3年制教育に移行した。これまでの2年課程の教育をベースに、新たに3年次に医療系分野（医療福祉系科目群、実習科目群、マネジメント系科目群）を加えたカリキュラムの準備を進めている（表2-6）。

【課題】

3年次の医療系分野では、介護福祉士教育として初めて5週間の病院実習を導入する。回復期リハビリテーション病棟や地域包括ケア病棟のある病院での実習を通して、急性期の治療を終え退院を見据えた専門的なリハビリテーションを療養生活につなぐ介護について、また、チーム医療の一員としての介護福祉士の役割について学ぶ。

この実習において最大限の教育効果を上げるために入念な準備が必要となる。本学科として病院を実習対象施設としてどのように位置付け活用するのか、一方受け入れ病院側も介護福祉士の実習受け入れをどのように組織化し機能させるのか議論を重ねており、両者が連携して介護福祉士実習受け入れ体制を整えていく必要がある。

【改善への方策】

令和5（2023）年度の実習開始に向けて、実習先の病院に対して、岡山県介護福祉士会主催の介護福祉士実習指導者の研修や喀痰吸引等指導者研修の受講等の体制づくりを依頼し

ている。今後も実習病院看護部と連携を取りながら、実習がスムーズに行えるように、実習日程、内容等の調整を行っていく。

2) 学外実習への取組

【現状】

本学科では、1年次に介護実習Ⅰ-1、介護実習Ⅰ-2、2年次に介護実習Ⅰ-3、介護実習Ⅱを開講し、これらの実習を通して、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力の修得を目指している。4回の介護実習を通して、介護福祉専門職としての自覚、科学的な介護の必要性、専門職業人としての自己研鑽の必要性を学ぶことができ、生活支援が必要な人への介護実践能力を身につけている。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、1年次前期（新カリキュラム）の介護実習Ⅰ-1、2年次の介護実習Ⅲは一部学内実習となった。1年次後期（新カリキュラム）の介護実習Ⅰ-2、2年次後期の介護実習Ⅳは、学生の実習再開に向けて、行動ルールに沿って感染予防対策を徹底した上で、実習先の理解を得て実習を行うことができた。しかし、臨地実習でなければ得られない利用者との関わりや指導を受けられなかったこともあり、ディプロマ・ポリシーに掲げた全ての能力の修得が難しい状況で卒業となった。

【課題】

3年制移行に伴い、介護実習の組み替えを行い、これまで、2年次に行っていた在宅実習を1年次に配置した。1年次にその人らしい家での暮らしや個別ケアの重要性、地域で支える視点について学んだため、2年次には、施設実習を集中させ、介護過程の全ての過程を終えられるように変更しており、その実習の組み立てについて効果を検証する必要がある。

次年度以降も新型コロナウイルス感染状況によっては、臨地実習を学内実習に切り替えて行うことが想定される。感染予防対策を徹底した上で実習ができるように学生指導を行うことと併せて、臨地実習に近い学びを得られるように学内実習の内容を再検討する。また、卒業後教育として、継続的な学びの場を提供することも必要となる。

【改善への方策】

これまで、2年次に配置していた在宅実習を1年次に配置することで、その人らしさ、個別ケア視点が、2年次の施設実習で、どのように介護過程の展開に活かされているか、その効果について分析する。さらに、地域包括ケアシステムの構築に向け、これからの介護福祉士に必要となる、病院から福祉施設まで、医療の知識を活かした介護の展開ができるよう3年次に病院実習、地域介護実践実習を導入する予定である。

臨地実習でなければ得られない利用者との関わりや指導を受けられなかったこともあり、ディプロマ・ポリシーに掲げた全ての能力の修得が難しい状況で卒業となった今年度卒業生を含め、令和4（2022）年9月に同窓会とも連携した卒業後教育の研修を予定している。卒業後の学びの場を提供することで、介護福祉士としてのキャリアアップの支援を行う。

3) 学修成果

【現状】

本学科は、国家資格取得を目指す学科であり、資格取得率、就職率も学修成果の検討材料である。介護福祉士国家試験合格率は、令和3（2021）年度100%（全国平均72.3%）であ

った（表 2－5）。就職率も 100％であった（表 4－2）。学生生活満足度調査でも「専門的な知識・技能の修得」について全員が「そう思う・おおむねそう思う」と感じていることが示されている。これらの結果から、学修成果はほぼ達成できていると考える。なお、入試区分による学修成果の差は生じていない。

学科の支援としては、1 年次で基礎学力支援及び模擬試験受験を実施し、2 年次では医療介護福祉総合演習Ⅰ・Ⅱにおいて、小グループでの国家試験受験対策を行っている。学生個々の学力差があり、学習方法をそれぞれの学生に合わせて選択して、苦手とする科目を克服できるよう指導している。

【課題】

学習が進むにつれ、レジュメに記入できていない、資料をファイルできていない学生が出てくる。その状態のまま期末試験を迎えると、再試験科目が多くなる傾向があるため、早い時期から担任やアドバイザー、各科目担当教員による継続的学修支援を行うことが必要である。

【改善への方策】

2 年次生になると国家試験対策に向けて学力別の教育を行い、特に成績不振学生に対しては個別の学習方法を指導している。基本的な理解ができていることが学習の前提となるため、授業内でのレジュメ記入、資料のファイリングができているかといった基本的事項をしっかりと確認をとり、担任やアドバイザー、各科目担当教員が早めに学習進度を的確にチェックし、その都度意識付けを行う。

3. 学生の受け入れ

(1) 素質のある学生確保

【現状】

本学では素質ある学生の確保に向け、平成 28（2016）年度に発足した川崎学園アドミッションセンターのもと、本学・医療福祉大学・リハビリテーション学院の3施設共同で戦略的に入試広報活動及び学生募集活動を行っている。昨今、少子化や受験生の4年制大学指向に加え、新型コロナウイルス感染症の影響により地元志向が強まり、県外からの志願者の減少が続いている。その状況をふまえながら入試に向けて広報活動を強化し、目的意識が高く素質のある学生の確保に努めた。特に岡山キャンパスへの新築移転、川崎学園のネットワークに支えられた本学の教育的優位性、3年制による医療に強い介護福祉士の育成等を中心に、今後の展望について広くステークホルダーに周知した。高校生へのアピールポイントが高いオープンキャンパスについては、5月に予定していた単独オープンキャンパスは、岡山県緊急事態措置の発令により中止となったが、8月は感染防止対策を徹底して開催した。また3校合同オープンキャンパスは9月と3月に実施したほか、Webによるオープンキャンパスも開催した。さらに今年度は10月の学園祭がWeb開催のみとなり、同時開催予定であったオープンキャンパスが中止となったため、同月に別途予約制来場型入試・進学相談会を2回開催した。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、従来の広報活動である進学相談会、高校ガイダンス、高校訪問は昨年同様中止や減少を余儀なくされた。そのような厳しい状況の中、医療介護福祉科は病院奨学金の採択の増加を背景に、個別にアポイントをとりながら意欲的に高校訪問を実施した。業者による進学相談会は岡山と福山に加え、通学可能圏内である姫路まで参加した。本年度は来場型での相談会やガイダンスの多くが中止となったが、進学相談会16回（県内10回、県外5回）、高校ガイダンス（出前授業含む）15校（県内13校、オンライン3校も含む）、高校訪問は263校（県内117校・県外146校、看護科113校・医療介護福祉科150校）実施した。

【課題】

文部科学省の入試制度改革による新入試制度も2年目を迎えた。高校生人口の減少、受験生の県内指向等の影響で、前年度282人あった入学志願者は、本年度は263人に減少した。看護学科では専願区分の合格者を昨年度より11人増加させたが、併願区分の辞退率が過去に類をみないほど高く、看護学科においても令和4（2022）年度の入学予定者が募集定員を下まわる結果となった。また、出身都道府県別入学者の状況はコロナ禍を反映したためか県内出身者が増加傾向にあり、今後の推移も検討の必要がある。従って、県外からも通学しやすい岡山キャンパスの学習環境を整え、医療福祉の教育に注力している本学への入学生を増加させることが、両学科の緊要な課題である（表3-1、3-2、3-3）。

【改善への方策】

10月に開催した予約制来場型入試・進学相談会は、丁寧に個別相談に応じることで受験に繋がったため、次年度もオープンキャンパスだけでなく、相談会を開催し受験生確保に努める。本学が岡山キャンパスへ移転したことも、重ねて周知し本学への受験を促していく。全教職員の協力を得て高校ガイダンスへも積極的に参加していく。その際には、所属学科だ

けでなく他学科のアピールもしっかり行い、全学上げて広報活動に奮励していく。そのために研修会等を持ち、各学科のアピールポイントを両学科間で熟知する。

また、倉敷市松島の医療福祉大学会場で実施される3校合同のオープンキャンパス開催時も、岡山キャンパスにある本学会場でも相談会や学校見学等を同時開催し、松島から岡山へバスを運行し本学の学習環境を積極的にアピールしていく。

(2) 入学選抜方法

【現状】

川崎学園アドミッションセンター主導のもと、本学・医療福祉大学・リハビリテーション学院の3施設で文部科学省の改革に沿った入学選抜を計画し実施している。これにより「学力の3要素」を多面的・総合的に評価する適切な選抜を実施している。

医療介護福祉学科は、本年度実施の学校推薦型選抜（前期）から有資格条件に、「オープンキャンパスで所定の課題を行い、『有資格認定証』の交付を受けた者」という条件を追加した。これは学科が、オープンキャンパスに参加した希望者に対して課題を提示し、あわせて面接を行い、意欲と素質のある者に『有資格認定証』を交付する。医療福祉大学も8学科が同様の制度を導入しており、受験生は医療福祉大学の複数の学科の『有資格認定証』を受けることが可能である。しかし学校推薦型選抜（前期）の入学選抜時には、ひとつの学科に絞って受験する。この『有資格認定証』での選抜方法は他の有資格者と同様、口頭試問を含む面接・調査書・資格等に関する提出書類に基づき「学力の3要素」を多面的・総合的に評価する。初回の本年度は、この制度を利用した受験生は3人おり全員合格した。

本年度も新型コロナウイルス感染症蔓延のため、入試当日の体調・体温チェック、手指の消毒、医師・看護師の配備、感染疑い受験室の別途設営等万全の態勢で臨んだ。

【課題】

令和2（2020）年度から改革された入試制度にのっとり、学力の3要素と呼ばれる「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）」をバランスよく評価に反映させ入学選抜を実施した。入学選抜方法については、川崎学園アドミッションセンター及び関係職員との協働によって、文部科学省の意向も踏まえ、改善を加えながら適切に選抜を行っている。現在、制度上の大きな課題は見当たらないが、昨年に続き地元志向という出願傾向により志願者の減少が続いているのでアドミッションセンターを中心に、入学選抜方法の改善及び広報活動について継続的に検討を重ねていく。

【改善への方策】

引き続き毎月定例の川崎学園アドミッションセンター運営会議で、入学選抜方法について検討を重ねていく。次年度は新教育課程に伴う入試内容についての検討が中心となる。専願入試に関しては、学内入試実行・広報活動推進委員会や点検評価委員会で、アドミッション・オフィサーやIR室から提供されるデータを元に入学選抜方式の点検・評価を継続していく。また、新型コロナウイルス感染症の終息が見えない状況を踏まえ、今後も万全な感染症対策を講じながら入学選抜を実施する。

(3) 特色ある広報活動

【現状】

令和4（2022）年4月から岡山キャンパスへの新校舎移転というトピックスを前面に掲げ、本学の実績や特色を広報する活動を積極的に行った。岡山キャンパスの施設紹介イメージCG 動画のホームページへの掲載、工事の進捗状況の掲載、附属病院や総合医療センターなどへのパネル掲示、山陽新聞への特集記事掲載などを行った。RSK ラジオ番組「あも〜れマッターリーノ」には5月・6月に各学科の教員と卒業生が共に出演し、学科の特徴や卒業生が活躍している状況について語った。また、新型コロナウイルス感染症蔓延の影響により今年度も高等学校教員対象の入試説明会は中止となったが、県外スタッフとの説明会はリモートでの開催となった。これにより岡山キャンパスに向けた情報提供に努めた。

【課題】

岡山キャンパス移転に向けての広報活動はさまざまなツールを活用し積極的に取り組んできたが、未だ十分に周知されているとは言い難い状況が課題である。本学の立地条件や充実した教育環境などを強調した広報戦略について再検討し取り組みを進めていく必要がある。

【改善への方策】

これまで広報活動の手段が、大学案内（パンフレット）の配布や受験雑誌、新聞掲載やパネル掲示など従来型の広報媒体を中心としてきたが、受験生や保護者の多くは Web サイトを使用した情報発信型の媒体に重点を移しているため、それに対応していく手段として公共のメディアや SNS などを通じての情報発信による広報活動も展開していくことが必要であると考えます。

4. 学生支援

本学では、学生が安心して修学できるよう、生活、健康管理、社会性養成、進路支援等多岐にわたる側面から学生支援を実施している。

(1) 学生生活支援体制

【現状】

開学以来、実施している担任制は本年度も継続した。学生定員の多い看護科では、学年ごとに担任2人と副担任2人の合計4人で担任団を形成しており、さらに1年次生には担任以外の教員が5～10人程度の学生を受け持っておりアドバイザーとなっている。また、医療介護福祉科では各学年1人の担任及び看護科同様に担任以外の教員がアドバイザーとなっており、両学科とも入学当初から生活指導や履修登録指導などに関して細やかな支援をしている。また自宅等の学外から教員に連絡をとる手段を複数準備しており、質問や相談のツールとして使用している。個々の教員は学生からの連絡にはこまめに返信をしており、込み入った相談の場合や必要のある学生には面談などの個別対応をするなど、一人ひとりに合わせた支援を行っており、これらの支援方法は定着してきている。

新入生オリエンテーションについては、入学式をはさんで4月1日から4月6日までの間をオリエンテーション期間として設けて実施した。令和2（2020）年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴いオリエンテーションの一部延期や中止があったが、本年度は感染対策のための時間短縮等も行いながら約1週間で学生生活導入に必要な指導・支援をほぼひと通り行った。また学生生活に慣れ始めた4月下旬にはSNSに関する講演を行った。新型コロナウイルス対策で、大学以外の生活・娯楽の場所が自宅中心になっていることや、友人と一緒に過ごす時間が作りにくい環境であることから、本年度は例年行ってきた消費者被害防止の講演やSNSに関する講演では新しい交友関係にみせかけた詐欺被害の予防やインターネットの安全な使用方法についての注意喚起を行うことに力を入れた。

学友会・部活動など、学生の自発的活動の制限が続くなか、再開された活動や開催形式を変更して実施したイベントもあった。学園祭はオンライン学園祭という新しい形で行われ、一部の学生は企画運営に参加して貴重な経験をした。また、5月に開催予定であった学友会主催のスポーツ大会は、岡山県緊急事態措置の発令直前であったために延期されたが、12月にクリスマス会と合体させてクリスマススポーツ大会として実施した。いずれも参加学生は多くなかった。しかし、参加した学生は十分に楽しんでおり、また企画運営に携わった学生には社会性を育む良い機会になった。これらイベントの企画運営の中心となる学年の学生はほとんど同様の経験がなく、企画・運営力が乏しい。そのため、教職員が例年以上にサポートして企画・運営・下学年への活動伝承に力を入れている。

【課題】

新型コロナウイルス対策の影響を受け、学友会主催のイベントなどは実施日時や方法の途中変更が多い。また経験のない学生が企画するため準備に時間を要し、全学生に開催の広報をするのが遅くなりがちである。そのため参加者の増加を阻んでいるのも現状である。

【改善への方策】

企画運営担当の学生には活動記録を細かく録り、下学年への申し送り時に有効に利用で

きるように指導する。また教職員が申し送りに立ち合い助言することで、状況に合わせた方法を検討しながら大学行事を存続させ、学生の社会性を高めることにつなげる。

(2) 健康の維持・管理

【現状】

学生が心身共に健康で専門職の資格取得に向けて学習に励むことができるよう、健康管理ワーキンググループ、健康支援室、学生相談、障害学生支援ワーキンググループ、ハラスメント防止委員会が学科と協力体制を組んで支援している。

健康管理ワーキング会議は5回開催し、健康診断、各種抗体検査とワクチン接種、新型コロナウイルス感染症の学内対応、UPI 検査の実施等を進めた。

健康支援室の利用状況は年間 258 人でありその内約 116 人が血圧の再検や健康診断書の申し込みで利用している。心身の不調での利用は 102 人おり、なかには内部疾患コントロールが難しく学内で継続的に対応した学生もあった。学生相談は、年間 31 件あり、外部医療機関との連携も行った。

障がい学生支援は、障害学生支援ワーキンググループが中心となり学科と連携しながら実施している。本年度は、障がい学生として支援を申請した学生は1人在籍し、身体機能の脆弱性を補う支援を中心に実施して学生生活を継続することができた。委員会は年3回実施し、第3回目は次年度の障がい学生支援の申請学生（2人）に対する支援体制を検討し、実施準備を行った。各学科では、発達障がいや内部疾患でコントロールに苦慮している状況の学生などに対して障がい学生支援の申請を勧めているが、躊躇している現状がある。また、障がい学生に対する合理的配慮が義務化されることから、教職員に対する啓発として日本学生支援機構【障害学生支援理解・啓発セミナー】の動画配信をSDとして視聴するよう義務付けた。

ハラスメントに関する支援は、啓発活動、体制整備をハラスメント防止委員会が実施し、実際の対応はハラスメント相談員がその任に当たっている。委員会は、年3回開催し、啓発活動として新入生に対するリーフレット配付と本学におけるハラスメント体制の説明を実施し、非常勤講師に対しては、ハラスメント防止リーフレット教職員版、学生版を配付した。

また、後期期間に学生に対してアンケートを実施し、ハラスメントに対する認識、本学の取り組みへの理解、ハラスメントの現状を問った。その結果、ハラスメントに対する認識では教職員と学生間のハラスメント状況の認識はまずまず理解できているようであったが学生間のハラスメントに関して教員間よりも理解が少ない状況であることが判明した。また、担任とのかかわりや実習指導時など個別指導時に個々の特性や学習低迷に対する叱責などの言動が教員や実習指導者から発せられた場面が自由記載で報告されていた。そのため、急遽、実習指導時のハラスメント対策として、全教員及び実習を担当する非常勤講師を対象に実習時のハラスメント防止に関するDVD視聴を行い、自らの指導の振り返りを行う研修会をFDとして実施した。

本年度においては学生から就職関連のハラスメント相談が1件あり、アンケート調査結果から状況を追跡し指導した1事案（指導時の態度）を相談員が対応した。

【課題】

学生の健康支援に対する連携機関が岡山キャンパスでは変更となるため、学生健康診断、

抗体検査、ワクチン接種体制について、スムーズな実施が可能となるよう体制整備を行う必要がある。

障がい学生支援の必要があると思われる学生やハラスメントに関する相談が必要な学生への支援については、特に申し出を行わない学生に対する配慮について学科、委員会、大学との連携を密にする必要がある。

【改善への方策】

学生健康診断、各種ワクチン接種体制については、総合医療センターと連携をとりながら、スムーズな実施に向けた調整を行う。また、学内での障がい学生に関する情報共有を強化する。その他、ハラスメント窓口への認識を高め、気軽に相談できる体制として、リーフレットや学内ポスターにハラスメント相談窓口に繋がる QR コードの設置を検討するとともに、ハラスメントアンケートは毎年実施し、状況把握を行う。

(3) 進路支援

【現状】

本学が行う進路支援には、就職支援と進学・編入学支援がある。就職支援は、学生生活支援委員会内の就職支援ワーキンググループが中心となり、進学・編入学支援は教務委員会が担当している。

就職支援では、「就職活動スタートアップ講座」「自己分析講座」「履歴書の書き方講座」「面接対策講座」「化粧・髪型講座」「社会人マナー講座」を大学主催で企画し、卒業前年度2月から卒業年度にかけて実施した。新型コロナウイルス感染症蔓延のため、一部の講座はオンラインでの実施となった。本年度は、昨年の学生アンケートの結果からオンライン面接への対応を講演内に取り入れたこと、医療介護福祉科学生の医療機関への就職が伸びてきていることから介護福祉士を採用している病院の情報提供を行ってもらうなど近年の状況に合わせた支援を行った。これらの支援と新型コロナウイルス感染症蔓延中の就職活動に対するアンケートを実施した結果（表4-1）、新型コロナ感染症の影響を受けた学生が7割を超え、県外移動の制限やインターシップの中止や機会の減少、選考方法などの変更などの影響を受けていた。そのような状況下ではあったが、就職率は、両学科共に100%である。

進学・編入学支援は、年2回のガイダンスを実施している。本年度は通常開催していた5月に新型コロナウイルス感染症により岡山県緊急事態措置の発令となったため、第1回目のガイダンスを7月に延期して開催した。このガイダンスでは、進学・編入学の実績及び昨年度の点検・評価を踏まえて新たに保健師課程の進学を追加して説明した。受験対策としては専門科目、小論文、英語の学習方法等について説明し、進学・編入学希望者に対して受験までの個別指導につなげている。1月に実施した2回目では、スチューデントアシスタント研修を行った進学・編入学合格者に受験対策の体験談を語ってもらうとともに下級生との懇談会でピアサポーターとしての役割を担ってもらい進学・編入学希望者のニーズに込めている。本年度は、国立大学医学部看護学科編入学1人、県立大学別科助産専攻1人、医療福祉大学医療福祉学部1人、国立病院機構医療センター附属助産学校1人が進学した（表4-2）。

【課題】

就職支援においては、新型コロナウイルス感染症蔓延中の就職活動について、学外実習中

の就職試験について、県外移動の制約など学生の進路選択に影響を及ぼしており、できるだけ影響を最小限にとどめることが課題である。

進学・編入学支援については、両学科共に時間割が詰んでいるため、全下学年合同ガイダンスの開催が非常に難しい。本年度も6限目や土曜日でなければ共通の時間が取れない状況であり、学生の参加のしにくさがある。

【改善への方策】

就職支援については、新型コロナウイルス感染症における就職活動の影響など大学支援と学科の個別支援の連携を密にしながら実施していくことが重要と考える。ガイダンスの時間の取りにくさを解決するために、就職支援ガイダンス及び進学・編入学支援ガイダンスは、年間行事の一環として早期に時間を組み入れることとする。また、当日参加できない学生もガイダンスが視聴できるようeラーニングシステム「Web Class」に動画をあげて活用につなげる。

5. 教員・教員組織

(1) 教員組織

【現状】

本年5月1日現在における専任教員（助教を含む）の総数は39人であった。表5-1に記載されているように、短期大学設置基準の教員数と入学定員に応じて定める専任教員数の計26人を上回っている。医療介護福祉科は本年度から3年制に移行し、完成年度を迎える令和5（2023）年度には設置基準で定める教員数を充足する予定である。

本学の専任教員の専門性を補う内容及び基礎分野の一部教育にあたっては、必要に応じて川崎学園の豊富な人的資源から非常勤講師を任用して教育の質を高めている。

【課題】

本年度において、専任教員39人に対し学生は443人であり、「教員1人当たりの学生数」は大学全体でみれば11.4人である。学科別では、定員を上回る学生を収容している看護科では13.8人、大きく下回っている医療介護福祉科では3.1人となっている。教員の適正配置については、教育の質を担保するうえで、大学運営にも関わる課題であると考えている。

【改善への方策】

医療に関する専門知識及び技術を修得させるためには、できるだけ少人数での指導が望まれるが、教員の配置については、教育の質の担保と大学運営との両面から、慎重に判断する必要がある。今後も適切に教員組織を編成するとともに、看護科については、適正な「教員1人当たりの学生数」を考慮し、必要な人材の確保に努める。

(2) 研究活動の促進

【現状の説明及び改善策】

科学研究費獲得者による研修会開催、倫理教育・利益相反教育研修会 Web 受講等を通して、研究活動の促進に取り組んでいる。また、新任教員には年間を通じて開催する新任教員SD 研究会の中で研究活動に関する研修も行っている。本年度においては、外部研究費に申請したものの採択件数は0件であった。なお、科学研究費2件が前年度より継続している（表5-2）。

2学科体制になったことでの事務職員の減少と業務配分の見直しによる教員の学務負担の増加や、学生の基礎的学力不足に対応するための学修支援強化によって、研究活動に割く時間はますます少なくなっている。厳しい状況ではあるが、これからも研究テーマの発掘、若手教員への指導、科学研究費獲得者による研修会等によって、活動支援を強化していきたい。

(3) 研究活動環境整備

【現状の説明及び改善策】

本学の教員研究費については、川崎学園大学事務局から総基準額として予算立が行われ、教員数（職階別の在職者数）、学生数、経年的実績等を勘案し、学科別に積算、割り当てられている。本年度の予算執行の内容は、表5-3のとおりである。また、本年度の教員の研究に係る機器・備品・図書等の整備状況については、表5-4のとおりである。

専任教員の教員研究室（居室）は、職階別に、准教授以上は個室、講師は2人部屋、助教は実習室に付設された準備室等が割り当てられている。専任教員が研究または実験に使用する特別な研究室や実験室などは設けられていないが、医科大学の研究センターや学内の教育用実験室・実習室を利用することが可能な状態にある。

研究活動に関しては、本学の教員同士による共同研究、学外者との間で行われる共同研究を含め、講義・実習等による学生教育やその他の学務に差支えない範囲であれば、自由に行うことが可能になっている。ただし、多様な学生を受け入れることでの学生対応に費やす時間の増加や学生確保のための広報活動に注力していく必要がある中、研究に割く時間の確保が困難になっている現状も見受けられる。各教員の努力はもとより、大学としても研究時間の確保に向けた体制の整備を行うなど対策を講じたい。

6. 社会連携・社会貢献

従来から、本学は教育研究の成果を社会へ還元することにも力を入れている。本年度はコロナ禍でもできる公開講座を検討し、Web で開催した。また、これまでと同様に高大連携への積極的協力に取り組むとともに、倉敷市大学連携講座にも講師を派遣するなど積極的に協力した。

(1) 地域連携

【現状】

今年度の公開講座は、昨年度の点検評価の改善への方策で提案したように、新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中、安全対策を優先するため来場型での講座は中止し、Web で開催した。9 月に医療介護福祉科による「認知症のある人の介護の基本～よりよい関わりについて～」（再生回数 87 回）、12 月に看護科による「医療安全を学ぼう～ヒヤリ・ハット体験からの学び～」（再生回数 195 回）というテーマで実施した。また、倉敷市大学連携講座については、開催時期を調整し、新規感染者の減少した 11 月に来場型での開講とオンラインによる講座のハイブリット型で実施した。この大学連携講座の対象者は中学生・高校生とし、「DNA を見てみよう！～“体の設計図”に迫る」というテーマで開講した（表 6－1）。

【課題】

Web での開催は確実な感染症対策にはなるが、これらを受講するには ICT 環境や技術が必要である。これまで来場して受講されていた方（とくには高齢者の方）が、Web での開催になったことで受講できなかったことが推察される。

【改善への方策】

今後は、感染対策と安全性を確保した上で、多くの方々が受講できる公開講座の運用方法を再検証し企画していく。また、岡山市にキャンパスが移転したことから、岡山市や近隣地域との連携を強化し、本学の魅力を生かした企画について立案・調整していく。

(2) 高等学校との連携

【現状】

平成 14（2002）年から岡山県教育委員会との間で「連携教育に関する協定」を締結して以来、和気閑谷高等学校と個別の協定を結び、定期的に連携授業や意見交換を実施している。さらに両学科とも近隣の高等学校から要請があった場合は、体験授業や学校見学等の連携教育も積極的に行っている。令和 3（2021）年度は、県立玉野高等学校、県立岡山御津高等学校、県立和気閑谷高等学校からの訪問を受入れ、模擬授業・演習や学内見学を実施した。本学教員が高等学校に出向くガイダンスを含む模擬授業は 15 校（オンライン 3 校含む）で実施した。前年度の改善への方策として掲げていた、看護や介護福祉と関連のある高等学校の教育科目についての合同研修は、本学と協力体制を構築している総社高等学校とで行った。授業科目は家政科の「デザイン基礎」及び「生活産業基礎」で、看護と介護の専門科目担当教員が参加し、大学での生活を援助する授業科目に役立てている。

【課題】

高等学校は令和 4（2022）年度入学生から学習指導要領が改訂され新教育課程となる。改正の柱のひとつに数理教育の充実があり、新たに「情報Ⅰ」が必修科目として新設された。

本学も令和3（2021）年度から数理・データサイエンス科目の充実をはかるため、両学科とも「情報処理演習」を必修化した。文部科学省は高大接続改革の一環として今回の高等学校の指導要領の改訂に踏みきっており、本学は高等学校と連携をとりながら入学選抜・大学教育改革に努めていかなければならない。

【改善への方策】

本学教員が高等学校に出向いて行うガイダンスや模擬授業は、高校生からも好評で高大連携の役割を果たしている。職業教育に関するガイダンスや模擬授業をはじめ、高等学校と大学との接続教育の質の向上を図るため、高等学校との合同研修や協議は継続していく。特に次年度は情報教育に関する教科目の合同研修を計画していく。

(3) ボランティア活動

【現状】

例年実施している防犯パトロールは9月30日及び11月19日に実施された。昨年の参加学生は学友会所属の学生のみだったが、学生に広く呼びかけることで、本年度は多くの学生が参加した。時間帯やコース等を複数設置し、延べ43人の学生、9人の教職員が参加した。

また岡山県学生防犯ボランティア連絡会の研修会が9月に、同会の総会及び学生防犯ボランティアフォーラムが3月にいずれもオンラインで開催され、延べ4人の学生と2人の教員が参加した。

【課題】

感染症予防のために、イベントがオンラインで開催される傾向にある。学生ボランティアもその影響を受け、活動の場が限られ、実際にボランティアを体験できる機会は少ない。

【改善への方策】

令和4（2022）年度は岡山にキャンパスを移すため、学生及び教員が参加可能なその地に合わせた新しい活動を考えていく。

(4) 国際交流

【現状】

本学の国際交流は、令和3（2021）3月に上海健康医学院傘下の上海衛生学校卒業生の留学生の本学の卒業帰国をもって独自の交流は終了している。現在は、平成30（2018）年から医科大学、医療福祉大学との合同で実施している上海研修（上海健康医学院及び上海中医药大学との交流）は、全世界的な新型コロナウイルス感染症の蔓延により、渡航の交流はやむを得ず実施不可のとの結論に達し、オンライン交流の実施を計画したが本学は参加希望者がなく、医療福祉大学生のみの交流会となった。

【課題】

昨年度は全面的中止となり本年度は一步進んでオンライン交流を3校合同で企画した。しかしながら本学の学生は、前例もなかったことから参加希望者がなく、タイムリーなオンライン交流の難しさがある。

【課題への方策】

新型コロナウイルス感染症の蔓延が終息し、上海への渡航に支障が出なくなった時期に改めて、現地交流が図れるよう提携校との実施計画を調整する。

7. 内部質保証

(1) 自己点検・評価活動

【現状】

内部質保証の充実を図るために、点検評価委員会を11回開催し、教学マネジメント体制のもと教育課程の編成及び適切性、入試選抜の妥当性の検討と共に、学生の満足度調査、卒業アンケート等IR室と連携しながら点検評価した。さらに、私立大学等改革総合支援事業及び教育の質に係る客観的指標の充実状況について審議し、充実をはかると共に、ガバナンスコードの策定、看護科のディプロマサプリメントの作成、教員活動評価票の見直し等、評価指標の整備も進めた。

また、本年度より内部質保証システムを堅実なものとするために、これまでは2年毎に作成していた自己点検・評価報告書を毎年作成することに決定した。併せて、ステークホルダーに公表している教育実績データや広報活動報告など、学報、自己点検・評価報告書、広報誌「若きいのち」、大学ホームページに重複して公開している現状を整理した。大学の運営の現状や実績となるデータ類はPDCAを回す根拠となる部分である。そのため、自己点検・評価報告書に一元化し、また、広報的な部分は広報誌「若きいのち」に包含させ、「川崎医療短期大学学報 若きいのち」として名称変更し本年度から発行することに決定した。この結果、内容が選別され、例年の点検評価により、PDCAサイクルをより促進させる取り組みとなった。

【課題】

大学の内部質保証を支援するために、IR室が経年的に多方面のデータ収集・分析を積み重ねてきており、集積したデータがそのまま大学の意志決定に役立つものも多い。今年度は、評価指標を変化させたことも加味し、教学マネジメント体制を強化していく観点から、今後は収集したデータを多角的に分析し大学の改革改善に向けて効果的取組が推進できるよう、点検評価委員会とIR室の連携強化が更に必要である。

【改善のための方策】

今後の点検評価の方針として、ガバナンスコードが策定されたことから、次年度より、このコードを基盤に本学の内部質保証を強化していく。そのためにまず内部質保証の中心である教学マネジメントについて、ここ数年の間にディプロマサプリメントの導入や卒業時の学修成果の達成度調査などを導入し、学修成果の評価指標を変化させてきていることから、IRと連携しながらデータを多角的に分析し教育活動の見直しに適切に使用できるよう推進していく。さらに、教育環境の変化についても、学生からの意見聴取などキャンパス移転に伴う影響なども分析し、継続的な改善・向上に向けて検討を進める。

(2) 教員活動評価の実施

【現状】

令和2（2020）年度の教員活動評価において、二次評価で学長による全教員の個人面談を実施し、活動状況を具体的に点検した。結果は表7-1に示すようにS1人、A16人、B8人、C2人で多くの教員が高い活動状況であった。この評価過程で、目標管理評価における目標立案に関する問題点が見つかり、改善のためのFD研修を早急に行った。この教員活動

評価制度による評価は、1 団体の Best Activity Award の表彰、准教授への昇任審査の評価として活用できた。

【課題】

看護科においては評価対象者が多人数のため、一定期間での評価が困難という課題や多人数を評価するにあたって、評価基準のさらなる客観化することにより評価の公平性が望まれている。目標の立案については改善のための FD 研修を行ったがこの改善結果は、次年度の目標立案状況の確認が必要となる。

【改善への方策】

教員活動評価の客観化を進めるために目標評価に点数化を導入し、様式の変更修正を図って、令和 3（2021）年度評価より活用できるように改善する。また、評価者の追加については、点検評価委員会の同意を得て実施できるように要領を変更して令和 3（2021）年度評価から実施可能とする。

(3) 学生による評価

【現状】

学生による大学評価として、本年 1 月～2 月に在学生を対象とした学生生活満足度調査を、また卒業学年を対象とした就職支援アンケートを実施した。さらに 8 月には、令和 2（2020）年度の卒業生を対象とした卒業後アンケート（表 7－2）を実施した。

学生満足度調査では、担任による支援、教員支援、アドバイザー支援など学科教員の支援体制に対して「満足している」「おおむね満足している」と回答した学生がいずれも 7 割を超えており、多くの学生が教員による支援に満足していた。

一方、「生活付帯設備に満足しているか」との問いに対して「とても・おおむね満足」としたのは 30.4%、「全般的に施設・設備に満足しているか」の問いに「とても・おおむね満足」としたのが 40.6%であった。安全な環境のための定期的な点検や、玄関天井のカビの除去など緊急性・重要性の高いものに関しては対応したが、移転前で積極的な補修をひかえているためか、施設・設備面に満足しているのは、半数以下であった。

教務関係の学生満足度調査として、学修成果としてのディプロマ・ポリシー達成度、教育体制に関する満足度を調査した（表 7－3）。カリキュラム改正により「健康体育基礎演習」が令和 3（2021）年度入学生からの必修化となった。卒業年次生が本学の学位授与の方針について、到達しているかどうかの自己評価では、ディプロマ・ポリシー 5 項目全てで、「そう思う・おおむねそう思う」（以下到達度・満足度が高いと表記）と 84%以上の学生が評価した。その中で最も到達度が高かった項目は、「他者の在り方を尊重し、支援、連携、協働できる力がついた」「誠実で礼儀正しく、社会の規範を遵守できる倫理観が育まれた」で 90.8%であった。各学科の教育体制については、専門職の知識・技術・倫理観に対する教育体制や学外実習について高い満足度が示され、また、国家試験対策等への支援についても 87.2%の学生が満足だと答えており、昨年度より高くなっている。教育体制の充実が学生の学修成果に結びついていると考えられる。

また、就職支援アンケートでは、本年度の卒業生が在学中に受講した「就職活動スタートアップ講座」「自己分析講座」「履歴書講座」「面接講座」「社会人基礎力・マナー講座」について評価した。その結果、82～95%の学生がこれらの講座の開催時期を「適切」と評価し、

それぞれの役立ち度は、平均 7.6～8.6 ポイントで、中央値はいずれも 8 ポイント以上で（1～10 の 10 段階評価）、開講した講座の有用性が評価されていた。

【課題】

人的支援や就職支援講座などソフト面の評価は高いが、施設・設備などのハード面に対する評価は低いのが課題である。

ディプロマ・ポリシー 5 項目では、自己評価は高かったが、令和 2（2020）年度と比較すると 5～6 % 程度下がっており、コロナ禍での影響も出ていると考えられるため今後注意して傾向をみていく。また、最も低いのは、昨年度と同じく「健全な心身の育成」であり、新カリキュラムで必修化された「健康体育基礎演習」などの科目の効果をみていく必要がある。

【改善への方策】

令和 4（2022）年度には新キャンパスに移転して校舎棟が新しくなるため、ハード面の変化が大きくなる。そこで、当面は新たに対応を必要とする部分の洗い出しを行う必要がある。

コロナ禍ではあるが、感染対策を行いながらも対面授業や演習、実習などを行い、教育体制の維持と充実を図り、ディプロマ・ポリシー達成度、教育体制に関する満足度を上げていく。

（4） 外部評価

1) 卒業生就職先アンケート

【現状】

令和 2（2020）年度卒業生の就職先に、令和 4（2022）年 1 月にアンケート用紙を送付し、調査を行った。回収率は、看護科が施設ベースで 51%、件ベースで 65%（1 施設あたり複数部署に送る場合があるため）、医療介護福祉科が 89%であった。総合的満足度（5 段階評価）は、看護科 4.0、医療介護福祉科 4.4 とおおむね満足していただいた結果であった（表 7-4）。

【課題】

採用側の期待値と卒業生の能力との食い違いは、昨年度よりも若干小さくなり、「コミュニケーション能力」にも改善がみられた。しかしながら食い違いが最も大きかったのが「コミュニケーション能力」、次いで「基本的マナー」「社会性」「対人関係調整力」であり、この点に関する取り組みが更に必要と認識する。

【改善への方策】

新型コロナウイルス感染症の影響で病院や施設での実習時間が減少しても対人援助職者としての上記の能力が身につくよう、学内の教育を一層充実させる。アクティブラーニング型の授業や演習・実習を強化し、コミュニケーション能力やマナー・社会性を育む正課外活動を推奨する。入学直後から学びと社会性に対する動機付けを行い、自身の看護観や介護観、倫理観の構築に対する支援をとおして自己を客観視し自ら問題解決できる学生を育成する。

2) 倉敷市の評価

倉敷市に令和 2（2020）年度自己点検評価報告書をもとに評価を頂いた。従来からの大学の基本方針も基づく教育体制、内部質保証としての教員活動評価、学生生活満足度評価、卒

業生就職先アンケート等の多面的評価の実施による教育の質を確認していることが評価された。コロナ禍における遠隔授業への取り組みをはじめ、実習の機会の減少に対する補いや影響を受けた学生の経済面生活面への支援の継続など学生への学びの充実に期待を寄せられた。

さらに、少子高齢化社会における生命や健康を支援する職業人を輩出する教育機関として期待があること、さらには近年のSDGsやカーボンニュートラルの考え方を取り入れている企業も増えていることから、教育活動においても有益になるとの意見を頂いた。

8. 管理運営

(1) 新キャンパス移転に伴う整備

【現状の説明及び改善策】

令和4（2022）年4月の岡山キャンパス新校舎の開設に向けて、企画部や施設部をはじめとする関係部署と緊密な連携を図り、備品等の移設・配置に関する検討・調整を行った。新校舎は、令和4（2022）年2月に竣工となり、2月末までに備品等の移設・設置が完了した。また、学生教育に支障が生じないよう、教育の質を担保した上で、新キャンパスの教室使用の計画、時間割調整や実習計画も含め、施設設備の有効かつ合理的な運営の継続について検討を行った。あわせて、非常勤講師の任用計画、松島キャンパスの有効活用についても教育環境の充実や学生の利便性に配慮した上で、調整を行った。その他、オープンキャンパスの開催、学園祭や公開講座等の各行事の実施方法などについても検討し、恵まれた教育環境や好立地であることを柱に、岡山キャンパス新校舎開設のメリットを広報活動に掲げ、本学の魅力アップを継続的に図っていく。（表8－1）。

(2) 新型コロナウイルス感染症対策

【現状】

昨年来の新型コロナウイルス感染症に対する川崎学園対策本部の基本方針にのっとり、本学の新型コロナウイルス感染症に関する行動ルール6～7（以下行動ルール）に基づいて大学の感染予防対策を継続した。この間岡山県緊急事態措置の発令（5月17日～6月21日：登校制限、8月27日～9月12日）、があり、県外移動をはじめとする行動制限や感染予防対策の強化しつつ対面授業の再開を進め、学修の継続を念頭に置いた大学運営を行った。

さらに、川崎学園の方針により教職員・学生への新型コロナワクチンの早期接種の機会が設けられ、希望する学生は、附属病院及び総合医療センターの各接種場所で集団接種を6月から順次実施することができ、8月には2回目の接種を終えることができた。3月末までに2回目の接種は97.9%の学生が接種を終わり、3回目の接種の機会も令和4（2022）年2月から設けられ、在学生は令和4（2022）年4月に希望者による集団接種を予定している。

感染者の発症は令和4（2022）年1月中旬に初めて学生の感染者が出る。3月末までに学生10人、教職員1人の感染があり濃厚接触者は、学生6人、教職員4人の10人であったが、学内での感染や濃厚接触は見られなかった。

実習先における陽性者との接触において、濃厚接触者と指定されなかった学生・教員においては、状況を判断し、附属病院感染管理室の協力を得てPCR検査の実施を行い、安心して学生生活が行えるよう配慮した。また、学外実習先からのPCR検査の陰性をもって実習の受け入れを許可される施設においては、PCR検査の実施結果をもって学外実習を行わざるを得ない状況となり検査費用の補助を協会にお願いすることとなった。

【課題】

学外実習における実習施設からのPCR検査及び抗原検査の実施やワクチン接種を実習可能条件と示す施設がいくつか存在し、学外実習の機会の確保のために順次対応の必要がある。

【改善への方策】

文部科学省の指針に基づいて、実習施設に対して本学の感染対策の取り組みを丁寧に説明し、理解していただけるよう働きかけを継続する。また、ワクチン接種ができない学生においては、実習場所の変更など学内で対応できることを行い、学修の機会をできるだけ確保する努力を行う。

(3) IR 室と点検評価委員会の連携

【現状】

本年度は、データの収集や多角的な分析・可視化、部署間での連携や情報の連結を推進していくため、学生データを取り扱う教務部と学生部から室員を選出し、組織としての強化を図った。また、従来のデータ収集・分析に加え、新型コロナウイルス感染症の影響について、遠隔授業評価や就職活動や卒後アンケートなどで教育の質保証における学生の反応を収集した。これらの教学・エンロールマネジメントのデータ収集・分析は都度、点検評価委員会と連携を取りながら実施している。

継続的な課題である IR 機能の向上については、大学評価・IR 担当者集会への室委員の参加や医科大学 IR 室セミナーに参加し、他大学の教学 IR の取り組みを参考にして、データ収集能力や分析能力の強化に努めた。また、情報公開については、点検評価委員会の監修のもと大学の公式データを取りまとめ、ホームページやファクトブック 2021 で発信した。

これらの活動と共に、キャンパス移転に伴う新しいデータ管理運用体制の構築に着手している。

【課題】

IR において収集するデータの分析・活用については、収集と分析が主となっており、大学における教学体制の質向上のための活用については継続的課題である。直面している課題としては、岡山キャンパス移転のため、新しいデータ管理運用体制の構築を早急に進めていく必要がある。

【改善への方策】

本学の教育の質保証に貢献できるように、次年度も点検評価委員会や学園内 IR 組織と連携を図る。また、学内データ MAP と管理運用ガイドを整備することにより、新データ管理運用の強化を図る。

(4) 地球温暖化対策の実施

【現状】

本年度の地球温暖化対策ワーキンググループは、衛生委員会委員の他に図書館職員、設備係、用務員を含む 8 人で構成されている。本年度も 7 月、12 月の年 2 回省エネパトロールを実施して、省エネ活動の実態把握を行った。また、7 月 5 日に岡山県環境保全事業団から特別講師を招き、「医療福祉人として視野を広げる ―地球温暖化について―」と題した講義を行い、啓発に努めた。

【課題】

現在の校舎棟は老朽化が進み、エネルギー消費の観点からは非効率な側面がある。また、校舎棟の新築移転計画が進む中、新たな整備投資や改修が困難な状況である。

【改善への方策】

施設・設備の老朽化に関して全面的な対応は難しいが、学生・教職員の安全を第一に考え、新校舎への移転までの間は、必要な対応を行っていく。また、地球温暖化対策ワーキンググループでは、省エネパトロールの実施や広報・啓発活動により、省エネに関する学内の取組を強化する。

(5) このはな寮の運営・管理

【現状の説明及び改善策】

令和元（2019）年10月に新設された女子学生寮「このはな寮」は、充実した施設設備を有し、タグ認証による高いセキュリティとともに、管理人による24時間体制での運営を行っている。入寮者数は、令和3（2021）年4月1日現在で、医療短期大学生84人、医療福祉大学生402人、リハビリテーション学院生28人の計514人である。

令和3（2021）年度も、新型コロナウイルス感染症が全国的に蔓延し、寮という多人数が共同で生活する場として、緊張感を持って感染防止対策を継続してきた。感染者は令和4（2022）年1月に2人、3月に2人発生したが、感染は個々の状況によるもので、寮内でクラスターは発生していない。寮生への感染対策に関する指導は今後も徹底していく。

学生寮では、各学校と管理人が緊密な連携をとり、管理・運営体制を充実させることが寮生の安全安心な生活につながると考えている。また、寮生自らが集団生活の規律を守り、生活環境をよりよいものにしていく意識を持つことにより、生活力やコミュニケーション力を育む場として機能していくことを期待している。

表 2-1 看護学科教育課程表

令和 4 (2022) 年 4 月改正

区分	授業科目	卒業単位	単位		区分	授業科目	卒業単位	計	
			必修	選択				必修	選択
基礎分野	科学的思考の基盤	4		2	専門分野	看護学概論	11	1	
			2			看護キャリア論			1
			2			基礎看護援助論Ⅰ		1	
				2		基礎看護援助論Ⅱ		1	
				2		基礎看護援助論Ⅲ		1	
	人間と生活・社会の理解	12	1			基礎看護援助論Ⅳ		1	
				2		ヘルスアセスメント		1	
			2			臨床看護援助論Ⅰ		1	
				2		臨床看護援助論Ⅱ		1	
			2			臨床看護援助論Ⅲ		1	
			2			看護過程論		2	
				2		地域・在宅看護概論	6	1	
				2		看護フィールドワーク論		1	
				2		地域・在宅看護総論		1	
				2		地域・在宅看護実践		1	
				2		ケアマネジメント論Ⅰ		1	
				2		ケアマネジメント論Ⅱ		1	
			16	12		成人看護学概論	8	1	
				18		成人看護援助論Ⅰ		1	
						成人看護援助論Ⅱ		1	
専門基礎分野	人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進	16	1			成人看護援助論Ⅲ		1	
			1			成人看護援助論Ⅳ		1	
			1			成人看護援助論Ⅴ		1	
			1			周術期看護論		1	
			1			臨床看護アセスメント		1	
			1			老年看護学概論	4	1	
			1			高齢者援助論Ⅰ		1	
			1			高齢者援助論Ⅱ		1	
			1			終末期看護論		1	
			1			小児看護学概論	4	1	
			1			小児看護援助論Ⅰ		1	
			1			小児看護援助論Ⅱ		1	
			1			家族看護論		1	
	社会保健制度と健康支援と	6	1			母性看護学概論	4	1	
			1			母性看護援助論Ⅰ		1	
			1			母性看護援助論Ⅱ		1	
			1			保健指導論		1	
			1			精神保健と精神看護学概論	4	1	
			1			精神看護援助論Ⅰ		1	
			1			精神看護援助論Ⅱ		1	
						薬物療法と看護		1	
	計	22	22	0		看護管理と医療安全	6	1	
						看護研究		1	
						災害看護学		1	
						看護倫理学		1	
						総合看護演習		2	
					臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	23	1	
						基礎看護学実習Ⅱ		3	
						地域・在宅看護論実習		2	
						成人看護学実習Ⅰ		3	
						成人看護学実習Ⅱ		3	
						老年看護学実習		3	
						小児看護学実習		2	
						母性看護学実習		2	
						精神看護学実習		2	
						看護の統合と実践実習		2	
	計					計	70	70	1
合計							108	104	19

表 2-2 看護科ディプロマサプリメント

川崎医療短期大学	
ディプロマサプリメント (看護科)	
1. 本学卒業者	
学籍番号	氏 名
生年月日	
2. 授与された学位と授与機関	
短期大学士 (看護)	学士取得 3 年課程
授与機関の名称 川崎医療短期大学	
3. 学修成果 (看護専門知識) : 修得単位数および総合 GPA	
① 基礎分野	単位
② 専門基礎分野	単位
③ 専門分野 I・II、統合分野	単位
総合 GPA	
- 看護の対象となる生活者としての人間を理解する基礎的知識を修得している - 対象の成長発達・健康状態・状況に応じた看護を実践するための専門的知識を修得している	
4. 学修成果	
① 科学的根拠・思考に基づく看護実践能力	評 価
- 対象の健康レベルに応じて、健康課題を発見し科学的根拠に基づき解決できる思考力の基礎を身につけている - 対象の状態・状況に応じた安全・安楽な援助技術の基礎を実践できる	
② 看護を探究する力	
- 看護に関心をもち、主体的かつ科学的に探究する姿勢をもっている - 自己成長を目指して学習課題や目標達成に取り組み、その成果を評価することができる	
③ 対人関係能力	
- 様々な価値観、年齢、立場の異なる人々を理解し、コミュニケーションをとって他者との関係を築くことができる - 看護職の役割を理解し、保健医療福祉チームの一員として他職種と連携・協働し援助できる	
④ 看護職としての社会性・倫理観	
- 人々の生き方や価値観を尊重した対応ができる - 自らの心身の健康を保ち、礼儀正しく節度ある態度と責任ある行動がとれる	
学修成果 A: 目標を十分達成し、きわめて優秀な成績 B: 目標を十分達成 C: 目標を達成 D: 目標達成が不十分	
5. 特記事項 (ボランティア、留学等)	
学位授与日	学長名 秋山 祐治 印

表 2－3 学生による授業評価結果（令和 3 年度（2021）年度）

大項目	質問項目		前期	後期
Ⅰ 学生の自己評価	1)	私は、シラバスの内容（到達目標、授業内容、評価方法）を理解している。	4.3	4.4
	2)	私は、この授業中、マナー（携帯電話、私語、いねむり、遅刻、早退をしない）を守った。	4.5	4.5
	3)	私は、授業に意欲的に取り組んだ。	4.5	4.5
	4)	私は、授業外学習（予習、復習を含む）をした。	3.9	4.0
Ⅱ 授業の基礎的な事項	5)	教員は、授業のテーマや到達目標、内容、評価方法等を予め明確に示した。	4.5	4.6
	6)	この授業は、シラバス（到達目標、授業内容）に基づいて行われた。	4.5	4.6
	7)	教員は、時間割に沿って授業を行った（休講、変更をあまりしない）。	4.5	4.6
	8)	教員は、学生が授業に集中できる環境を整える努力をしていた。	4.4	4.6
Ⅲ 学習の推進に関する事項	9)	教員は、学生が興味を持てるよう授業内容や方法を工夫していた。	4.4	4.5
	10)	教員の板書や配付資料、視聴覚機器等の教育器材の使用によって理解が深まった。	4.5	4.5
	11)	教員は、授業を適切な進度で行った。	4.5	4.5
Ⅳ 総合評価	12)	私は、シラバスで求められた到達目標をほぼ達成できた。	4.1	4.3
	13)	私は、総合的にこの授業に満足している。	4.4	4.5
Ⅴ オンライン授業に関して	14)	私は、適正な時間に受講できた。	4.4	
	15)	この科目のオンライン授業は、ポイントがわかりやすく示されていた。	4.4	
	16)	この科目のオンライン授業の課題は、適正な量であった。	4.4	

※前期該当科目のみオンライン授業評価を実施

表 2-4 令和3年度(2021)年度 FD・SD 研修会一覧

本学開催

研修会名	開催日	研修内容	講師	出席者数
FD 研修会	5月10日(月) 5月14日(金)	遠隔授業研修会	重田 崇之 講師	28 人
FD 研修会	5月31日(月)	科研費獲得に関して	掛屋 純子 准教授	30 人
FD 研修会	6月17日(木)	効果的な高校訪問のために	藤澤 薫 課長代理	35 人
SD 研修会	7月19日(月)	よりよい人間関係作りのために —価値観のワークを通して—	太田 栄子 准教授	32 人
FD 研修会	7月29日(木)	教員活動評価票「目標管理評価」の 記入方法について	新見 明子 副学長	35 人
FD・SD 研修会	8月26日(木)	学生指導に活かす SNS 研修会	(株)コムパレット 桐野 志摩美 代表	43 人
FD・SD 研修会	9月15日(水)	目からウロコのエクセル活用術	川崎医療福祉大学 谷川 智宏 講師	31 人
FD・SD 研修会	12月27日(月)	2022 年度シラバス作成等について	松本 明美 教務部長	40 人
FD・SD 研修会	1月25日(火) 26日(水) 27日(木)	Web Class 講習会	重田 崇之・熊野 一 郎・沖田 聖枝・河畑 匡法 (LMS WG)	35 人
FD・SD 研修会	2月10日(木)	教職員・学生との情報共有のため の Teams 活用講習会	重田 崇之・熊野 一 郎・沖田 聖枝・河畑 匡法 (LMS WG)	33 人

医療福祉大学・医科大学開催 (※医療福祉大学・医療短期大学・リハビリテーション学院)

研修会名	開催日	研修内容	講師	出席者数
FD・SD 研修会 (医療福祉大学)	5月25日(火)～ Web 視聴	学生支援の現状 —学生のマルチ商法被害について— —コロナ禍における学生支援について—	川崎医療福祉大学 矢納 陽 教授 田並 尚恵 准教授	13 人
FD・SD 研修会 (医療福祉大学)	7月1日(木)～ Web 視聴	令和3年度大学認証評価受 審について —大学評価について— —川崎医療福祉大学における内 部質保証と教学マネジメント—	川崎医療福祉大学 秋山 祐治 副学長 宮川 健 副学長	14 人
授業研究カ ンファレン ス (医療福祉大学)	8月11日(水)～ Web 視聴	「医療と福祉」「医療福祉学 概論」の遠隔講義実施におけ る現状と課題 「自然科学入門」効果的なリ メディアル教育を目指して	川崎医療福祉大学 兵藤 史武 助教 川崎医療短期大学 平口 鉄太郎 准教授	6 人
FD・SD 研修会 (3施設合同)※	9月18日(土)	近畿大学の取り組みとこれ からの大学広報～大学淘汰 の時代を生き抜くために～	近畿大学入学センター 高大連携課 屋木 清孝 参事	18 人
FD・SD 研修会 (医療福祉大学)	9月7日(火)～ Web 視聴	ハラスメント防止活動に関 する教職員アンケート調査 結果について 近年の職場におけるハラス メント事情	川崎医療福祉大学 谷川 智宏 講師 森脇法律事務所 森脇 正 所長	29 人
SD 研修会 (医科大学)	10月1日(火)～ Web 視聴	アンガーマネジメント(入門 編)	広島大学医学部附属医 学教育センター 蓮沼 直子 センター長	23 人

表 2－5 令和 4 年（2022 年）国家試験結果

学 科	受験者数（人）	合格者数（人）	合 格 率（％）	全国合格率（％）
看 護 科	132	129	97.7	91.3
医療介護福祉科	13	13	100.0	72.3

表 2－6 医療介護福祉科教育課程表

区分	授業科目	卒業単位	単位		区分	授業科目	卒業単位	単位			
			必修	選択				必修	選択		
基礎分野	保健医療福祉概論	8	1		介護	介護過程の基礎		1			
	文章表現		2			介護過程の展開Ⅰ		1			
	心理学			2		介護過程の展開Ⅱ		1			
	自然科学入門			2		介護過程の展開Ⅲ		1			
	健康体育基礎理論			2		介護過程の展開Ⅳ		1			
	健康体育基礎演習		1			介護総合演習Ⅰ-1		1			
	情報処理演習		2			介護総合演習Ⅰ-2		1			
	基礎英語Ⅰ			2		介護総合演習Ⅰ-3		1			
	基礎英語Ⅱ			2		介護総合演習Ⅱ		1			
	計		8	6		10		介護実習Ⅰ-1	2		
専門基礎分野	人体の構造と機能	8	2		専門分野	介護実習Ⅰ-2	37	2			
	老年医学		2			介護実習Ⅰ-3		2			
	医療倫理学			2		介護実習Ⅱ		4			
	保健医療サービス			1		計		37	37	0	
	高齢者の看護と介護			2		こころとからだのしくみⅠ	10	1			
	口腔機能管理			1		こころとからだのしくみⅡ		1			
	介護予防運動指導			1		こころとからだのしくみⅢ		1			
	医療介護福祉総合演習Ⅰ		1			こころとからだのしくみⅣ		1			
	医療介護福祉総合演習Ⅱ		1			発達と老化の理解Ⅰ		1			
	医療介護福祉総合演習Ⅲ		1			発達と老化の理解Ⅱ		1			
医療介護福祉総合演習Ⅳ	1		認知症の理解Ⅰ	1							
計	8	8	7	認知症の理解Ⅱ	1						
人間と社会	人間の尊厳と自立	16	2		医療的ケア	障害の理解Ⅰ	10	1			
	人間関係とコミュニケーション		2			障害の理解Ⅱ		1			
	チームマネジメントⅠ		2			計		10	10	0	
	社会と制度の理解Ⅰ		2			医療的ケアⅠ		3	1		
	社会と制度の理解Ⅱ		2		医療的ケアⅡ	1					
	現代社会と福祉		2		医療的ケアⅢ	1					
	社会理論と社会システム		2		計	3	3	0			
	異文化理解		2		計	66	66	0			
	計	16	16	0	医療福祉系科目群	疾患・障害等のある人への生活支援・連携Ⅰ	4	2			
	専門分野	介護	37	利用者理解		1			疾患・障害等のある人への生活支援・連携Ⅱ	2	
介護とは何か				1				生活支援のための運動学・低ハビリテーションの知識		2	
尊厳を支える介護				1				福祉用具と住環境		2	
介護労働者の健康管理				1				認知症のある人への生活支援・連携		2	
終末期の介護				1				心理的支援の知識・技術		2	
リハビリテーション論				1				医療心理学		2	
コミュニケーションⅠ				1			計	4	4	10	
コミュニケーションⅡ				1			実習科目群	介護技術Ⅴ	13	1	
生活支援				1				医療介護福祉実習指導		1	
生活支援（食生活）Ⅰ				1		医療介護福祉（口病院実習）		4			
生活支援（食生活）Ⅱ	1		地域包括ケアと介護	2							
生活支援（衣生活・住居）	1		地域介護実践実習指導	1							
介護技術Ⅰ	1		地域介護実践実習	4							
介護技術Ⅱ	1		計	13	13	0					
介護技術Ⅲ	1		マネジメント系	介護管理	4	2					
介護技術Ⅳ	1			チームマネジメントⅡ		2					
障害に応じた介護Ⅰ	1			医療福祉施設経営論			2				
障害に応じた介護Ⅱ	1			計		4	4	2			
				計	21	21	12				
				合計	103	101	29				

表 3－1 在籍者内訳（令和 3（2021）年 5 月 1 日現在）

		1 年			2 年			3 年			計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
看護科 入学定員 120 収容定員 360	在籍者	7	113	120	9	125	134	12	149	161	28	387	415
	(休学)	0	0	0	1	0	1	1	6	7	2	6	8
医療介護福祉科(2 年制) 収容定員 80	在籍者				3	11	14				3	11	14
	(休学)				1	0	1				1	0	1
医療介護福祉科(3 年制) 入学定員 50 収容定員 50	在籍者	3	11	14							3	11	14
	(休学)	0	0	0							0	0	0
合計 入学定員 170 収容定員 490	在籍者	10	124	134	12	136	148	12	149	161	34	409	443
	(休学)	0	0	0	2	0	2	1	6	7	3	6	9

表 3－2 出身都道府県別在籍者数及び入学者数（令和 3（2021）年 5 月 1 日現在）

出身高校県名	在籍者数	内入学者数		
		看護科	医療介護福祉科	合計
北海道	1			
宮城県	1	1		1
大阪府	1	1		1
兵庫県	16	3		3
鳥取県	12	5		5
島根県	17	2		2
岡山県	253 (57.1%)	71 (59.2%)	11 (78.6%)	82 (61.2%)
広島県	65	20	1	21
山口県	24	6	1	7
徳島県	2	1		1
香川県	21	5	1	6
愛媛県	20	5		5
高知県	3			
福岡県	2			
佐賀県	1			
宮崎県	2			
鹿児島県	2			
合計	443	120	14	134

表 3－3 令和 4（2022）年度 学科別入学試験結果概要

		看護学科			医療介護福祉学科			合 計		
総合型選抜	募集人員	50			25			75		
	志願者数	60			3			63		
	合格者数	51			3			54		
	入学者数	51			3			54		
学校推薦型選抜前期	区分	指定校	有資格	公募	指定校	有資格	公募	指定校	有資格	公募
	募集人員	23			15			38		
	志願者数	15	1	18	6	3	0	21	4	18
	合格者数	15	0	13	6	3	0	21	3	13
	入学者数	15	0	13	6	3	0	21	3	13
学校推薦型選抜後期	区分	A 日程		B 日程	A 日程		B 日程	A 日程		B 日程
	募集人員	9		6	4		0	13		6
	志願者数	45		34	1		0	46		34
	合格者数	37		30	1		0	38		30
	入学者数	15		7	1		0	16		7
一般選抜前期	区分	A 日程		B 日程	A 日程		B 日程	A 日程		B 日程
	募集人員	18		12	2		2	20		14
	志願者数	40		27	3		2	43		29
	合格者数	38		21	3		2	41		23
	入学者数	11		0	1		0	12		0
一般選抜後期	募集人員	2			2			4		
	志願者数	5			0			5		
	合格者数	3			0			3		
	入学者数	2			0			2		
入 学 定 員		120			50			170		
入 学 者 数		114			14			128		

表 4-1 令和 3（2021）年度就職支援に関するアンケート

「令和 2・3 年度本学における就職支援に関するアンケート調査」結果概要
—就職活動への役立ち度の平均—

講座名 年 度	就職活動への役立ち度（平均）		
	令和 2 年度 回答者数：124 人	令和 3 年度 回答者数	
		NS106 人	CW13 人
R2 動機付け R3 就職活動スタートアップ	7.3	7.6	7.8
特に役立った項目	・採用のポイント（65%） ・情報収集（54%）	・就職活動を始める前に（61%） ・求められる人物像（48%）	・就職活動を始める前に（46%） ・求められる人物像（31%）
自己分析	7.4	7.7	8.3
特に役立った項目	・自己 PR 作成（72%） ・自己 PR とは（60%）	・自己 PR 作成（74%） ・自己分析について（51%）	・自己分析について（54%） ・電話のマナー（31%）
履歴書の書き方	7.8	8.6	8.0
特に役立った項目	・書き方の基本（80%） ・自己 PR/志望動機作成ポイント（69%）	・自己 PR/志望動機作成ポイント（77%） ・書き方の基本（74%）	・自己 PR/志望動機作成ポイント（69%） ・書き方の基本（54%）
面接対策	7.6	8.4	8.3
特に役立った項目	・面接の内容（自己 PR）（70%） ・面接の基本（67%）	・面接の内容（自己 PR）（70%） ・面接のポイント（74%）	・面接の内容（自己 PR）（62%） ・面接の基本（54%）
就職前社会人支援	7.5	7.8	8.6
社会人としての意識の高まり度	7.5	8.4	8.5
特に役立った項目	・身だしなみ・動作（71%） ・表情・言葉遣い（60%） ・ビジネス電話の基礎（60%）	・表情・言葉遣い（84%） ・コミュニケーション・報連相（74%） ・ビジネス電話・メール（62%）	・社会人基礎力（69%） ・身だしなみ（69%） ・表情・言葉遣い（69%）

役立ち度：1 全く役立たない～10 大いに役立つ

特に役立った項目：それぞれの講座の内容の中から、特に役立った項目を選択した学生の割合

「令和3年度本学における就職支援に関する学生アンケート調査」の結果を受けて

看護科

看護師の採用試験では、ほとんどの病院で履歴書審査や面接試験が実施されている。近年の新型コロナウイルス感染症の影響のため、試験会場外での受験やリモート面接を実施する病院も増えてきた。一方で、約半数の学生が筆記試験を現地で受験しており、92%の学生が対面での面接試験を受けていた。本学では、マイナビによる就職支援講座の中で、履歴書の書き方講座、面接対策講座を実施し、基本的な履歴書の書き方や面接におけるルール・マナーを教えている。それぞれの講座の役立ち度は7.6～8.6/10で、いずれも昨年度に比べて高くなっており、講座の資料を活用して履歴書の作成や面接対策を行って就職試験に臨んでいることが伺えた。

新型コロナウイルス感染症が拡大する中で、インターンシップや病院見学会が中止となり、受験する病院のことをよく知らないまま受験する学生もいたことから、自分に合った病院選びができるような就職活動の支援を行うことが今後の課題として必要である。

就職前支援講座は、今年度からマイナビによる講座に変更した。昨年度と比べ、社会人としての意識の高まり度が上昇していたことから、社会人となる意識付けのためにも、引き続き継続して実施することが望まれる。

医療介護福祉科

就職支援講座の開催時期は、適切であったと受講したすべての学生が答えており、就職活動開始前に講座を受けることの意義は大きいと思われる。また、自己分析について苦手な学生もいることから、講座の中で行った自己分析の結果が就職活動時の履歴書作成や面談の際に有益であることを伝え、データを上手く活用できるように個別に指導していくことが必要である。

医療介護福祉科では、6月～10月が病院への就職活動、国家試験前後の時期が福祉施設への就職活動と、就職活動の時期が二つに分かれている。履歴書、面接講座は7月に実施されるため、福祉施設への就職活動を行う学生にとっては講座の時期と就職活動の時期が離れている。このため、7月に行った講座の内容を実際の就職活動で生かせるよう、就職試験前に個別に面接練習を実施していく必要がある。履歴書作成については、次年度より就職支援講座を受講することの重要性が増す。今後とも、学生の就職活動の時期が二つに分かれていることを念頭に置いた就職支援を行っていきたい。

表 4－2 卒業生の進路状況（令和 4（2022）年 5 月 1 日現在）

区分 学科	卒業 者数	就 職（昨年同期）			学園関係 就職者数	求人数	進 学		その他
		希望者数	就職者数	就職率			希望者数	進学者数	
看 護 科	132	124	124	100 (100)	61	327	3	3	5
医療介護福祉科	14	12	12	100 (100)	0	302	1	1	1
合 計	146	136	136	100 (100)	61	629	4	4	6

備考 1. 看護科卒業生数のうち 3 人は前期末卒業

2. 「その他」は進路未定の者、就職・進学とも希望のない者、契約社員等一時的な仕事に就いた者等の数を含む。

表 5－1 専任教員数（令和 3（2021）年 5 月 1 日現在）

区 分 学 科	専 任 教 員 数					設置基準で定 める 教員数	
	教 授	准教授	講 師	助 教	計	(イ)	(ロ)
看 護 科	7	7	9	7	30	12	4
医療介護福祉科	4	1	2	2	9	10	
(合 計)	11	8	11	9	39	26	

* 医療介護福祉科の設置基準で定める教員数（イ）は 3 年制完成年度の教員数

表 5－2 外部研究費の獲得件数（令和 3（2021）年度）

区 分 学 科	科学研究費 (代表)			科学研究費 (分担)	その他		
	新規		継続	新規・継続	新規		継続
	申請	採択			申請	採択	
看 護 科	0	0	1	3	1	0	0
医療介護福祉科	1	0	1	1	0	0	0
合 計	1	0	2	4	1	0	0

表 5－3 教員研究費の決算（令和 3（2021）年度）

（単位：円）

学 科	区分	教員数（人）	研究費	研究旅費	機器・備品等の整備費	研究に係る図書費*等	合計
看 護 科		30	1,762,090	339,400	0	—	2,101,490
医療介護福祉科		9	218,717	4,320	0	—	223,037
図 書 館		—	—	—	—	3,812,869	3,812,869
合 計		39	1,980,807	343,720	0	3,812,869	6,137,396

*図書費には、寄贈を受けた書籍を資産として組み込んだ金額を含む

表 5－4 教育・研究に係る機器及び備品・図書等の整備状況（令和 3（2021）年度）

（単位：千円）

学 科	区分	機器及び備品	図書	合計
看 護 科		6,867	332	7,199
医療介護福祉科		3,460	238	3,698
そ の 他		41,227	3,244	44,471
合 計		51,554	3,814	55,368

*図書欄中の“その他”は本学全体で購入した資産額

表 6－1 公開講座及び倉敷市大学連携講座一覧（令和 3（2021）年度）

公開講座

	日時	テーマ	講演者等	主管	備考
第 1 回 Web	9 月 4 日（土） 10：00～配信 （当日のみ）	認知症のある人の介護の基本 ～よりよい関わりについて～	居村 貴子 （本学 講師）	医療介護福祉科	再生回数 87 回 動画ページへのアクセス 262
第 2 回 Web	12 月 24 日（金） 配信開始 3 月 31 日（木） まで配信	医療安全を学ぼう ～ヒヤリ・ハット体験からの 学び～	岡田みどり （本学 教授）	看護科	再生回数 195 回 動画ページへのアクセス 674

倉敷市大学連携講座

日時	テーマ	講演者等	主管	備考
11 月 27 日（土） 14：00～15：30 ライフパーク倉敷	DNA を見てみよう！ ～“体の設計図”に迫る～	平口鉄太郎 （本学 准教授）	医療介護福祉科	受講者 13 人 オンライン講座 配信期間 1 月 14 日（金）～20 日（木）

表 7－1 令和 2（2020）年度教員活動評価結果（二次評価結果）

評価	看護科	医療介護福祉科	計
S	1	0	1
A	15	1	16
B	6	2	8
C	1	1	2
D	0	0	0
計	23	4	27

S：極めて高い活動状況である

A：高い活動状況である

B：普通の活動状況である

C：期待水準を下回る活動状況である

D：期待水準を大幅に下回る活動状況である

表 7-2 卒業後アンケート

1. 川崎医療短期大学の教育・学生生活に関するアンケート（卒業後アンケート）概要および結果

1) 調査期間

令和3年8月

2) 対象者属性

◆学科（カッコ内は回収率）

・看護科 卒業生 82人（59.0%）

・医療介護福祉科 卒業生 7人（58.3%）

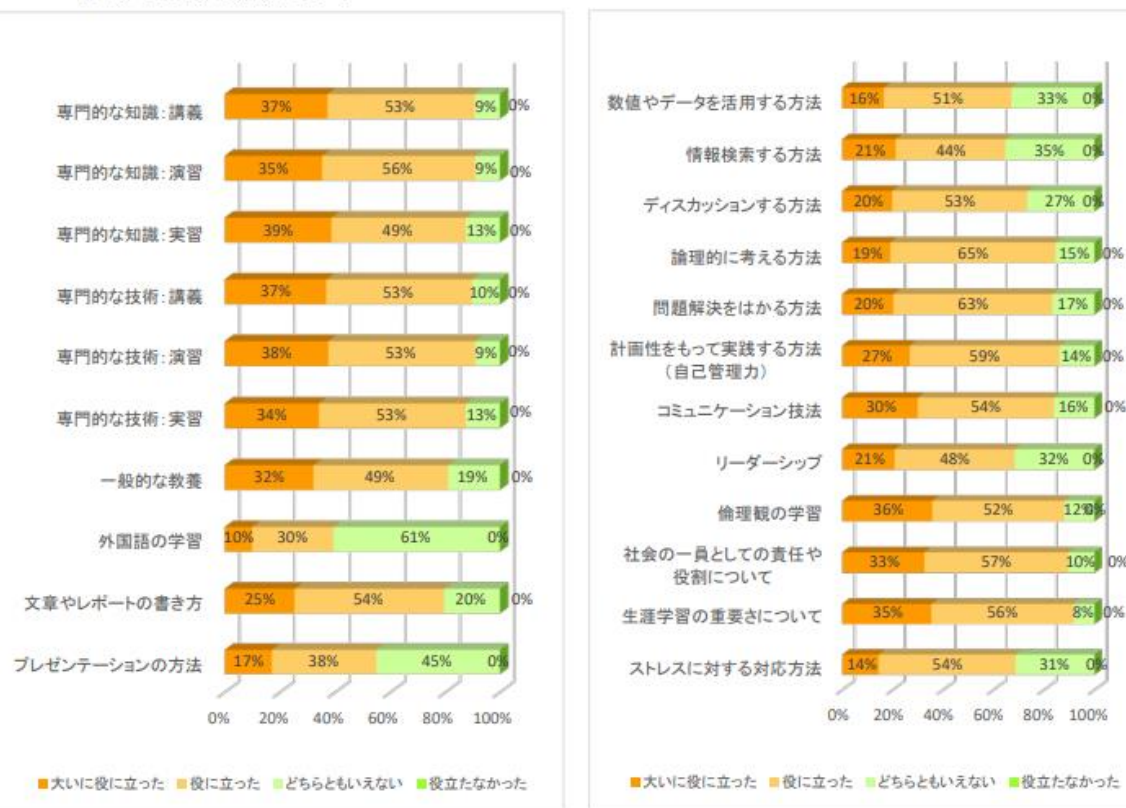
◆進路（4月段階）（カッコ内は割合）

・就職 87人（97.8%） ・進学 2人（2.2%）

3) アンケート結果

A. 学生生活全体について

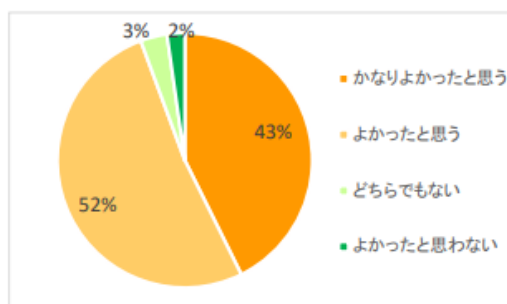
1. 在学中の大学の教育について



1-その他気になる点（2件）

職場ではパソコンでの操作が主であるため学校生活でもワードやエクセルを使用した学習や課題がもう少しあっても良いと思った。人体の構造と機能などはわかりやすかったが、プリントを読んでいくだけの授業はわかりにくかった。

2. 本学の学びの評価



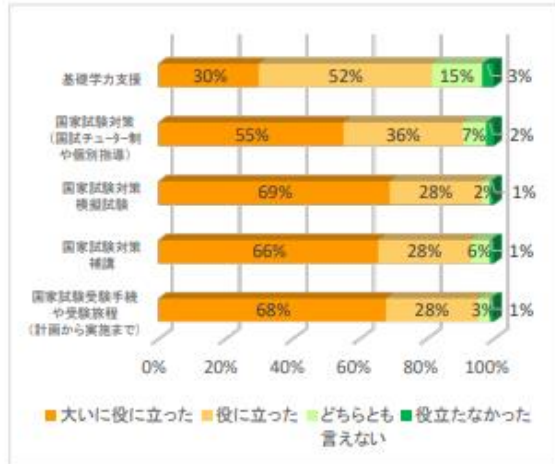
<本学で学んでよかった理由> 自由記載 29 件

- ・テスト期間はしんどかったけれど一般教養もたくさん学べたから。 ・質問しやすい環境であった。
- ・大変だったけど振り返ってみたら充実した3年間だったから。
- ・4年制と比べて忙しい学校生活ではあったものの勉強する時間ばかりでなく遊びやアルバイトなど自身の見識を広げる時間も取れるカリキュラムだった。
- ・患者さん、利用者さんの気持ちを第一に考えながら実習ができた。 ・仲の良い友人ができたから。
- ・良い先生たちだったから。 ・親身になってくれた (2)。 ・協力的だった。 ・A先生がよかった。
- ・熱心に講義をしてくれた。 ・実習でつらい時先生が励ましてくれた。
- ・指導熱心で寄り添ってくださる先生方にお世話になれて嬉しかったから。
- ・先生たちに勉強面、精神面等助けられたことがたくさんある。
- ・時間管理や授業に追いつけるよう必死に努力する力が身に付いた。
- ・臨地や学内実習で学んだことが実際の現場で生かしていることが多い (2)。
- ・学んだことが就職して役立っているから (3)。 ・医療的なことも学んだため多職種連携ができているから。
- ・実習中に先を考えて行動することや優先順位を考えることが看護師になって役立っているから。
- ・附属病院があったことでコロナ禍でも実習に行けたから。 ・就職先の職場のことが学べたため。
- ・コロナ禍でインターンシップ等が中止されているなかで希望する就職先で実習が行えた。
- ・コロナで実習がなくなったこともあったが他の看護学校と比べると良く実習ができたから。

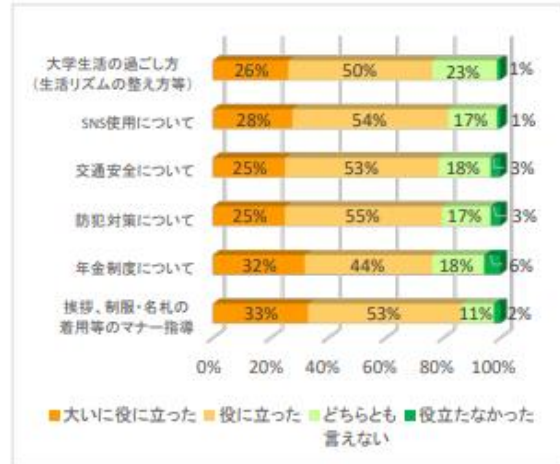
<他に本学で学びたかったこと> 自由記載 5 件

- ・申し送りの方法 ・手術室の見学実習 ・在宅・精神 (コロナ禍で実習に行けなかった) の見学実習
- ・もっと実習に行っておきたかった ・パソコンでの看護記録記入

3. 在学中の教育的サービスについて



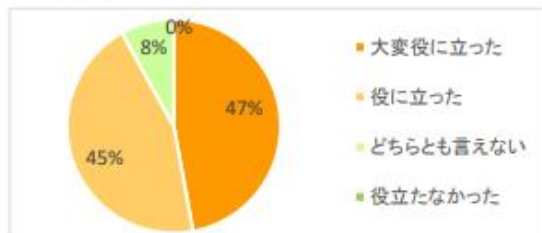
4. 在学中の学生生活支援サービスについて



4-その他気になる点

服装に対して厳しすぎた。先生によって言うことが違う。

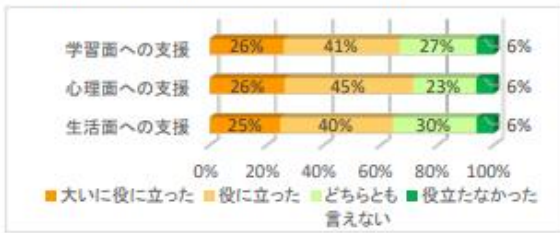
5. 担任制度について



5-その他気になる点

何でも聞けるし相談できる。
とても良かったです。

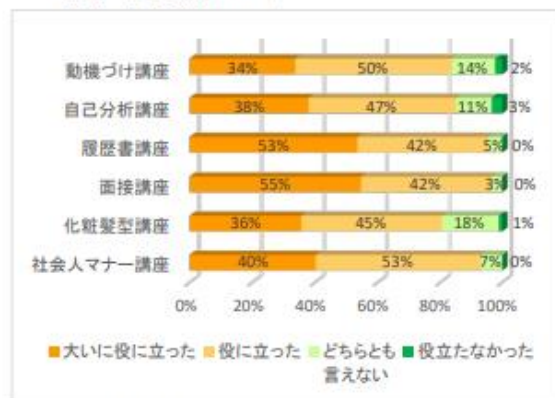
6. アドバイザー制度について（看護科のみ）



6-その他気になる点

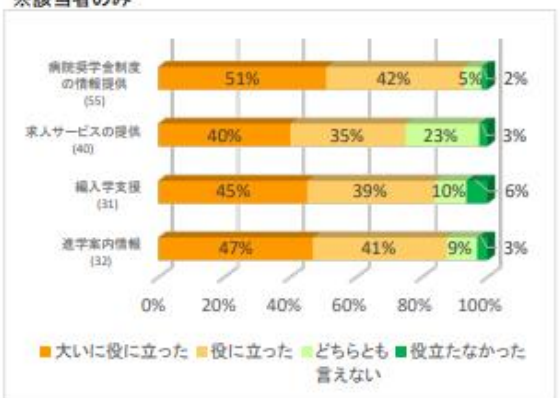
あまりアドバイザーと関わることがなかった。
悩んでもう勉強するもの諦めそうになった時に
励ましていただきました。

7. 就職・進学支援について



7-その他気になる点 なし

※該当者のみ



8. 在学中にできなかったことで、学生時代にしてみたいかったこと

・BLS ・謝恩会 ・卒業旅行 ・サークル ・部活動などで楽しみたいかった (3)
 ・在宅実習と病院実習 ・青春！ ・学祭 ・もっと遊んだりしたかった ・泊まりで勉強会

まとめ 学生生活について

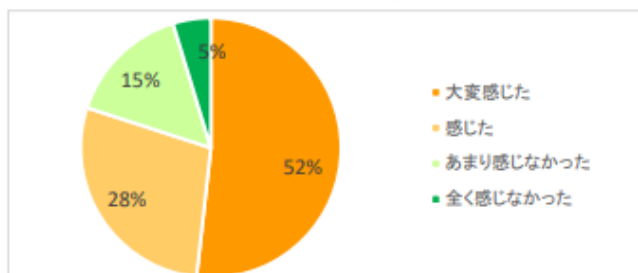
医療・福祉職養成のための教育に対する評価は高かった。また国家試験対策は、卒業後の就職や業務内容にも直結するため、それらに対する教育サービス（国家試験対策）を行うことに対しては評価が高い。それが本学で学んだことに対する高い満足度につながっていると考ええる。少数意見だが、自由記述の中に就職後のためにパソコン操作の教育を希望している学生もあり、課題をパソコンで作成するなど、学生のうちから操作に慣れる必要性を感じた。

生活支援に関する講座はいずれも役立っているとの回答が多く、時期やもち方を検討したうえで継続していくことが望ましいと考える。

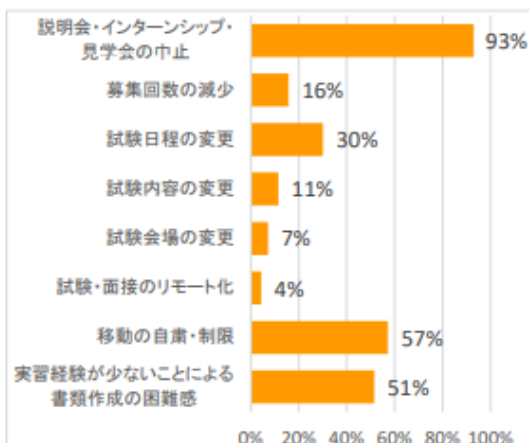
担任制度はほとんどの学生が役立っていると評価しており、日頃より関わりの深い教員からしっかりとサポートを受けられている実感があるのではないかと考える。それに比較するとアドバイザー制度はやや低いようにも見えるが、過半数は役立っていると評価していた。担任教員と比べると関わりが少ない点や、アドバイザーは1年のみの制度であることから記憶が薄れている点などが影響しているのではないかと考える。アドバイザー制度は入学から間もない学生の履修指導や生活指導などが少人数対象でおこなえるという利点があり、実習や就職等で担任以外に相談できる場所があっても良いと考えるため、継続が望ましいと考える。

B 新型コロナウイルス感染症の進路に対する影響

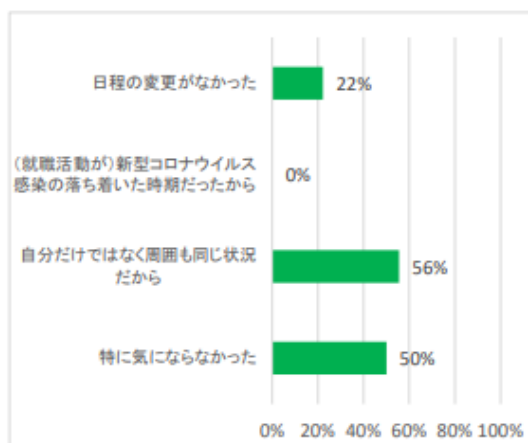
1. 就職活動 新型コロナウイルスによる影響の有無



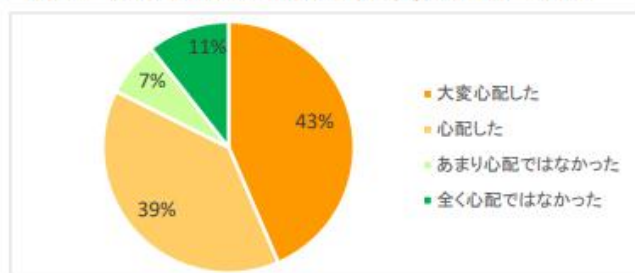
1-a 影響を受けたと感じた事象 (70 件)



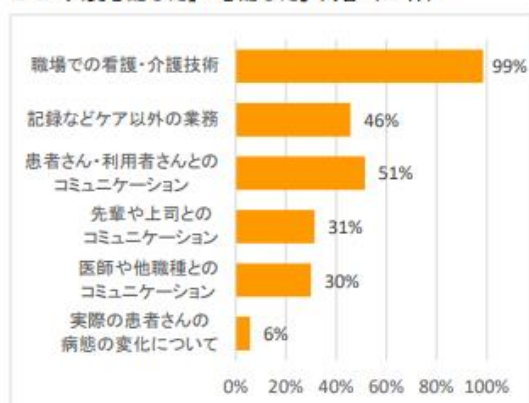
1-b 影響を感じなかった理由 (18 件)



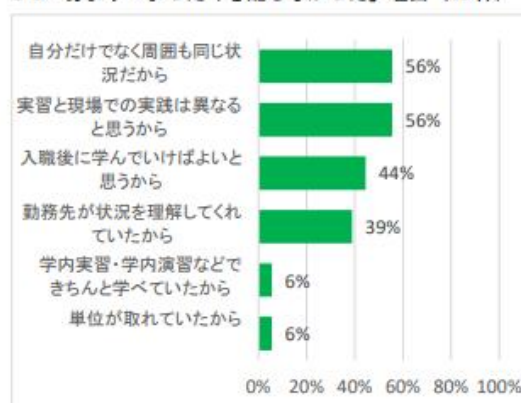
2. 入職前 学外実習の中止・短縮が仕事に影響する心配（85 件）



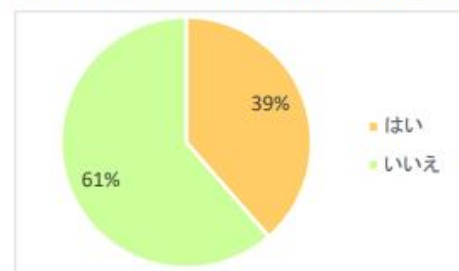
2-a「大変心配した」「心配した」内容（70 件）



2-b「あまり・まったく心配しなかった」理由（18 件）



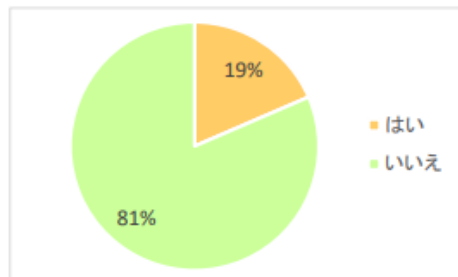
3 入職後、学外実習の中止や短縮を補うための例年とは異なる特別な配慮や研修等の有無（83 件）



3-a 例年とは異なる特別な配慮や研修（13 件）

- ・ 研修期間が例年に比べ長かった。（4）
- ・ 各病棟のローテーション研修など追加の研修があった（2）。
- ・ ゆっくり指導してもらっている。
- ・ 基礎的な技術を 1 から研修で教えていただいた。
- ・ 院外での研修がなくなった。
- ・ 研修を午前と午後で分けて行われている
- ・ 例年は集まっていた研修を今年は各部署に分かれて行い、プリセプターや教育委員の方が中心となって研修をしてくださった。また、先輩についてシャドーイングを行う期間が長く、先輩方の仕事や技術の見学が多くできた。
- ・ 2 か月間各病棟を回り科を選ぶことができ、その際に学生時代にできなかった基礎的看護技術取得期間もあった。

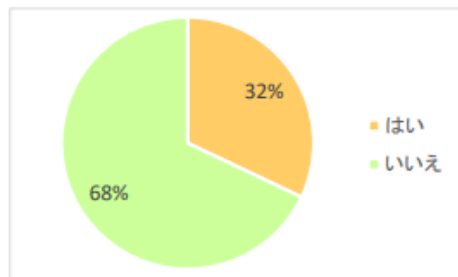
4. 学外実習の中止や短縮による良い影響の有無（現在）（4 件）



4-a 良い影響ありの場合の理由

- ・業務や技術を少しずつ進めてくださるから。
- ・看護のための講義や研修が2週間毎日あったこと。
- ・実習と働くのでは全然異なる。
- ・実習経験は大切であるがそれほど心配することではなかった。働きだしてからがすべて。正直看護学生時代の実習経験は関係ないと思った。

5. 学外実習の中止や短縮による良くない影響の有無（現在）（17 件）



5-a 良くない影響ありの場合の理由

- ・実際の看護展開が難しい。
- ・看護技術や臨床で必要となる知識の不足（2）。
- ・あまり経験していない看護技術で苦戦した。
- ・ケアなどの経験が少なかったから。
- ・技術が身についてないと思った。
- ・臨床で行われている実際の看護技術がわからない。
- ・現場での経験不足。
- ・経験が少なかった。
- ・実際の看護師の働き方や患者さんとの関わり方を見る機会が減ったから。
- ・患者さんとのコミュニケーション方法をもっと実習で勉強したかった。
- ・例年に比べて即戦力が低いと思うから。
- ・病院の雰囲気、学生時代どう対処してたんだろうと考えられない。
- ・先輩からコロナ期間の実習生だから何もできんよねと言われる。
- ・臨床に出るときの緊張感が大きかった。普段ならできることもできなくなるんじゃないかと不安があった。
- ・他の総合病院附属の看護学校は実習を続けていたので、私が経験のない診療科に就職して知識の差を感じた。

まとめ 新型コロナウイルス感染症の進路に対する影響について

アンケート対象の卒業生は、新型コロナウイルス感染対策を模索するなかで学外実習・就職活動の時期を迎えており、それに関する影響を大きく受けていた。就職説明会やインターンシップの中止や日程変更などはほとんどの卒業生が体験しており、就職準備が十分に行えないことに不安を感じていたのではないかと推察できる。また学外実習の経験が少ないことを心配した卒業生のうちのほとんどが技術力の不足を感じていた。さらに現場でのコミュニケーションやその他の業務についても心配しており、実習経験の少なさが様々な心配を引き起こしたと考えられる。

回答者のうち 38.6%が学外実習中止や短縮を補うための配慮や研修等を就職先で受けたが、61.4%は特別な対応を受けなかった。経験が少ないうえに特別な配慮が行われないことが、卒業生をさらに心配させたかと推察できる。

一方、就職して4か月経った今回の調査時に「学外実習の中止や短縮の良くない影響を感じている」のは32.1%、感じていないのは67.9%で、影響を感じていない方が多かった。入職時には心配が多かったが、長めの新任研修など病院や施設側の配慮を受けたことや、実際の業務に関わり始めたことで少しずつ心配が解消していつているのではないかと考える。

表 7-3 令和 3（2021）年度学生生活満足度及び生活実態調査（学修成果達成状況含）

教務委員会・学生生活支援委員会

I. 調査時期、対象者数

1. 調査時期：令和 4 年 1 月下旬～2 月上旬

2. 対象者および対象者数・有効回答数

対象者：令和 3 年度在学生（休学者を除く令和 4 年 1 月 1 日に在学している者）

	クラス別					学科別	
	NS1	NS2	NS3	CW1	CW2	NS	CW
対象者数	116	130	155	12	14	401	26
有効回答数	116	110	145	12	14	371	26

＊質問により回答数にばらつきが生じたため、有効回答数は最初の質問に答えた人数とした

II. 令和 3 年度の大学教育環境

令和 3 年度は新型コロナウイルス感染症蔓延による緊急事態宣言発令や繰り返される感染拡大により、下記のような環境の変化及び制限がかかり、学修環境は十分整った状況とはいえない 1 年であった。

【教育環境】

4 月：前期授業開始から通常授業を開始した。

5 月：緊急事態宣言の発令により 5 月 17 日から登校を全面中止しリモートでの授業を開始した。

6 月：6 月 7 日から 6 月 20 日まで一部演習科目を小グループ体制で再開した。

以降年度末まで：収容定員の 50%減の学生数での対面授業体制を敷き、教育を止めない措置を講じた。

後期試験：令和 4 年 1 月に新型コロナウイルス感染症の第 6 波の急速な拡大により、通常 10 日間ある後期定期試験を 1 週間に短縮して火急な登校制限に対応できるよう備えた。

学外実習：実習先からの学生の受入れ中止や人数制限等が継続的に続き、学内実習への振り替えや時期の調整を行い対応した。

【行事関連】

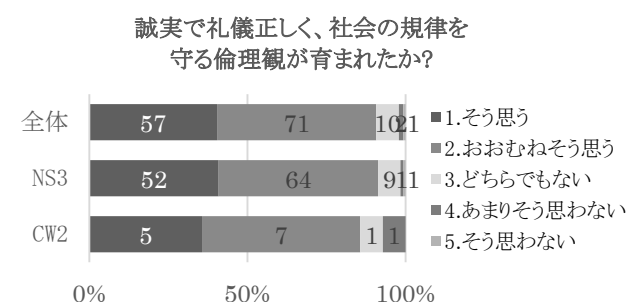
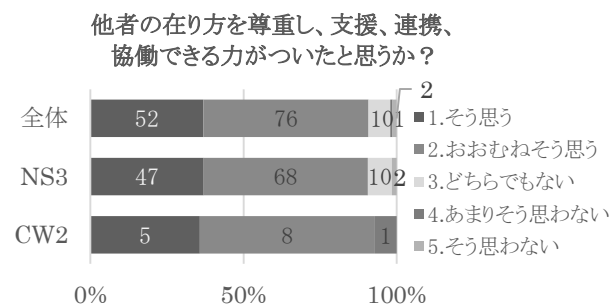
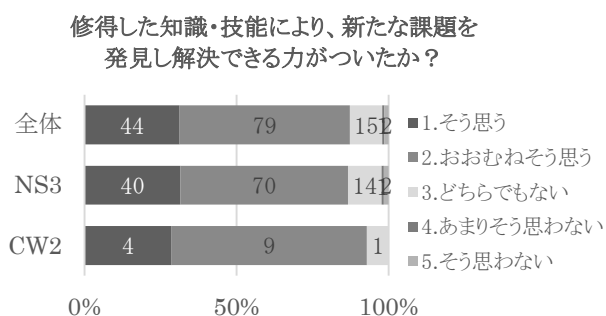
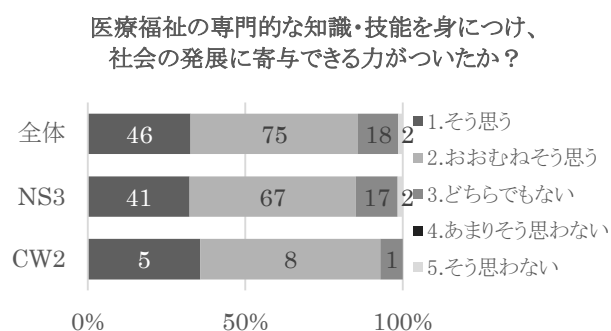
入学・卒業式等の式典の縮小、学友会活動の縮小（スポーツ大会中止、クリスマス会縮小）、学園祭縮小、学科施設見学や交流会の縮小及び中止、生活の制限として県外移動の制限やアルバイト内容の制限など人々が交流を図る事柄に常に制限が加わった状況であった。

III. アンケート結果および分析

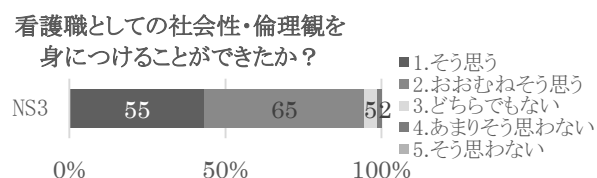
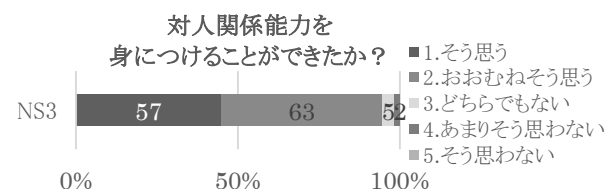
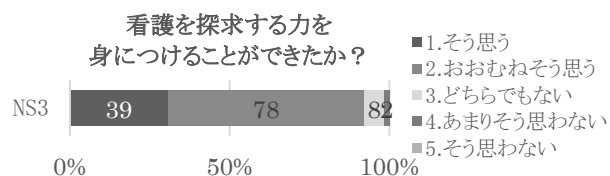
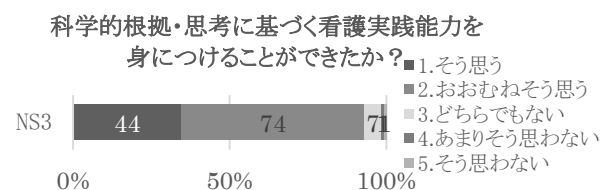
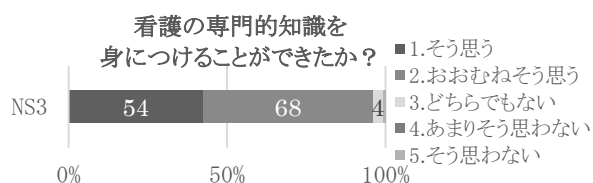
1. 教育に関する満足度：教務委員会

1) 卒業年次学生対象調査

(1) 川崎医療短期大学ディプロマポリシー達成度

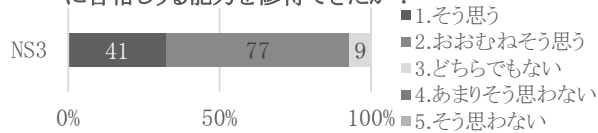


①看護科



b ディプロマポリシー

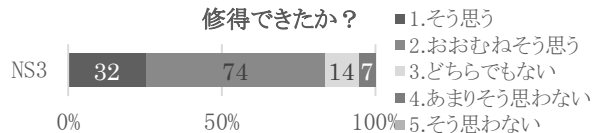
看護師に必要な知識とともに、看護師国家試験に合格しうる能力を修得できたか？



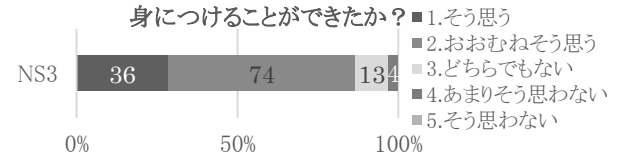
看護現場で必要とされる看護技術の水準に到達しているか？



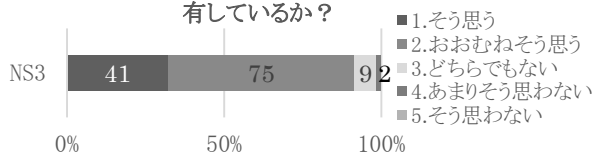
根拠に基づいた看護を提供できる実践能力を修得できたか？



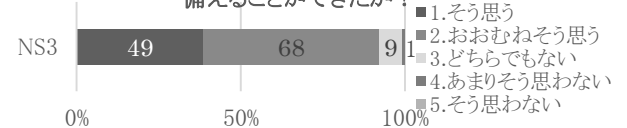
主体的に看護を探究する態度を身につけることができたか？



他職種と連携・協働する能力を有しているか？



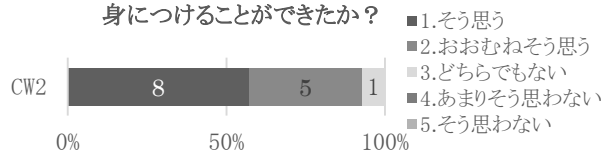
医療人としての豊かな人間性と高い倫理観を備えることができたか？



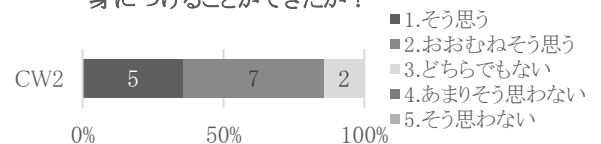
②医療介護福祉科

a 学修成果

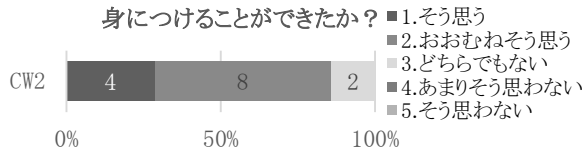
介護の専門的知識を身につけることができたか？



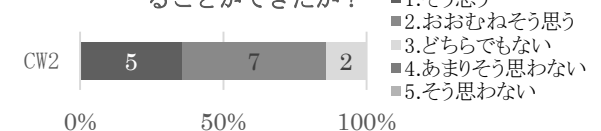
介護の実践能力を身につけることができたか？



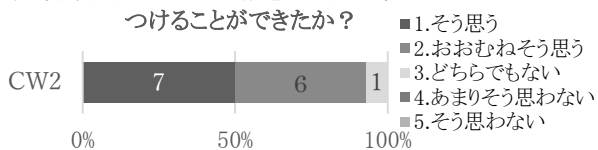
介護を科学的に探究する力を身につけることができたか？



介護福祉士としての対人関係能力を身につけることができたか？

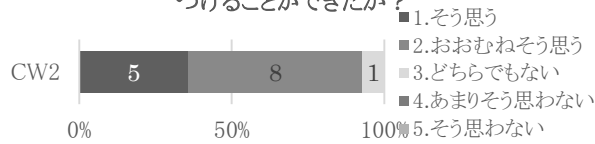


介護専門職としての人権意識と倫理観を身につけることができたか？



b ディプロマポリシー

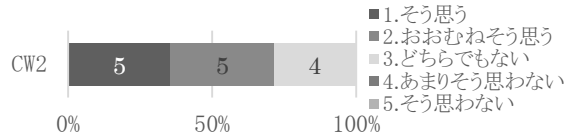
生活支援が必要な人への介護実践能力を身につけることができたか？



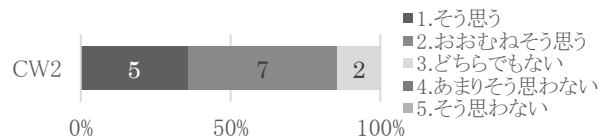
医療介護福祉の専門知識を持ち根拠を明確にした介護ができるか？



豊かな感性と高いコミュニケーション能力を身につけ、他職種と連携してチームケアができるか？

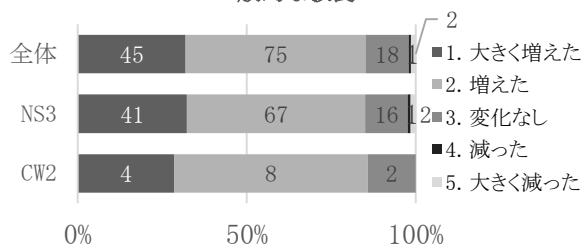


医療介護福祉の意義を理解し、人権擁護意識と職業倫理を身につけることができたか？

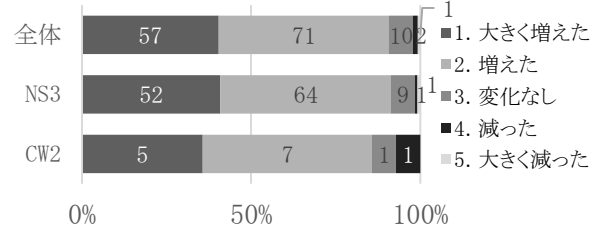


(3) 社会人基礎力自己評価

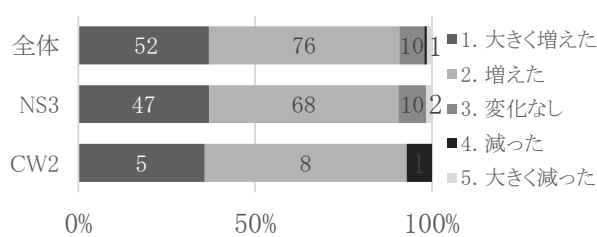
一般的な教養



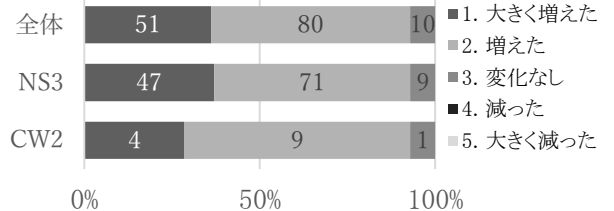
異文化の人々に関する知識



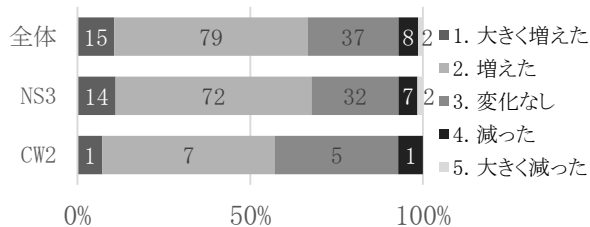
批判的に考える力



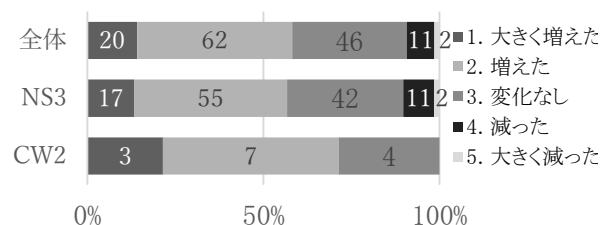
コンピュータの操作能力

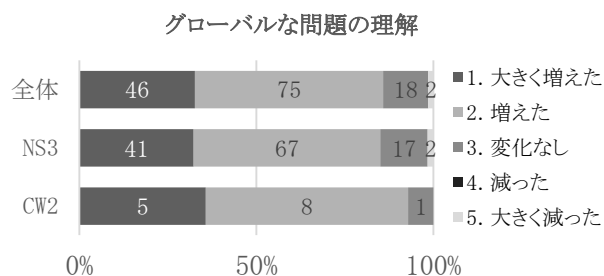
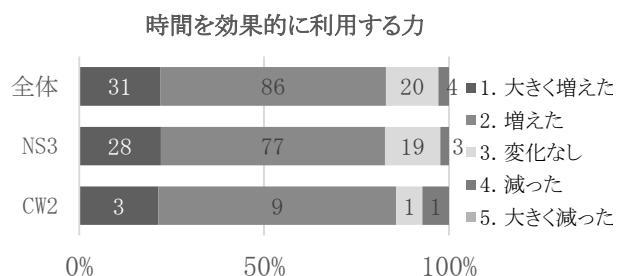
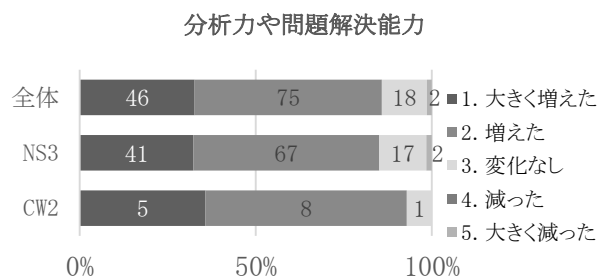
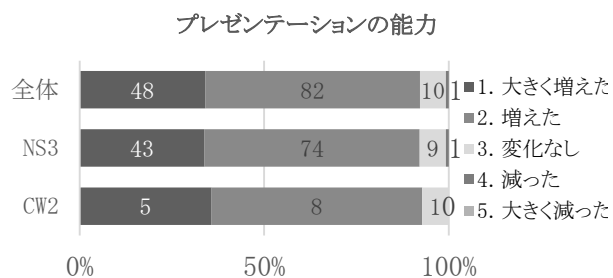
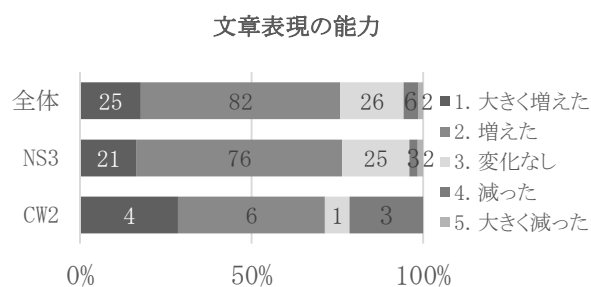
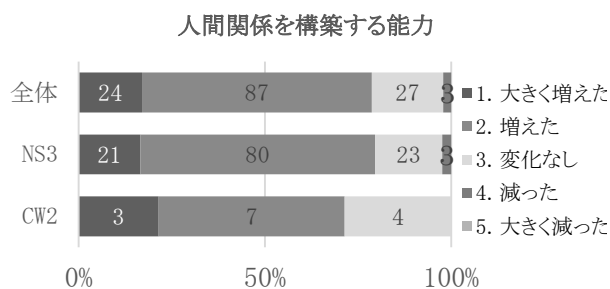
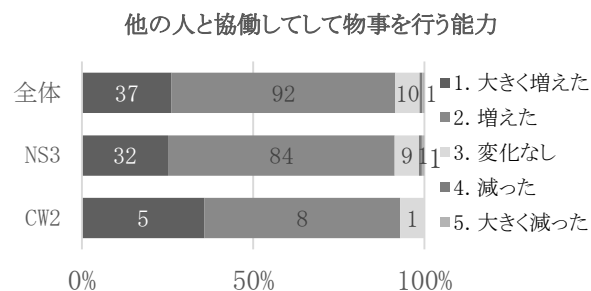
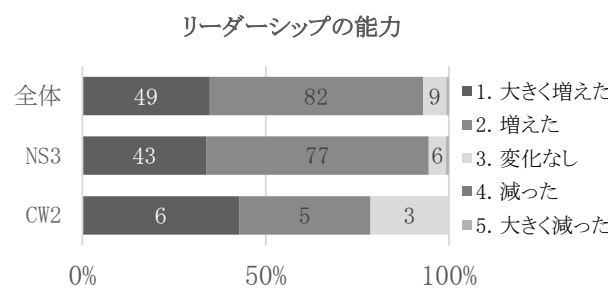


コミュニケーションの能力

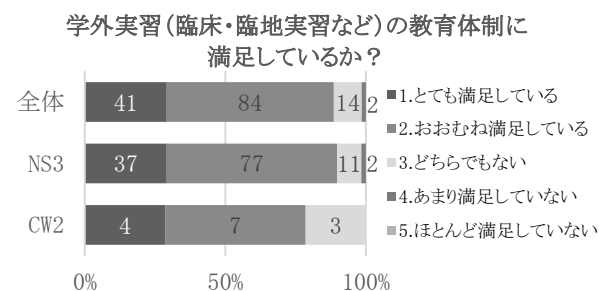
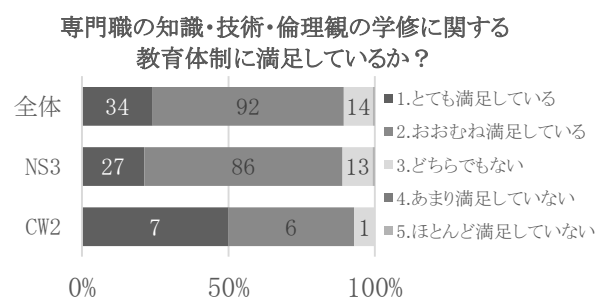


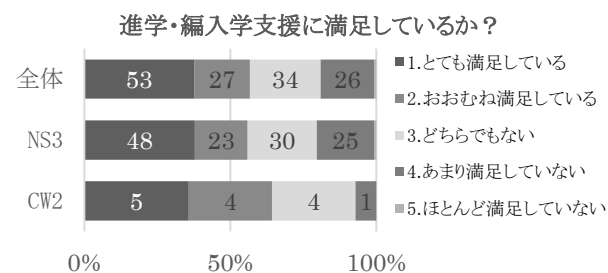
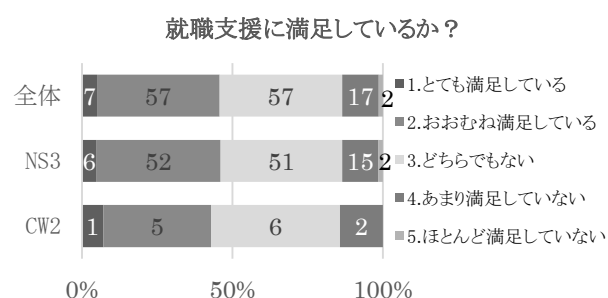
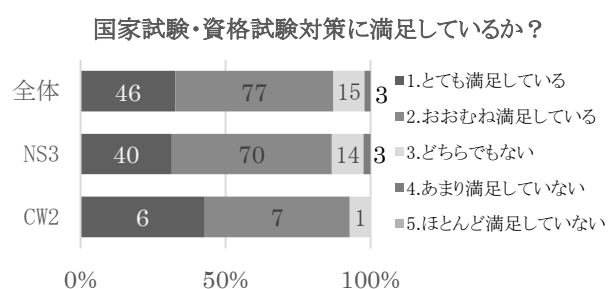
卒業後の就職に関する準備の度合い





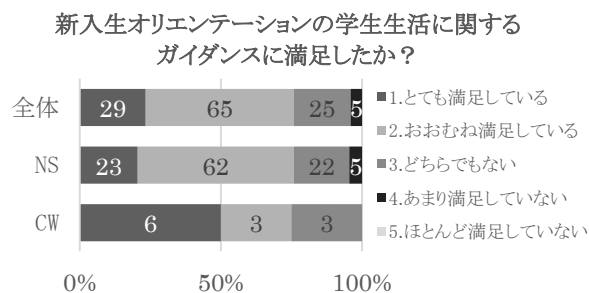
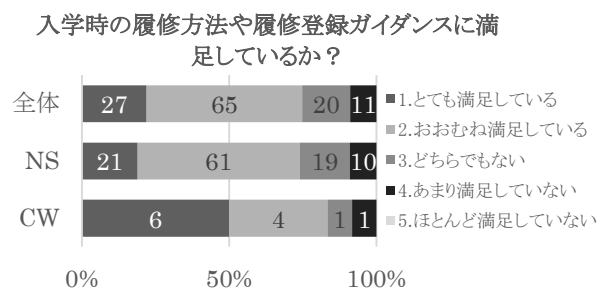
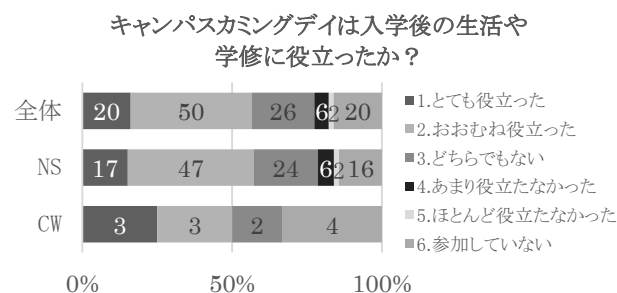
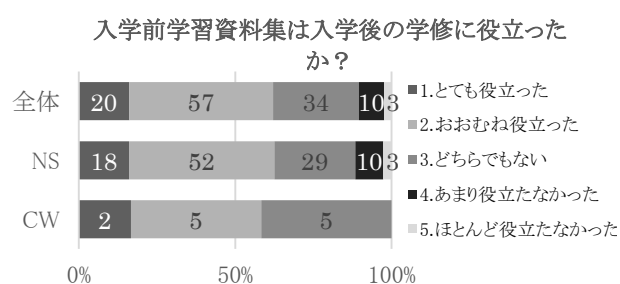
(4) 教育体制・支援に関する評価





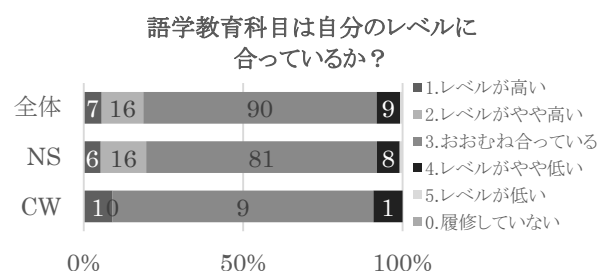
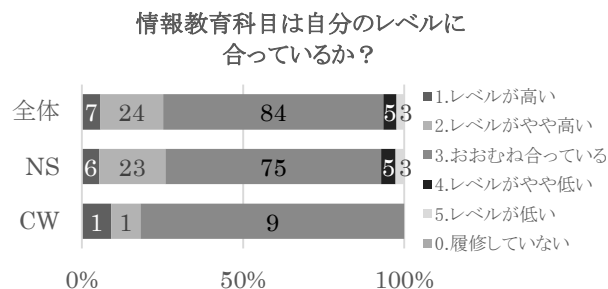
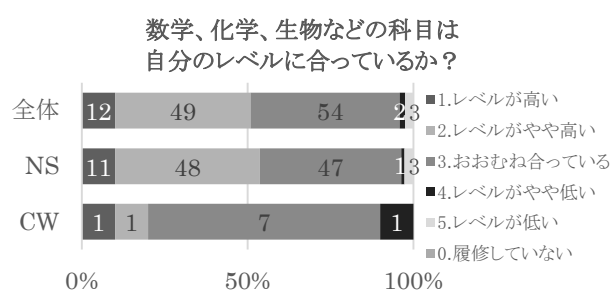
2) 全学年対象調査

(1) 教育体制に関する満足度(1年生)

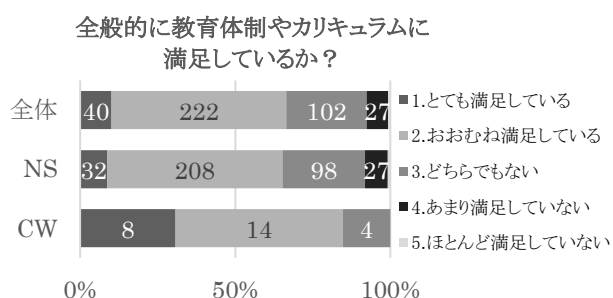
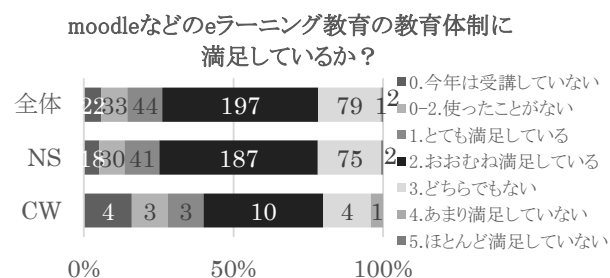
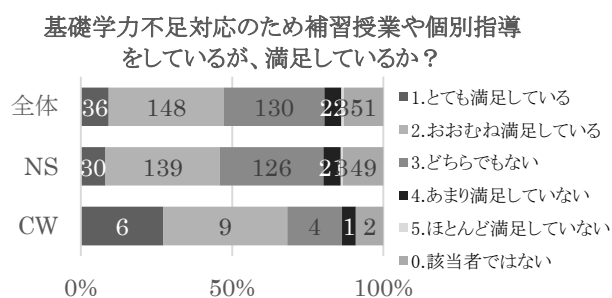
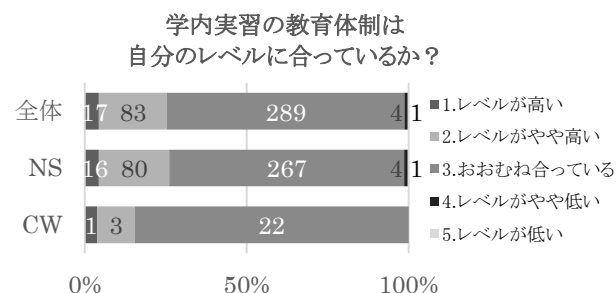
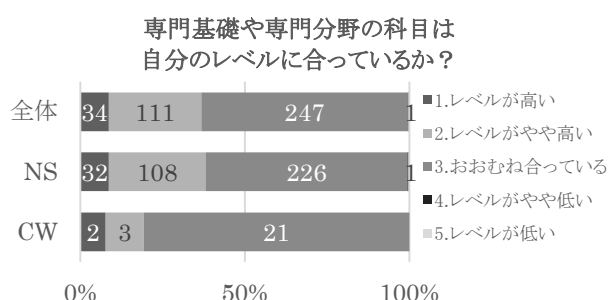


(2) 教育内容のレベルについての調査

①1年生対象



②全学年対象



3) 教育に対する満足度分析まとめ

卒業年次学生アンケートから、本学のディプロマポリシー 5 項目の達成度は、85%以上の学生がすべての項目で「そう思う」「おおむねそう思う」と回答している。さらに、各学科の学修成果については両学科ともに、学修成果が修得できているかの問いに対して、すべての学修成果の項目で「そう思う」「おおむねそう思う」と回答した学生が 80~90%以上を占め、各学科の学修成果はほとんど修得ができていると判断する。また、各学科ディプロマポリシーに関しても同様に高い達成状況であり、本学・各学科のアドミッションポリシーに基づいた教育成果として、ディプロマポリシーに則った能力を会得したと学生自身が判断しているといえる。一点、医療介護福祉科は、ディプロマポリシーのひとつである、豊かな感性和高いコミュニケーション能力を身につけ、他職種と連携してチームケアができるという項目のみが、71.4%と他のディプロマポリシーよりも低かった。新型コロナウイルス感染症の影響による学外実習の制限の影響が出ており、実習制限のなかであっても、他職種の専門性を知り、他職種との連携で必要な医学的知識を身につけ、機会あるごとに他職種との連携場面に参加させることで対応していく。

また、今年度から経済産業省が提唱している「社会人基礎力」が入学後に増加したかどうかも設問に加えた。14 項目中 12 項目で、80~90%の学生が入学時より能力や知識が「大きく増えた」「増えた」と回答した。特に異文化の人々に関する知識、批判的に考える力、コンピュータの操作能力が増加していた。「変化なし」と感じている能力は、コミュニケーション能力と卒業後の就職に関する準備の度合いであった。卒業後の就職に関する準備については、2 学科とも国家試験受験対策が該当すると考えられるが、学生の内容の捉え方の相違も考えられるため次年度は設問を工夫する。保健医療福祉概論では社会人基礎力を育む教育も行っている。まずは入学後間もない時期に始まるこの科目から、コミュニケーション能力の涵養について推進していく。

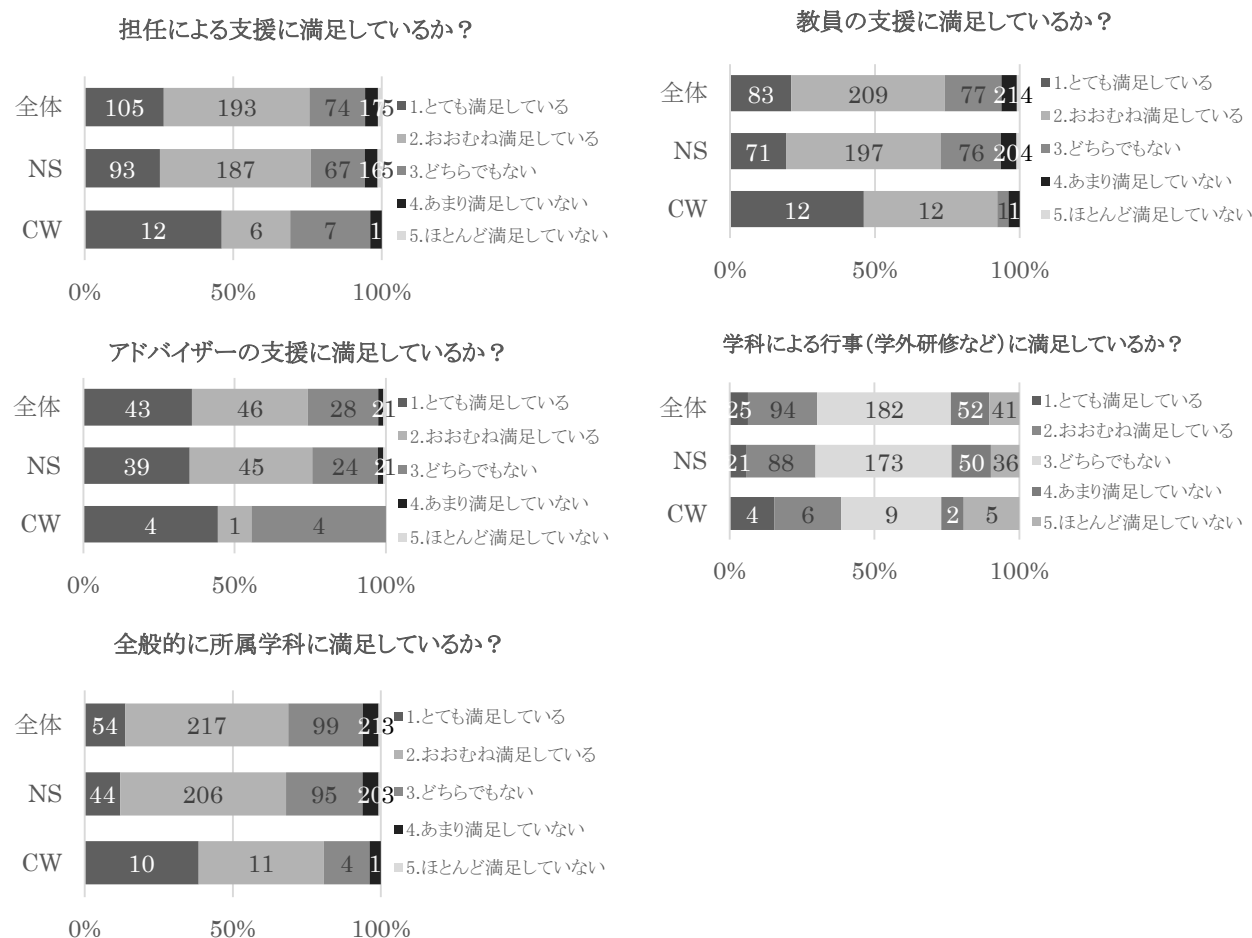
加えて、在学期間を全体の学修体制、学外実習支援、国試・資格試験対策、進学・編入学支援については「とても満足している」「おおむね満足している」と回答した割合が 9 割近くを占め、今後も教育体制や支援の維持に努める。就職支援については、川崎学園関係以外の就職は学生個々の活動が中心であり、満足でも不満足でもないとする「どちらでもない」との回答が 40.7%もあった。このことから相談行動をとっていない学生へも何らかの支援が必要なことが示唆された。

1 年生のみを対象にした教育体制に関する満足度調査では、前年度と同様に、履修方法や履修登録ガイダンス、新入生オリエンテーションに対する満足度が高かった。一方入学前に実施したキャンパスカミングデイは例年に比べ満足度が低下した。これは、新型コロナウイルス感染症の影響により第 1 回目は Web 会議ツールのみで開催し、第 2 回目は Web 会議ツールと来学のハイブリット型での開催としたため、来学での参加率低下に影響したと考えられる。今後は可能な限り来場型の開催方法を継続するとともに、Web 会議ツールでの参加者も十分満足できる内容および方法を工夫していく。教育内容のレベルについての調査では、1 年生を対象とした基礎分野の授業科目では、語学教育科目、情報教育科目は自分のレベルにしていると回答した学生の割合が高かった。数学・化学・生物学等の科目は自分のレベルより高いと感じている学生の割合が高く、次年度からは教授内容や教授方法の刷新を図り、非常勤講師ともより緊密に連携していく。全学年を対象とした調査では、学内実習

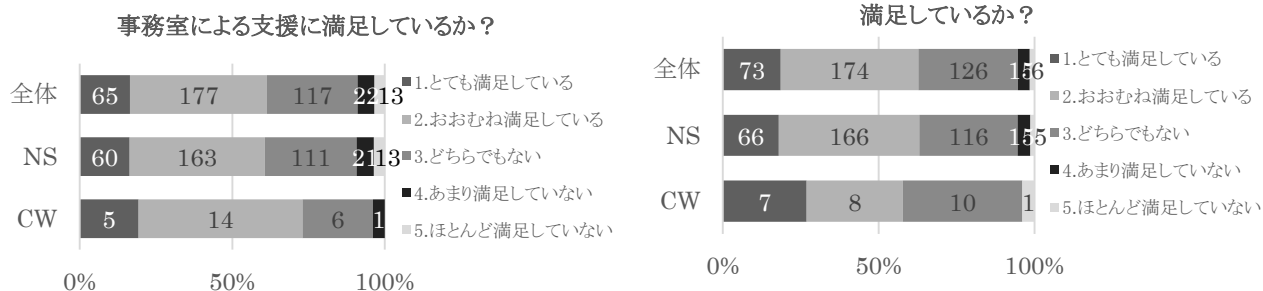
や専門基礎・専門科目等は自分のレベルにあっていていると感じている。補習授業や個別指導については該当学生のみで満足度をみた場合、満足していない学生はわずか7%であったが、どちらでもないと回答した学生が多かった。このことから学生のニーズに沿った指導を考え実践していくことが大切である。全面登校中止期間も含め学生は、多くの制限や規制の中でストレスを抱えながら学修を続けている。学習環境の整備だけでなく学修成果獲得のためには、心理的サポートも充実させていく必要性を感じている。

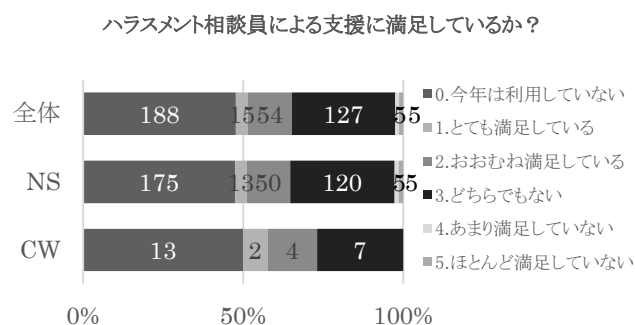
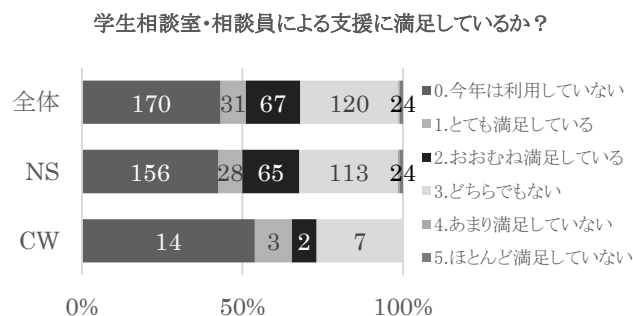
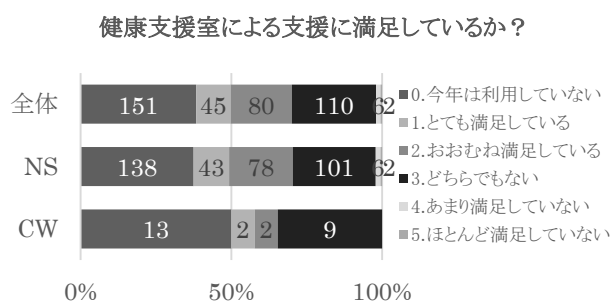
2. 学生生活に関する満足度：学生生活支援委員会

1) 学科支援

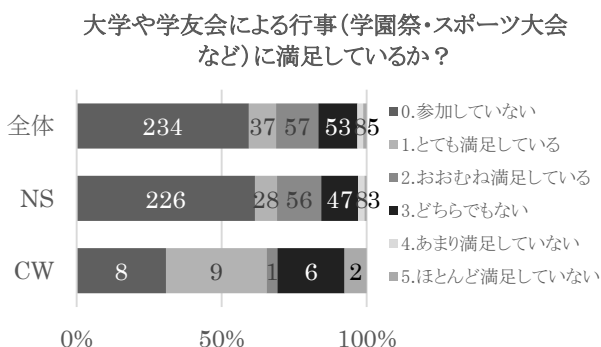
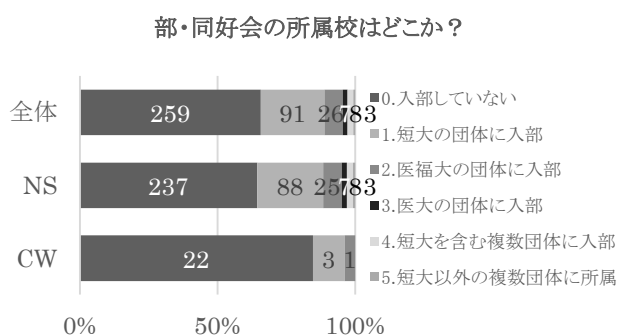


2) その他の部署の支援

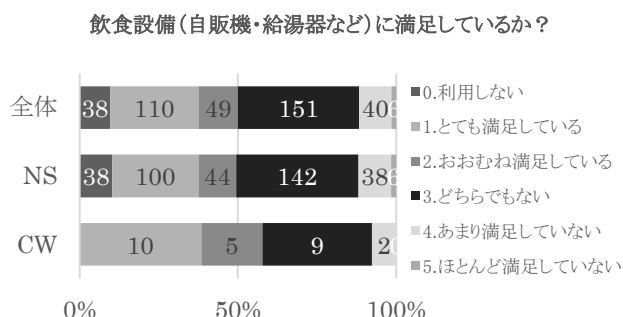
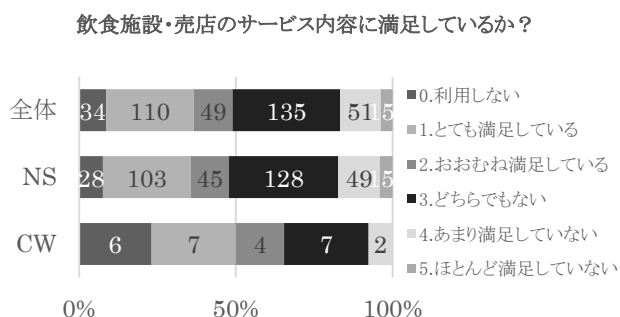




3) 学友会（部・同好会）の活動について

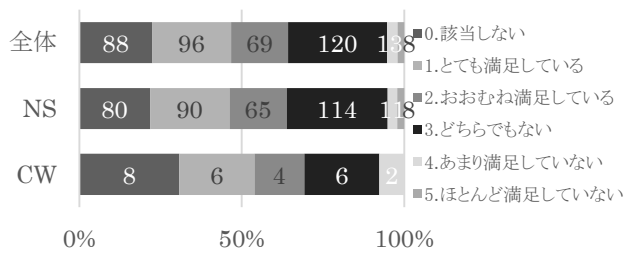


4) 飲食施設について

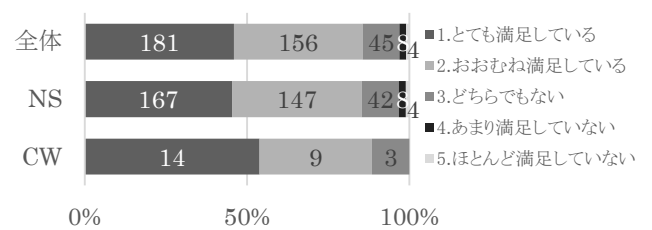


5) その他

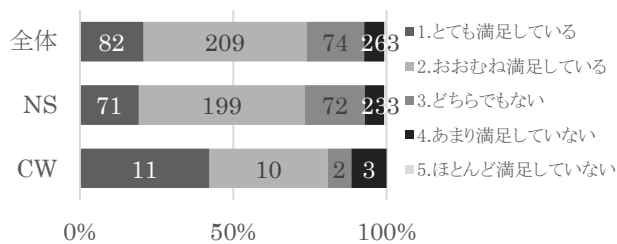
生活支援(奨学金など)に満足しているか？



友人関係について満足しているか？

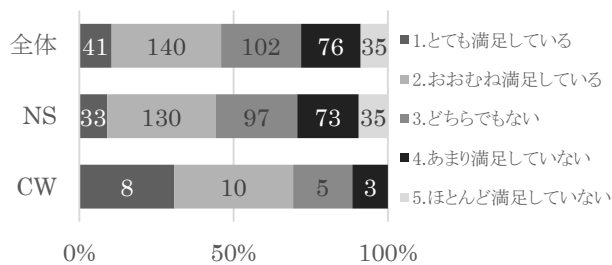


一般的に学生生活に満足しているか？

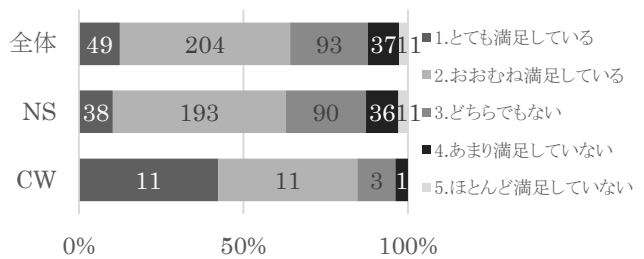


6) 施設・設備について

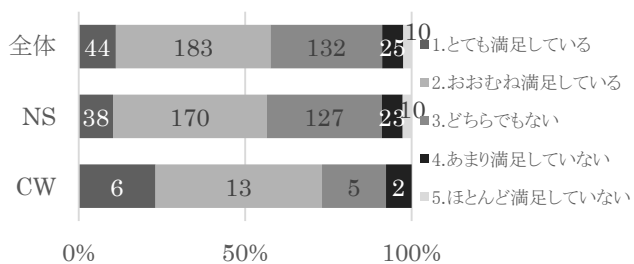
講義室の設備に満足しているか？



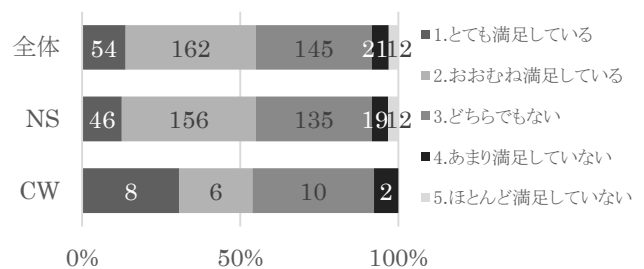
学科使用施設(実習室など)に満足しているか？



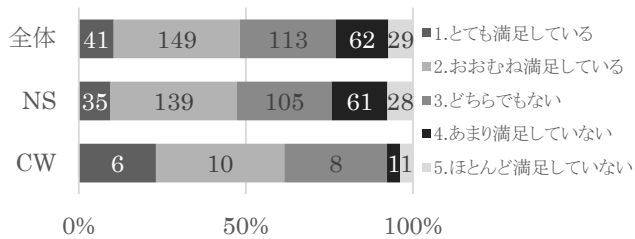
情報教育設備(情報教育室など)に満足しているか？



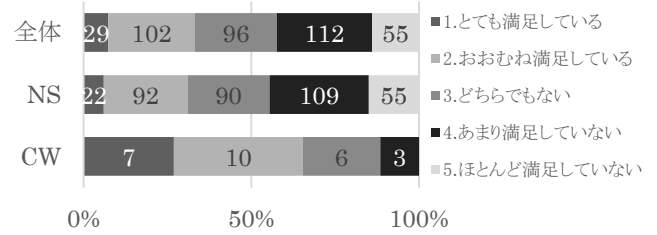
運動設備(体育館・グラウンドなど)に満足しているか？



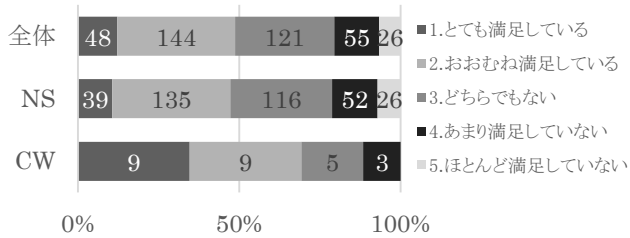
休憩設備（学生ホールなど）に満足しているか？



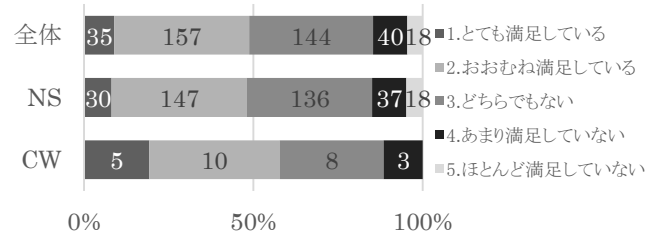
生活付帯設備（ロッカールーム・トイレなど）に満足しているか？



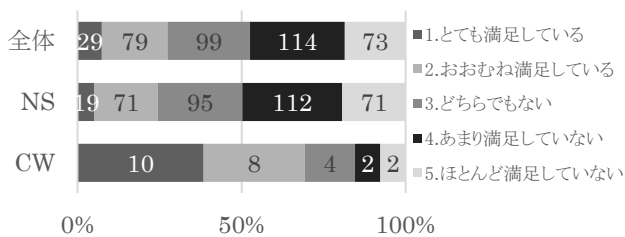
キャンパスの整備・美化に満足しているか？



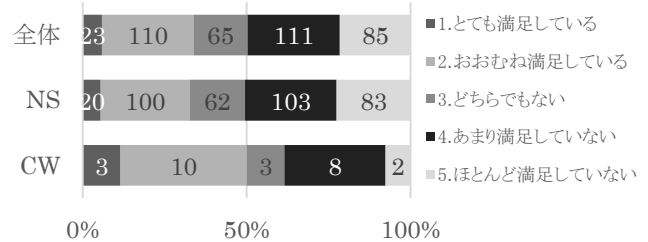
通学補助設備（駐輪場など）に満足しているか？



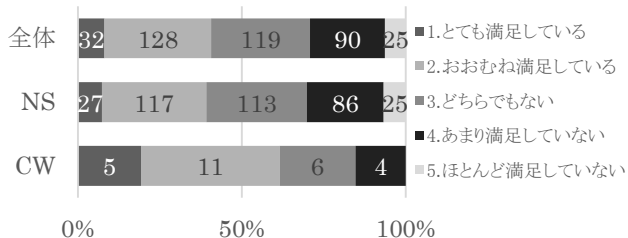
学内（寮を除く）ネット環境（無線LANなど）に満足しているか？



冷暖房設備に満足しているか？（寮を除く）

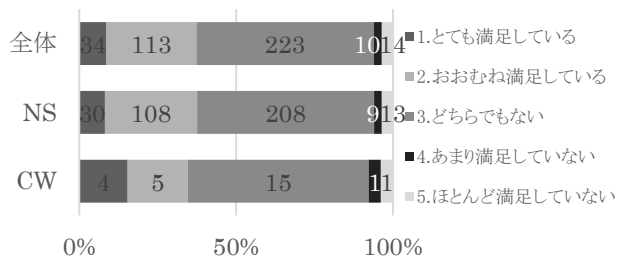


全般的に施設・設備に満足しているか？



7) その他

全般的な（学業、課外活動含む）学生表彰制度に満足しているか



8) 自由記述

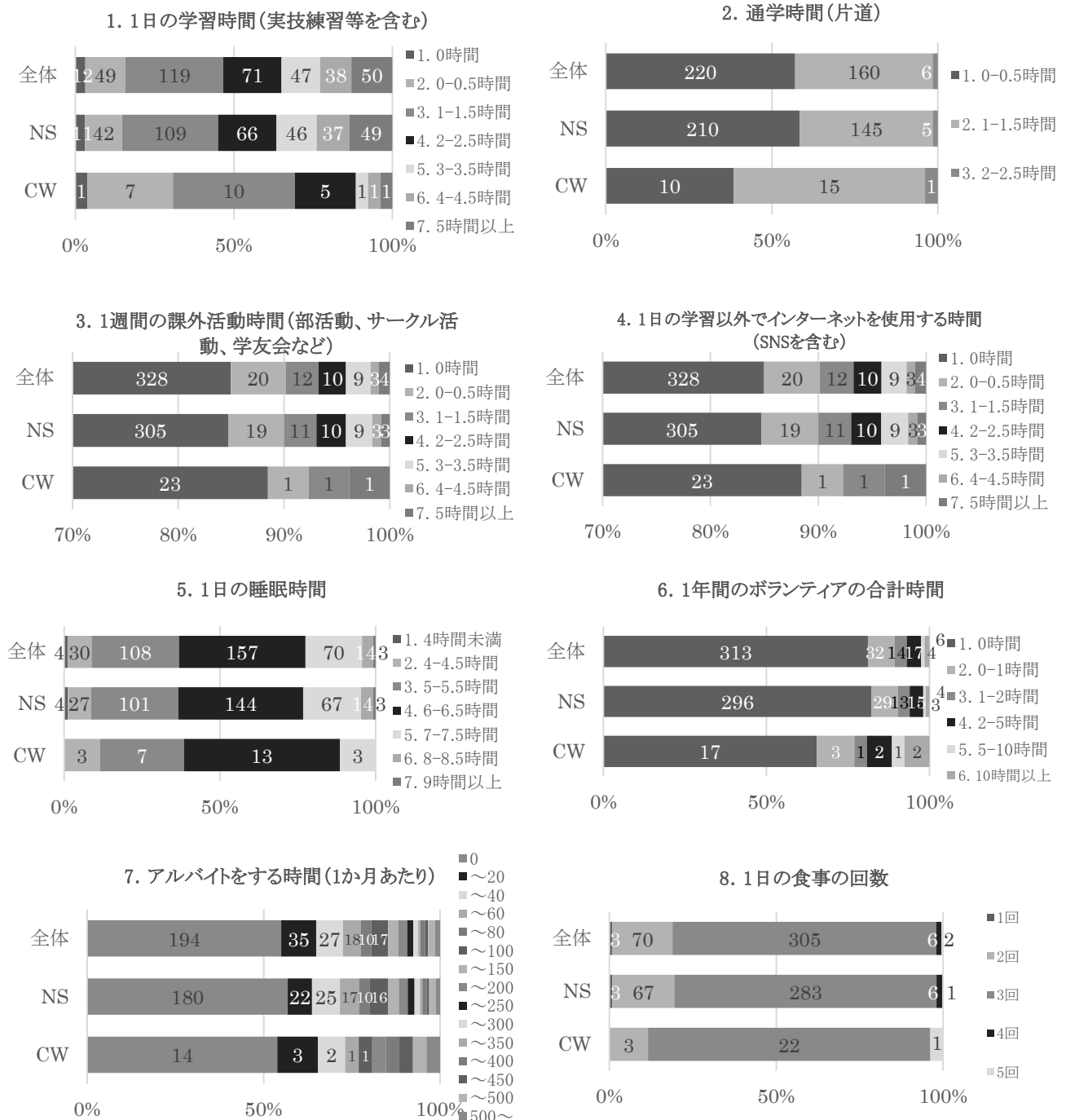
- (1) 新型コロナウイルスの影響で、学生生活環境の満足度が上がったこと
- ・授業に関すること（オンライン・オンデマンド授業になったこと 3 / 学校に行かなくても勉強ができて便利だった・自宅で勉強できる / 自分のペースで学習できた 2 / 復習しやすかった / 遠隔授業が受けやすかった / 何度も講義動画が見直せる / 実習が短期間だった / 体育館で授業を受けられること）
 - ・消毒液の配置の充実など感染防止のための必要物品
 - ・ひとり時間が増え、無駄な出費が減った
 - ・マスクを着けても心配されなくなった
- (2) 新型コロナウイルスの影響で、学生生活の満足度が下がったこと
- ・授業に関すること（テストの期間が短くなった 4 / 講義室の温度 / オンライン授業プリントのコピーが大変 / 機械を使った授業に時間がかかったりうまく作動しない時があり授業が進まない / もっと早くからリモートにしてほしかった）
 - ・人との交流に関すること（安易に外に出れず孤独に勉強すること / 顔がわからない / 距離を保つことで仲が良い子以外との交流がない / 友達と仲良くなる機会が減った / 喋れない / コミュニケーションが抑制される / 実習時のコミュニケーション）
 - ・行動制限に関すること（食事の際に話すことができない 2 / 帰りに遊ぶことができない / 何もかも制限された / リフレッシュできない / アルバイトができなかった / 大学生をあまり感じなかった / 就職で県外が難しかった / 研修会やインターンシップ等に参加できなかった / 簡単に帰省できない / 県外・海外旅行に行けない）
 - ・行事等に関すること（学外研修がなかった / 部活動がなくなった / 課外活動がなくなった / 行事がなくなった 7 / 学園祭に芸能人が来ない）
 - ・その他（寮のスペースで勉強できなくなった 2 / 教員の態度・言動・対応）

9) 学生生活に関する分析まとめ

学生満足度の調査では、担任による支援、教員支援、アドバイザー支援など学科教員の支援体制に対して「満足している」「おおむね満足している」と回答した学生はいずれも7割を超えており、多くの学生が満足していた。一方、学科の行事関係では、「満足している」「おおむね満足している」と回答した学生は約30%程度にとどまり、学生の満足度は低かった。今年度も昨年に引き続き新型コロナウイルス感染対策により、例年のように行事を実施することができなかった影響と考えられる。今年度はできる限りの行事を実施してきたが、学生が望むようなかたちでは行事を行えていないことのあらわれでもある。制限があるなかでもできるだけ学生生活に対する満足度が高まるためには、行事に学生の希望取り入れるなどの工夫が必要であると考ええる。

また学友会など学生が主体となって企画した行事について、「満足している」「おおむね満足している」と答えた学生は、合計で23.9%と低めの数字だった。ただしこれらの行事については「参加していない」と答えている学生が最も多く（59.4%）、過半数が参加していないなかで四分の一程度の学生が満足していることは評価できる。今後は参加の促し方にも工夫が必要であると考ええる。

3. 生活実態調査：学生生活支援委員会



生活実態調査分析まとめ

学生の生活実態調査では、79.4%の学生が学習以外でインターネットを1日2時間以上使用しており、4～4.5時間使用する学生および5時間以上使用する学生が合わせて20%以上いることがわかった。これらの時間が、他の活動や学習・休息・睡眠の時間に影響していることは十分考えられる。また、インターネットを安全に使用するための正しい知識も必要不可欠であるため、これらについては引き続き注意喚起する必要がある。

表 7-4 令和 3（2021）年度卒業生採用に関するアンケート調査結果

学生生活支援委員会（就職支援 WG）

I. 調査時期、対象施設、回収結果

調査時期：令和 4（2022）年 1 月

対象施設：令和 2（2020）年度卒業生就職先

	対象施設		回収数		回収率	
	施設数	件数	施設数	件数	施設ベース	件ベース
看護科	49	75	25	49	51%	65%
医療介護福祉科	9		8		89%	

※看護科では 1 施設あたり複数部署に送る場合があるため、対象施設数と件数で表示している。

II. アンケート結果および分析**1 施設基本事項（得られた回答数を示す）****1) 地方・都府県別**

地方	都府県	看護科		医療介護福祉科	
		地方別	都府県別	地方別	都府県別
近畿地方	京都府	4	1		
	兵庫県		3		
中国地方	岡山県	42	35	7	5
	広島県		6		2
	山口県		1		
四国地方	香川県	2	1	1	1
	愛媛県		1		
九州地方	鹿児島県	1	1		

2) 種別

施設の種別	看護科	医療介護福祉科
500 床以上の病院	31	2
200～500 未満の病院	11	1
200 床未満の病院	6	0
特別養護老人ホーム	0	2
介護老人保健施設	0	2
総合福祉施設	0	1
未回答	1	0

3) 病院・施設等の職員数

従業員数（人）	看護科	医療介護福祉科
3000 以上	1	1
2000～2999	22	1
1500～1999	1	0
1000～1499	6	0
500～999	9	1
300～499	5	1
200～299	1	0
100～199	1	2
100 未満	0	1
未回答	3	1

4) 病院・施設等の看護師数または介護福祉士数

看護師数（人）	看護科	介護福祉士数（人）	医療介護福祉科
1000 以上	1	100～199	1
900～999	22	50 ～ 99	1
800～899	1	30 ～ 49	1
700～799	0	10 ～ 29	3
600～699	0	10 未満	1
500～599	6	未回答	1
400～499	3		
300～399	1		
200～299	6		
100～199	5		
100 未満	1		
未回答	3		

2 調査項目

A 採用活動に対する新型コロナウイルス感染拡大の影響

1) 新型コロナウイルス感染拡大の採用活動への影響

項 目	看護科		医療介護福祉科	
	回答数	割合	回答数	割合
1 大いに影響した	4	10%	2	25%
2 ある程度影響した	23	56%	3	38%
3 どちらともいえない	9	22%	0	0%
4 あまり影響はなかった	4	10%	3	38%
5 影響はなかった	1	2%	0	0%

未回答：看護科 8

2) 1)で1～4を選んだ場合の影響の内容

項 目	看護科		医療介護福祉科	
	回答数	割合	回答数	割合
a. 求人数の減少	1	3%	2	33%
b. 出身地の変化	8	22%	1	17%
c. 募集回数の減少	3	8%	0	0%
d. 説明会やインターンシップの中止 または機会の減少	30	81%	4	67%
e. 情報の周知不足	7	19%	2	33%
f. 対面を伴う職場訪問や面談機会の減少	17	46%	4	67%
g. 試験日程の変更	1	3%	0	0%
h. 選考方法の変更	6	16%	2	33%
i. 学生の準備不足・理解不足	4	11%	0	0%
j. 大学の支援不足	1	3%	0	0%
k. 採用スケジュールの遅れ	1	3%	1	17%
l. 学生とのコミュニケーション不足	6	16%	0	0%
m. 採用活動のオンライン化での課題	5	14%	1	17%

未回答：看護科 該当する 40 件のうち 3、医療介護福祉科 該当する 8 件のうち 2

その他の影響（自由記述）

看護科：県外からの入職は移動後 2 週間経ってからという規定があった

医療介護福祉科：インターンシップを中止したことによる現場紹介や業務体験の機会の減少

【1)2)の分析】

新型コロナウイルス感染症の拡大による採用活動への影響について、看護科では 90% 近くの病院、医療介護福祉科では 60% 以上の病院・施設が少なからず影響を受けている。とりわけ、「説明会やインターンシップの中止または機会の減少」と「対面を伴う職場訪問や面談機会の減少」を挙げた病院・施設の数が多く、「求人数」や「選考方法」などの募集環境にも変更を余儀なくされていた。

3) 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた入職者に対する例年とは異なる配慮や研修等の実施の有無

回 答	看護科		医療介護福祉科	
	回答数	割合	回答数	割合
1. はい	34	79%	3	43%
2. いいえ	9	21%	4	57%

未回答：看護科 6、医療介護福祉科 1

4) 「はい」と答えた場合の配慮や研修の実施内容（自由記述）

看護科
・e ラーニング導入、集合研修を数回に分けて実施 ・昨年度と同様に e ラーニングを多く用いた研修にした ・OJT での確認を強化、チェックリストの使用。集合研修の減少に伴い、現場でのオリエンテーションの実施 ・患者との対話や情報収集についてのシミュレーション研修を増加した。部署での OJT 強化に取り組んだ ・オンライン研修や人数制限。基礎看護技術の実践や研修を OJT を通して行っているが

時間数の増加 ・対面での実習を行っていないことを確認し、OJT などの実施 ・シミュレーション室の充実、集合教育、部署内教育の充実 ・教育支援にむけて学生時代の実習の状況や課題、入職してからの課題と対策についてスタッフに周知した(5) ・現場での実技練習、報告、相談のタイミングの遅れなど、指導者へゆっくり待つように指導した（周知伝達した）。メンタルヘルスについての研修を取り入れた ・感染対策の研修時間を増やした。実習で経験できたこと、できなかったことを把握して研修を行った ・実習時間が少ないということをふまえて、シャドーウイングの時間を長くとったり、一緒に看護技術を行う時間を長くとったりした ・ストレスマネジメントに関する研修に臨床心理士が行う研修を取り入れた ・横とのつながりが意識できるように少人数ずつだが集合研修でグループワークを多く取り入れた ・技術面に関する時間を多めにつくった ・研修会で集合する人数の制限により、内容の変更や回数を増やした(3) ・感染対策のため、新入職員研修の日程を縮小し、内容を一部変更して対応した ・ローテーション研修の期間を短くした ・支援期間の延長 ・自部署のみで、実習指導者（担当）が主で他部署とは合同で行わない。できるときは感染対策を行い合同研修 ・集合教育が少なく同期との関わりが少ない為、フォローアップ研修の頻度を増やした ・集合研修では感染対策を十分に行い健康観察を加えた。実習に行けていない為、1年間ペアリング体制とし、リアリティショック対策を行ったり、副看護師長会も新人教育委員会とコラボして教育にあたっている ・少人数での研修で2回開催、生活指導や面接を増やした ・積極的な技術習得がないため、実施指導者が繰り返し直接指導を行った ・全科を周るようなジョブがあった。（2カ月で全科にまわり、その後希望の部署をきめる）新人研修 ・臨床実習制限を受ける中で卒業した入職者という認識のもと、個々に配慮はしていたと思うが、私の部署への配置後に特別実施したイベントはない ・病院全体で新人歓迎会などが実施できなかったため、看護部だけではなく新卒新人全員を対象に、院長、統括部長、看護部長で昼休みを活用した院内での歓迎会を実施した ・毎年、同期で集まる機会を重視していたがコロナ禍により同期会ができず、新入生歓迎会もできていない。代わりに病棟単位で記念品を贈り、感染対策をした上でのリフレッシュ研修を行った ・流行地域からの受験者は別会場で選考	医療介護福祉科 ・学内演習が中心であったと聞き、患者とのコミュニケーションの困難感に配慮した振り返りや、プリセプター同行期間の延長を行った ・新職員に対する研修や採用説明会（入職にあたっての）をオンラインで実施した ・法人内研修の縮小 ・大きくは変わらないが、感染に関する研修の強化、メンタル面のサポートに気をつけた
---	--

5) その他、新型コロナウイルス感染拡大のために採用活動において生じた問題点やご要望（自由記述）

看護科 ・院内見学会ができず、実習校以外の応募者・就職者は病院のイメージがつかみにくかつ

たと思う(3) ・インターンシップ中止 ・オンラインでの見学対応に慣れず、内容に不備があった会もあった。動画などの内容を充実させたい ・コミュニケーション能力が育ちにくい状況のためか、声かけなどが弱い印象がある ・実技の習得機会が少ない事で独り立ちが遅れており、受動的態度が散見される ・学校訪問ができていない。業者の就職説明会にはオンラインで参加しているが、学校単位でのそのような会があれば参加させていただきたい ・今年度においては大きくはなかったが、次年度の採用活動には問題が生じている。ズームによる面接では人間性などを感じ取ることが難しいため、学校からの推薦文などあったら良いかも知れない ・対面することなく人物像が分からないまま採用試験となった。採用試験までに対面で会えるとよい ・特になかった。例年に比べ、県外に行く人が減ったせいか応募者が多かった
医療介護福祉科 ・対面での説明や面接が行えなかったため、お互いの気持ちがわかりにくかった ・学校訪問の機会が減少した（制限があった）

【3)4)5)の分析】

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた対象年度の入職者に対する配慮や研修等について、看護科では79%の病院、医療介護福祉科では43%の病院・施設が実施していた。具体的な配慮の内容としては、人数を制限した研修やeラーニングを活用した研修、実習期間が短かったことを考慮したOJTの強化、実習期間の減少という情報を指導者やスタッフが共有、精神的なケアへの配慮などが行われていた。このことより、病院・施設側のフォローアップの手厚さがうかがえる。また、病院・施設見学やインターンシップなどの減少により、専門職への適正も含め、学生にとっては希望する就職先が自分に合っているかどうかを検討することが難しくなっていることがうかがえる。

B 採用について

1) 組織で職務遂行上、重視する能力

それぞれの項目について、5段階（5：重視している、4：やや重視している、3：どちらともいえない、2：あまり重視していない、1：重視していない）の中から当てはまる数字を選択する質問。平均値を示した

	項 目	看護科	医療介護福祉科
①	主体性	4.4	3.4
②	他人に働きかける力	4.0	4.1
③	実行力	4.0	4.3
④	課題発見力	4.0	4.0
⑤	計画力	4.0	4.0
⑥	創造力	3.9	3.9
⑦	発信力	3.6	3.7
⑧	傾聴力	4.3	4.7
⑨	柔軟性	4.4	4.4
⑩	状況把握力	4.4	4.3
⑪	規律性	4.4	4.4
⑫	ストレスコントロール力	4.4	4.3

未回答：看護科 6

その他重視している事項（自由記述）

看護科：協調性、社会人としての最低限の礼儀、笑顔・あいさつ・思いやり、組織コミットメント、理解力

【分析】

採用側が組織で職務遂行上、重視する能力として、両学科に共通して高かったのは「柔軟性」「状況把握力」「規律性」「ストレスコントロール力」であり、これに加えて、看護科では「主体性」、医療介護福祉科では「傾聴力」が重視されていた。採用側は、社会人基礎力のそれぞれの要素をバランスよく求めているが、特に、チームで働く力を有し、ストレス耐性のある人物を望んでいることがうかがえる。

2) 採用時に重視する能力

それぞれの項目について、5段階（5：重視している、4：やや重視している、3：どちらともいえない、2：あまり重視していない、1：重視していない）の中から当てはまる数字を選択する質問。平均値を示した

	項 目	看護科	医療介護福祉科
①	基礎学力	4.2	4.0
②	専門知識・技術	3.7	3.3
③	職務遂行能力（意欲、段取り力、実行力）	4.3	4.2
④	倫理観	4.5	4.8
⑤	社会性（公共心、誠実性、責任感）	4.8	4.8
⑥	コミュニケーション能力	4.8	4.5
⑦	対人関係・仕事の協調性	4.6	4.7
⑧	基本的マナー	4.6	4.5
⑨	課題解決能力	4.0	3.8

未回答：看護科 6、医療介護福祉科 6

その他重視している事項（自由記述）

看護科：自身の看護観、患者に対する配慮、レジリエンス

【分析】

両学科とも、「倫理観」「社会性」「コミュニケーション能力」「対人関係・仕事の協調性」「基本的マナー」が4.3～4.7と高かった。「基礎学力」「専門知識・技術」「課題解決能力」を有していること以上に、倫理観を持ってマナーを守り、周囲と十分なコミュニケーションをとりながら協調して職務を遂行する人材が望まれているものと推察され、「質問 1) 組織で職務遂行上、重視する能力」の回答と重なっていた。

3) 面接時に注意してみる態度

当てはまるものを全て選ぶ質問。両学科とも、学科ごとの総回答数（回収数から未回答数を引いたもの）に対する％で示した

	項 目	看護科	医療介護福祉科
a	入退出時の挨拶	61%	83%
b	服装・身なり・髪型	80%	100%
c	顔の表情	83%	83%
d	話し方・言葉遣い	87%	100%
e	声の大きさやトーン	52%	67%
f	話を聞くときの姿勢	83%	83%
g	話しているときの姿勢	70%	67%
h	目線の方向や動き	67%	100%

未回答：看護科 10、医療介護福祉科 1

その他重視している事項（自由記述）

看護科：面接以外の来院時の所作、質問に対して答えを丸暗記して話していないか、話の内容、表現力

医療介護福祉科：誠実な受け答え、練習した答えでなく自分の考えを持っているか、質問を理解して返答ができるか

【分析】

両学科とも、80%以上の施設において「服装・身なり・髪型」「話し方・言葉遣い」が挙げられた。同時に、「顔の表情」「話を聞くときの姿勢」を挙げる施設も多かった。面接においては、身だしなみや表情・姿勢、相手の話を聞く態度、話し方など、社会人としての基本を身につけておくことが重要になる。

C 採用した本学の卒業生について

1) 本学卒業生の印象

それぞれの項目について、5段階（5：優れている、4：やや優れている、3：普通、2：やや劣る、1：劣る）の中から当てはまる数字を選択する質問。平均値を示した

	項 目	看護科	医療介護福祉科
①	基礎学力	3.2	3.6
②	専門知識・技術	3.1	3.4
③	職務遂行能力（意欲、段取り力、実行力）	3.2	3.3
④	倫理観	3.3	3.6
⑤	社会性（公共心、誠実性、責任感）	3.4	3.6
⑥	コミュニケーション能力	3.4	3.4
⑦	対人関係・仕事の協調性	3.4	3.6
⑧	基本的マナー	3.4	3.6
⑨	課題解決能力	3.0	3.1
⑩	注意や指導を受けた後の対応力	3.3	3.4

未回答：看護科 5

その他の印象（自由記述；カッコ内は件数、件数の記入がないものは1件）

看護科：

- ・個人差があるので答えにくい(4)
- ・患者への対応、片付け、電話対応などが適切にできない。経験したことを生かすことができない(3)
- ・わからないことはしっかり助言を求めるなど、積極性があり職場に順応している(2)
- ・まじめで素直、明るい
- ・態度や印象が良く、責任感を持って行動している
- ・救急病棟配属のため学力知識が一般病棟よりは必要なため評価は低くなったが、努力を重ねている

医療介護福祉科

- ・介護福祉士としてどう成長したいかという自分の意志を感じる
- ・文章作成能力が優れており、自分の考えをまとめしっかり記入できている

2) 本学看護科卒業生が身につけている能力

それぞれの項目について、5段階（5：優れている、4：やや優れている、3：普通、2：やや劣る、1：劣る）の中から当てはまる数字を選択する質問。平均値を示した

項 目	平均
1 看護師に必要な知識とともに、専門職者としての基本姿勢と態度を備えている。	3.2
2 根拠に基づいた看護を提供できる実践能力を修得している。	3.0
3 看護専門職者としての誇りを持ち、研修・研さんを行う意欲と能力を身につけている。	3.2

未回答 3

【1)2)の分析】

看護科では、1)の10項目、2)の3項目について、わずかではあるが昨年度に比して11項目の評価が上昇し、すべての項目の評価が3以上になった。一方、個人差が大きく、ミスを繰り返してしまう卒業生がいることも指摘された。医療介護福祉科では、昨年度に比べて評価が全体的に下がったものの、「基礎学力」「倫理観」「対人関係・仕事の協調性」「基本的マナー」は3.6、それ以外も3.1以上の評価であった。両学科とも、評価が低かった自分で考えて行動できる実践能力や現場に即した課題解決能力を身につけさせる必要がある。

3) 本学卒業生の傾向

①他校出身者と比較して優れている部分（自由記述；カッコ内は件数、件数の記入がないものは1件）

看護科：

評価できない(5)、あまり大差がない(3)、素直さ(4)、基礎知識・技術(3)、コミュニケーション能力(3)、業務を丁寧に行い報連相ができる(3)、院内の雰囲気や業務の流れを知っている(3)、記録・レポート作成など他者に分かりやすく記載しリフレクションができる(2)、基本的なマナー・態度(3)、発言力(2)

社会的常識、積極性、意欲、仲間意識、まじめで着実に実践力を上げている、他人と比べることなくストレスマネジメントができる、メンタル面、患者との関係性の構築が早い、他人の指導を活かすことができる

医療介護福祉科 (5)：

評価できない、基礎学力、責任感、利用者への対応や業務など根拠まで質問できる、環境に慣れるのが早い

②他校出身者と比較して劣っている部分（自由記述；カッコ内は件数、件数の記入がないものは1件）

看護科 (25)：

評価できない(5)、あまり大差がない(5)、アセスメント能力(2)、基礎学力(2)、対象者に合わせた言葉遣い・敬語の使用(2)、基本的マナー、コミュニケーション能力、問題解決能力、積極性、意欲が伝わってこない、積極的な自己学習、シミュレーション研修で考えや根拠が少し言えなかった、精神的にも体力的にも劣っている、劣っているとは思わないが、控え目でおとなしく積極性が少々乏しい

医療介護福祉科 (2)：

利用者様への声かけはできているが日常的な会話などが少ない、積極性（個人の問題が大きいかもしれない）

③過去の卒業生と比較して変わったと感じる部分（自由記述；カッコ内は件数、件数の記入がないものは1件）

看護科 (17) : 評価できない(4)、あまり大差がない、自主性の高い看護師が増えている、意欲のなさ、自己完結よりも他者依存傾向が強く責任ある業務遂行意欲に欠ける、あまり表情に出ない、メンタル不調をきたしやすい・打たれ弱い・レジリエンス力が低い、学力・理解力の低下、基本的なマナー・接遇ができない、実習不足、社会性・コミュニケーション能力の低下、積極性が少ない（自分から学ぼうとする姿勢が乏しい、言われたことだけという印象がある）、注意を受けること（指導されること）に慣れていない、他者に対して働きかける力が低下している)
医療介護福祉科 (2) : 全体的にレベルが低下していて発想力も意欲もあまり感じられず、残念である 利用者様との距離感が過去の卒業生はもう少し親しみのあるものであった

4) 本学卒業生を採用したことの総合的満足度

5段階（5：満足、4：やや満足、3：どちらとも言えない、2：やや不満、1：不満）の中から当てはまる数字を選択する質問。平均値を示した。

	看護科	医療介護福祉科
本学卒業生を採用したことに対する総合的満足度	4.0	4.4

5) 採用した学生について気づいた点（自由記述；カッコ内は件数、件数の記入がないものは1件）

看護科 (21) : ・スタッフや患者と適切に接することができている(3) ・何事にも前向きに取り組む姿勢が見られ、とても良い(3) ・地元から離れていたり、声をかけづらい雰囲気であったり、困ったことや分からないことを素直に伝えられなかったりすることから、ストレス発散や業務への影響が気になる(3) ・よく頑張っている(2) ・少しずつではあるが成長している(2) ・着実に成長している人と、なかなか成長できない人がいる(2) ・専門職としての態度、技術が教育されている ・環境に慣れてきて、表情が豊かになってきたので安心している ・指導を素直に聞けるため、柔軟な対応ができるようになると思う ・救急ではスタッフの指導も厳しくなりがちだが、自己研鑽に努め謙虚な姿勢で取り組んでいる ・退職に至ってしまった卒業生もいるが、大半のスタッフがお互いに支え合いながら1年目を乗り切ろうとしている。多くの卒業生を採用させていただいて良かったと思っている ・患者に対して常識に欠ける言葉遣いをするなど、「場」を考えた判断・行動ができない ・言葉遣い以外のマナーや社会性が低下しており、相手の表情や意図することが理解できにくく、それによる違和感が感じ取れない。先輩が話している内容（悪い内容）を自分のことととらえる傾向がある ・成長過程または家庭環境において何か問題を抱えているように思う。それがベースとなり、やや歪んだ感覚を持っているため患者の立場になって考えることが難しいように思う。集中力に欠け、安全確認行動が乏しい
--

・精神疾患の既往があることを面接では言われてなく、分かってからはかなり配慮している。初めてのことで色々勉強になっている
医療介護福祉科（3）： ・学んできたことをベースに、現場で感じた疑問や自身の課題について、先輩にきちんと指示を仰ぎ解決することができている ・何度か個別指導も行い少し改善したように感じていたが、慣れもでてきたのか、仕事の手を抜いたり職員の不満を言うようになり、非常に残念である ・リーダーシップをとって業務ができればなお良いと思う

【3)4)5)の分析】

本学の卒業生を採用したことに対する総合的満足度は、看護科 4.0、医療介護福祉科 4.4 で、両学科とも比較的高かった。卒業生の傾向の指摘には、本学の指導に対する良い評価につながるものが多かったが、厳しい指摘もあった。また、看護科の自由記述回答にあるように、「コミュニケーション能力」など同じ内容が「優れている」と「劣っている」の両方に書かれている場合があり、個人差がかなりあることがわかる。このため、一部の卒業生の行動が全体的な評価を下げているものと考えられる。また、今年度の特徴として、両学科とも意欲の低い卒業生がいることが指摘された。また、看護科ではアセスメント力や問題解決能力、メンタル面の問題が指摘された。両学科で高評価をいただいた素直さや明るさ、仕事の丁寧さや頑張る姿勢、環境への順応性といった良い資質を生かし、医療福祉の現場にふさわしい人材に育てていくことが今後の課題である。

6) 本学学生に充実を求める能力（上位3項目の選択）

学科ごとの総回答数（回収数から未回答数を引いたもの）に対する％で示した。

	項 目	看護科	医療介護福祉科
a	基本的マナー	70%	63%
b	コミュニケーション能力	77%	50%
c	対人関係調整力	68%	88%
d	幅広い教養と基礎学力	17%	38%
e	深い専門的知識・技能	6%	0%
f	文章読解・表現能力	15%	0%
g	リーダーシップ	4%	13%
h	課題解決能力	21%	0%
i	プレゼンテーション能力	6%	13%
j	マネジメント能力	4%	0%
k	コンピュータ活用能力	0%	0%
l	指導能力	0%	0%
m	外国語の能力	2%	0%
n	国際的視野	0%	0%

未回答：看護科 2

その他充実が必要な事柄（自由記述；カッコ内は件数、件数の記入がないものは1件）

看護科（5）： ・コロナ禍において十分な臨床実習が行えていないと伺ったが、新人看護師の不安や心配を少しでも取り除けるよう部署・病院全体でフォローさせていただく。不安な面や心配な面があったらお知らせ願いたい ・貴学というより全ての学生に求めることである
--

・急性期病院であれば、それに合う学生に勧めるなど進路指導をしっかりとしてほしい ・柔軟性 ・倫理感
医療介護福祉科（1）： ・自己のキャリア開発についてイメージし発信する力。長期的に専門職として自己成長するイメージの機会

7) 本学に対する意見、希望

看護科（14）： ・患者さんのためにということを念頭に、自分を信じて行動できる人、困ったときに我慢したり自分の評価を気にしたりせず相談できる人を育成してほしい(5)。病棟としても、コミュニケーションがとりやすい場を作っていけるように努力していきたい ・とても良い人材である(2) ・当院への就職の案内等、よろしくお願ひしたい(2) ・新入職員が着実にステップアップしていけるようにサポートしていきたい ・「育ててもらえる」ではなく「育っていける」人材を求める ・どこ出身であるかより個人差の大きさを感じる。 ・職場が病院であることを十分に認識し、言動には留意してほしい。 ・急性期病院を希望しても勤務が難しい学生がいる。学生に見合った進路指導をするようお願いする。また、卒業後についてもしっかりフォローアップをお願いする。就職してもすぐに辞めたり病気になる人がいるため、受け入れ病院としてはとても困る ・多重責務を負う中で優先する倫理について考える力、様々な生活背景や価値観を持つ患者をとらえる力、情報を整理する力が必要。臨床と学校とが連携した教育ができるようコミュニケーションをとりたい ・教員のアップデート、今までの古いしきたりや常識の見直しをお願いしたい。学生が困惑している ・就職ガイダンス等があれば参加させていただきたい
医療介護福祉科（4）： ・今後ともよろしくお願ひしたい ・介護福祉士としての入職後の継続教育が不足しているため、研修機会などあればお知らせいただきたい ・実習生の受け入れも含め、意欲のある学生をお願いしたい ・リーダーシップや指導能力は自ずと身についてくる。まずは基本に忠実に業務できればよい
医療会議福祉科（欄外） ・病院の現場に介護福祉士が入職することは少ないが、当院の回りハに卒業生の方によく入っていただいている。免許の範囲内で自律した活動をしてほしい

【(6)7)の分析】

本学の学生に充実を求める能力として3項目を選んでいただいた。その結果、両学科とも「基本的マナー」「コミュニケーション能力」「対人関係調整力」が他の項目を大きく上回った。次いで、大幅に減るものの、看護科では「課題解決力」、医療介護福祉科では「幅広い教養と基礎学力」を充実させることが求められている。採用先の病院や施設は、コロナ禍により遠隔授業が中心となる時期が繰り返されることや、学内外の実習が十分におこなえなくなる可能性があることを考慮したうえで、対人援助職者としての基本的な能力を重視されている傾向がうかがえる。この3本柱を充実させることができれば、前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力の向上にもつながるのではないかと思われる。また、多様化する看護師と介護福祉士の業務に対応できるよう、本学の教育体制と学生支援

を充実させるとともに、個々の学生に対しても、さまざまな事態に柔軟に対応できるようセルフコントロール力を身につけさせることが求められる。

今後の課題

1 学科の課題と対策

1) 看護科

近年の新型コロナウイルス感染の拡大する中での就職活動では、インターンシップや病院見学会の中止により、希望する病院のことを知らないまま就職する学生が少なくない。その影響で就職後の職場適応が困難になり、新人看護師の早期離職者の増加が問題になっている。看護科（看護学科）では、例年6割以上の学生が500床以上の大病院を希望する傾向にあるが、今回の調査では、採用側からは自分に合った病院選びの進路指導を要望する意見があった。学生の状況をよく知る担任を中心として、学生の特性にマッチした病院選択ができるような支援を行う必要がある。

病院側が採用にあたり最も重視している項目は、「コミュニケーション能力」であったが、臨地実習時間数の減少とともに、コミュニケーション力の低下が指摘されている。アンケートの自由記述では「他校出身者と比べて優れていると感じる部分」「他校出身者と比べて劣っていると感じる部分」の両方に「コミュニケーション力」が挙がっていた。個人差が大きいことが推察されるが、対人関係職として基本的な要素であるため、臨地実習での指導はもとより、学内の演習等でもグループワークやディスカッションなど、コミュニケーション能力を上げるための教育方法を工夫していく必要がある。

また、採用側では臨地実習経験が少ないことを考慮し、研修内容の充実を図るなど新人教育を強化する取り組みが実施されていた。ただし、受け手側の積極性や意欲が低いとの指摘もあり、主体性をもって学び続ける姿勢を身につける支援も行っていく必要がある。

2) 医療介護福祉科

今回のアンケート調査では、病院3か所、施設5か所の計8か所の病院・施設から回答があった。

そのうち、「新型コロナウイルス感染拡大の影響が採用活動の際に多いにあった」、あるいは「ある程度影響があった」と答えている病院・施設は5件であった。入職後、新型コロナウイルス感染に対する例年以上の特別な配慮や研修を行っている施設は3件であった。その内容は、新職員への研修や説明会をオンライン開催したこと、新型コロナウイルス感染拡大の影響で学内実習が多かった本学の実情を踏まえた入職後の研修の強化やプリセプター同行期間の延長、感染に対する研修の強化、メンタル面のサポートなどで、現状を理解した配慮が行われていた。今後、就職後のフォロー体制を強化し、新型コロナウイルス感染の影響に配慮しながら施設側と連携した卒後教育を行うことが必要である。

本学科の卒業生を採用したことへの満足度は4.4であり、基礎学力が優れている点や責任感がある点、理由まで質問が出来る点や環境に慣れるのが早い点について優れているとの意見があった。その反面、他校と比較した場合、積極性のなさ、発想力や意欲低下などの指摘があった。このことから、本学科における机上と実習の学びを統合させ、実習前のオリエンテーションや実習後の振り返りを実施し、各講義でも担当者間で連携を図り、倫理観や

社会人基礎力を涵養していく必要がある。さらに、個々の学生に合わせた丁寧な指導を行っていく必要がある。また、施設側からの要望にもあったように、入職後の継続教育についてもお互いに情報を共有し、連携を密に図る必要がある。

今後も医療的な知識の習得を強化し、当学科の強みが就職後に発揮できる学生を育成する必要がある。

2 大学としての課題と対策

令和2年度の卒業生を採用していただいた施設にアンケートを実施した。その結果、総合的満足度（1～5の5段階評価）は看護科4.0、医療介護福祉科4.4と、おおむね満足しているという評価であった。大学として以下の5点を課題と考え、大学と学科で連携を図りながら改善に努めたい。

1. 新型コロナウイルス感染の拡大するなか、病院・施設見学、インターシップなどの機会が減少した影響により、専門職への適正も含め、学生が自分に合う就職先を選ぶことが難しくなっている。学生の希望を考慮しつつ、できるだけミスマッチを避ける支援をおこなっていく必要がある。

2. 「採用時に重視する能力」と「本学卒業生の印象」については、同じ項目で評価していただくことで、採用側の期待と本学卒業生の実際の能力との食い違いについて検討することができる。看護科では、昨年度に比べてこの食い違いが若干減り、コミュニケーション能力にも改善が見られたものの、それでも食い違いが最も大きいのが「コミュニケーション能力」であった。採用側が意図するコミュニケーション能力と学生が身につけているそれにも食い違いがあることも推察される。医療介護福祉科でも、「コミュニケーション能力」の食い違いが最も大きかった。次いで、両学科とも「社会性」と「対人関係・仕事の協調性」の食い違いも大きかったことから、患者と利用者の尊厳を第一に考える倫理観と良識ある医療福祉人を育てられるよう指導をおこなっていく必要がある。

3. 「採用時に重視する能力」と「本学学生に充実を求める能力」を比較すると、これまでの調査に引き続き、両学科とも「基本的マナー」「コミュニケーション能力」「対人関係調整力」などが高い値となり、これらの能力を十分に持つ学生を育成する必要があることが示された。「本学卒業生の印象」、他校出身者と比較した「本学卒業生の傾向」、「採用した学生について気づいた点」でも、職務遂行上必要な医療福祉人としての基本的な能力の低下を指摘する意見があった。対人援助職者として当然身につけておくべき能力が、前回調査と同様、就職先の期待よりもやや低かったことが伺える。このことから、これまで以上に、全学的な就職支援講座の内容を充実させるとともに、入学時のオリエンテーション、講義や実習、H.R.、個別指導の中での取り組みが大切になる。入学時から将来の職場が病院や施設であるということを認識させ、学びと社会性に対する動機づけを図るとともに、自身の看護観や介護観を考えさせていく必要がある。

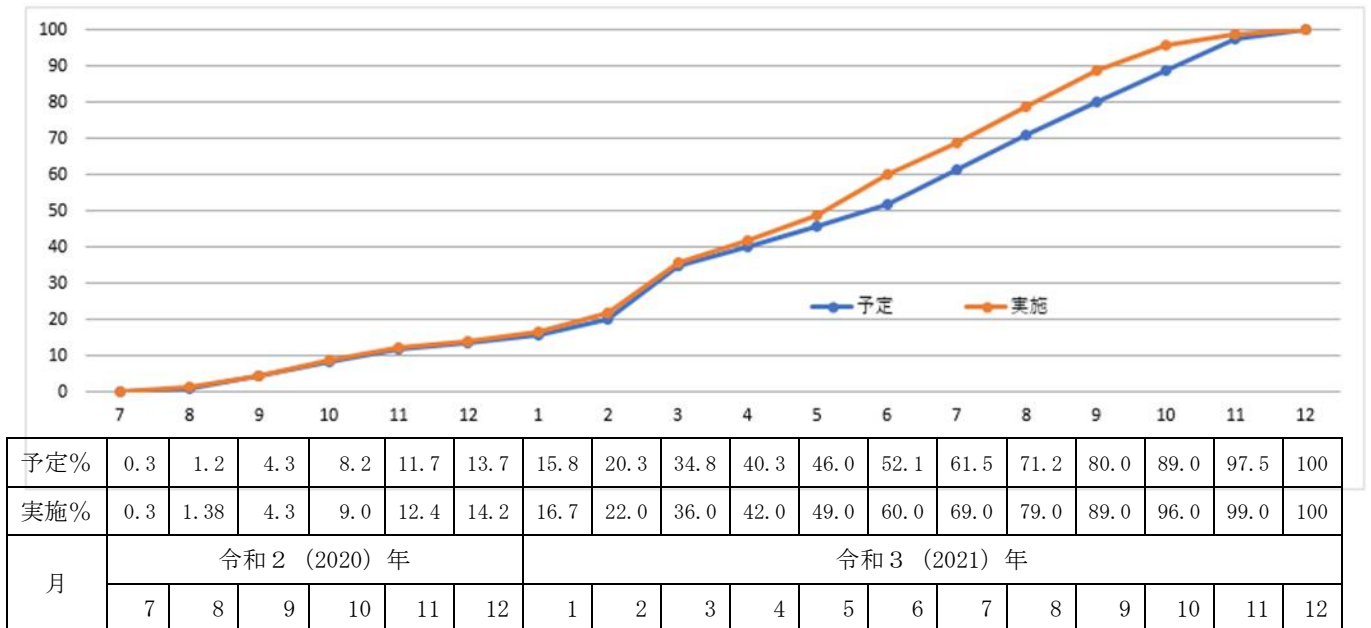
4. 「職務遂行上の能力」として、両学科に共通して、「主体性」、「傾聴力」「柔軟性」「状況

把握力」「規律性」「ストレスコントロール力」といった「チームで働く力」が重視されていた。自由記述の中には、対人援助職として感受性の低さが指摘されていた。組織の一員として、周囲の意見を聴き、規律を守り、状況を把握しながら主体的に医療福祉に取り組める能力を学生時代から育てられるよう、指導に取り組みたい。

5. 「面接時に注意してみる態度」として、両学科に共通して「服装・身なり・髪型」「話し方・言葉遣い」「話を聞くときの姿勢」「話しているときの姿勢」「顔の表情」が重視されていた。就職支援講座を通じて就職活動の基本的なマナーを身につけさせるとともに、学んだことを個々の学生が自信を持って実践できるよう、学科での個別指導を継続しておこなっていききたい。

表 8－1 岡山キャンパス工事 進捗状況

工期：令和 2（2020）年 6 月 1 日～令和 3（2021）年 12 月 31 日



令和 3 年（2021）年 4 月 7 日撮影



令和 3（2021）年 6 月 30 日撮影



令和 3（2021）年 9 月 15 日撮影



令和 3（2021）年 12 月 1 日撮影

令和 3（2021）年度主要行事

※ 学内会議（運営委員会・教授会・教職員会、各種委員会会議）は省略

令和 3 . 4 . 1	辞令交付式
〃	新入生オリエンテーション（～6）
3	入学式
6	新入生健康診断
10	川崎学園入学時合同研修（各施設で DVD 視聴）
5 . 22	オープンキャンパス
6 . 1	学園創立記念日
6 . 20	3 校合同オープンキャンパス
7 . 25	3 校合同オープンキャンパス
8 . 21	オープンキャンパス
9 . 22	前期末卒業証書・学位記授与式
27	総合型選抜入試一次審査通過者発表
10 . 9	総合型選抜入試二次審査
16	予約制来場型入試・進学相談会
17	オンライン学園祭
23	看護科継灯式
27	防災訓練
30	予約制来場型入試・進学相談会
11 . 1	総合型選抜入試合格発表
13	学校推薦型選抜前期入試
12 . 1	学校推薦型選抜前期入試合格発表
13	学校推薦型選抜後期入試 A 日程
14	学校推薦型選抜後期入試 B 日程
18	学校推薦型選抜後期入試合格発表
25	第 1 回キャンパスカミングデイ
令和 4 . 1 . 4	仕事始め
20	川崎学園防災の日
30	第 34 回介護福祉士国家試験
2 . 1	一般選抜前期入試 A 日程
2	一般選抜前期入試 B 日程
5	一般選抜前期入試合格発表
13	第 111 回看護師国家試験
16	在学生健康診断
17	新校舎棟竣工
18	新校舎棟へ引っ越し（～28）
3 . 10	一般選抜後期入試
15	一般選抜後期入試合格発表
〃	卒業証書・学位記授与式

18	第2回キャンパスカミングデイ
19	協会会評議員会
25	第111回看護師国家試験合格発表
〃	第34回介護福祉士国家試験合格発表
〃	新校舎棟学内見学会（学園職員対象）（～26）
27	3校合同オープンキャンパス

令和3（2021）年度教職員一覧

令和3（2021）年5月1日現在

教 員

（学長）秋山 祐治 （副学長・学生部長）新見 明子 （教務部長・図書館長）松本 明美				
	教 授	准教授	講 師	助 教
看護科	（主任）岡田 みどり 阿部 裕美 （学生部副部長）黒田 裕子 新見 明子 （副主任）林 千加子 （教務部副部長）榎本 朋子 松本 明美	太田 栄子 影本 妙子 掛屋 純子 日下 知子 熊野 一郎 福武 まゆみ 特任准教授 水畑 忍	伊藤 由加 糸島 弘和 沖田 聖枝 小淵 京子 重田 崇之 藤井 弓加 松本 佳代子 見尾 久美恵 三宅 映子	河畑 匡法 高橋 洋子 弘中 藍子 松尾 里奈 室井 望美 山本 直美 吉井 一恵
	（主任）山田 順子 特任教授 秋山 祐治 名木田恵理子 藤井 昌史	平口 鉄太郎	（副主任）居村 貴子 熊谷 佳余子	塩見 里紗 常国 良美

事務職員等

事 務 室	（事務長）田中 俊行 （課長）池田 貴子 （課長代理）藤澤 薫 （係長）大戸 知子 （副主任）石原 律子 （副主任）松若 貴志 （事務職員）足立 千夏 小池 香里 （事務員）藤井 恵子 （事務員・派遣）田中 都美 （用務員）守屋 清孝 濃邊 敏剛
図 書 館	（副主任）高津 浩子
機 械 室	（設備技術員）濱波 悟 （設備技術員）中桐 俊之
健康支援室	（校医）高尾 俊弘 （義援職員）山本 陽子
学生相談室	（非常勤学生相談員）武内 美保
このはな寮	（事務職員）植田 京子 久代 昌子 （管理人）小賀 功子 小野 美恵 坂東多恵子 山口 玲子 （管理人・派遣）朝倉 沢美 枝園 浩子 高下 京子 （管理人・派遣）福田 幸恵 山本美貴子 濃邊 京子

あ と が き

大学教育において内部質保証が重点化されて久しく、第2期認証評価において評価基準に内部質保証を検証する項目が設けられ、近年各大学が教育の改善改革を推しすすめています。本学においても、平成3（1991）年の中央審議会の答申を受けて、自己点検・評価の重要性を認識し、平成5（1993）年より教育研究水準の向上や活性化、責任を果たすべく自己点検・評価を行い教育の改善改革に取り組んでいます。

令和2（2020）年に受審した一般財団法人大学・短期大学基準協会による機関第3期認証評価においては、その内部質保証についても問われ、「自ら掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗している」と高い評価を受けて適格認定を受けました。この受審を機会に令和3（2021）年度から本学の自己点検・評価は2年毎の実施から毎年の実施とし、点検評価・結果をタイムリーに改善につなげる努力をしています。そのため、有効なデータ活用を実践していくためにIR室と点検評価委員会をはじめ各委員会との連携強化を進めています。報告書は認証評価の評価基準に則した内容を踏まえて、「大学の基本方針」、「教育課程の点検と改善」、「学生の受け入れ」、「学生支援」、「教員・教員組織」、「社会連携・社会貢献」、「内部質保証」、「管理運営」の各項目を掲げて点検・評価し「現状」、「課題」、「改善への方策」と充実を図っています。

昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症の感染拡大による教育活動の制限に対する工夫や改善を随所に求められた1年でした。加えて、岡山キャンパス移転の準備や両学科のカリキュラム改正に向けた教育プログラムの構築や新カリキュラムの開始など多くの課題に対応した年でもありました。そのような中、「学びの質を下げない」という大学の方針のもと、平常の教育水準を落とさない努力に其々の教職員が邁進致しました。

私共は、これからも大学の理念のもと社会の要請に応えうる医療福祉人材の育成に向けて、引き続き内部質保証に務めて参る所存です。最後になりますが、本報告書の作成に携わっていただいた教職員並びに関係者の方々に感謝申し上げます。

令和4（2022）年12月1日

川崎医療短期大学
副学長 新 見 明 子

自己点検・評価報告書

令和3（2021）年度

発行日 令和4（2022）年12月
編集 川崎医療短期大学点検評価委員会
発行 川崎医療短期大学
〒700-0821 岡山県岡山市北区中山下二丁目1番70号
TEL 086-201-5333 FAX 086-201-5676
ホームページ <https://j.kawasaki-m.ac.jp>